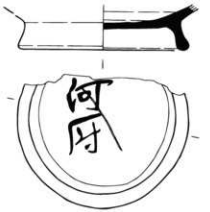
平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書



２０１０

水戸市教育委員会

平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

２０１０

水戸市教育委員会

大串遺跡（第 8 地点）第 1 号住居跡遺物検出状況

荷鞍坂遺跡（第 1 地点）円墳周溝検出状況

赤塚遺跡（第 4 地点）先土器時代剥片

軍民坂遺跡（第 3 地点）「河厨」銘墨書須恵器有台坏

大鋸町遺跡（第 6 地点）弥生土器壷

台渡里遺跡（35 次）「厨□」銘墨書須恵器無台坏

水戸城跡（第 15 次）軒桟瓦

水戸城跡（第 14 次）色絵蝶に花菖蒲文長皿

ごあいさつ

歴史的文化遺産のひとつである埋蔵文化財は，工事や開発などにより一度破壊されると二度と原状に復すことができないため，私たちが大切に保存しながら後世へ伝えていかなければならない貴重な財産です。近年の大規模開発等による都市化の様相が強まる中で，埋蔵文化財の現状保存は非常に困難になりつつありますが，本市においてもその意義や重要性を踏まえ，文化財保護法及び関係法令に基づいた保護保存に努めているところです。

本書は，平成 19 年度に水戸市内において実施した国・県費補助による試掘・確認調査，本発掘調査，立会調査の報告書です。

平成 19 年度に実施した試掘・確認調査は実に 64 件に及び，個人住宅建築に伴う記録保存を目的とした本発掘調査は 3 件実施しており，県内でもトップクラスの件数といえます。本書には，これらの調査によって得られた先土器時代から江戸時代に及ぶ数々の興味深い成果を盛り込みました。

赤塚遺跡では，先土器時代に遡ると考えられる石器が数点出土するとともに縄文時代の土坑群や古墳時代中期の竪穴住居跡が数軒確認されました。

荷鞍坂遺跡では，円筒埴輪や形象埴輪を伴う円墳の周溝が確認され，酒門台古墳群を構成する古墳が広く台地上に展開していたことが明らかとなりました。

軍民坂遺跡では，遺物包含層から須恵器の有台坏の底裏に「河厨」と墨書きされたものが出土しました。当遺跡は奈良・平安時代には常陸国那賀郡河内郷に位置しており，近隣には河内駅家があったことから，河内駅家もしくは郷内に厨家に関連する施設が存在したことを示唆する興味深い文字資料です。

町付遺跡では，古代常陸国那賀郡衙である台渡里廃寺跡（長者山地区）と那賀郡衙の別院とみられる大串遺跡（第 7 地点）を結ぶ連絡道とみられる直線道路が確認されました。

水戸城跡では，旧弘道館の敷地内において近世の遺構が確認され，七面製陶所産の陶器や旧弘道館に葺かれていた瓦が多数出土し，近世水戸城の空間利用のあり方が明らかとなってきました。

それぞれの調査面積・期間はささやかなものですが，その成果を一つ一つ積み重ねることにより，水戸の歴史をより豊かなものにし，「歴史都市・水戸」にふさわしい，郷土の歴史的景観を活かしたまちづくりの一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが，調査に当たり多大な御理解と御協力をいただきました事業者・土地所有者の皆様，並びに種々の御指導・御助言をいただきました文化庁記念物課，茨城県教育庁文化課，水戸市史跡等整備検討専門委員の皆様方に心から感謝を申し上げます。そしてここに刊行する本書が，かけがえのない郷土の文化財に対する意識の高揚と，学術研究等の資料として，広く御活用いただけることを期待し，ごあいさつといたします。

平成 22 年 3 月

水戸市教育委員会
教育長　鯨岡　武

例　言

1. 本書は平成 19 年度に国・県費の補助を受けて水戸市教育委員会が直営事業として実施した水戸市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査対象となった遺跡は，下記のとおりである。
赤塚遺跡・圷遺跡・有賀宿遺跡・池上遺跡・薄内遺跡・大串遺跡・大塚新地遺跡・大銀町遺跡・加倉井原遺跡・蔵田千軒遺跡・軍民坂遺跡・下遠田遺跡・小林遺跡・三本松古墳群・下荒句遺跡・下本郷遺跡・宿西遺跡・新田遺跡・台渡里遺跡・滝源北遺跡・東照宮境内遺跡・遠台遺跡・長嶋遺跡・南台遺跡・荷鞍坂遺跡・西原古墳群・東組遺跡・東割遺跡・開江宿遺跡・舞台遺跡・文京 2 丁目遺跡・堀遺跡・町付遺跡・水戸城跡・南仲坪遺跡・宮西遺跡・向原遺跡・元石川大谷原遺跡・谷田古墳群・横宿遺跡・米沢町遺跡・竜間遺跡・若林遺跡・渡里町遺跡
3. 上記の遺跡のほかに，国指定史跡「吉田古墳」，茨城県指定史跡「台渡里廃寺跡（長者山地区）」および大串遺跡（第 7 地点），七面製陶所跡，日新塾跡において，保存目的の確認調査を行ったが，吉田古墳については，『吉田古墳Ⅲ　―史跡整備計画に伴う吉田古墳群第 1 号墳の第 4・5 次発掘調査報告書』に調査成果を掲載している。台渡里廃寺跡（長者山地区），大串遺跡（第 7 地点），七面製陶所跡，日新塾跡については，平成 20 年度以降も継続して確認調査を行うため，これらの調査成果については，平成 21 年度以降に刊行を予定している正式報告書において公表する。
4. 調査にあたった組織は以下のとおりである。

（平成 19 年度）

調査担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係文化財主事
	関口慶久	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係文化財主事
	新垣清貴	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
	渥美賢吾	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
	木本挙周	水戸市教育委員会文化振興課文化振興係埋蔵文化財専門員
事務局	鯨岡　武	水戸市教育委員会教育長
	小澤邦夫	水戸市教育委員会教育次長
	仲田　立	水戸市教育委員会文化振興課長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会文化振興課文化財係長
	緑川義規	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事

（平成 20 年度）

整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園文化財主事
	色川順子	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員
事務局	鯨岡　武	水戸市教育委員会教育長
	内田秀泰	水戸市教育委員会教育次長
	仲田　立	水戸市教育委員会文化振興課長
	中里誠志郎	水戸市教育委員会文化振興課長補佐
	宮崎賢司	水戸市教育委員会文化振興課文化財係長
	萩谷慎一	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主査
	緑川義規	水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事
	関口慶久	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
	渥美賢吾	水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事
	金子千秋	水戸市教育委員会文化振興課文化財係埋蔵文化財専門員
	五上義隆	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長
	飛田邦夫	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員
	山戸祐子	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員
	大津郁子	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員

（平成 21 年度）

整理担当者	川口武彦	水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園文化財主事

色川順子　水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員

事務局　鯨岡　武　水戸市教育委員会教育長

内田秀泰　水戸市教育委員会教育次長

中里誠志郎　水戸市教育委員会文化振興課長

五上義隆　水戸市教育委員会文化振興課長補佐

萩谷慎一　水戸市教育委員会文化振興課文化財係長

緑川義規　水戸市教育委員会文化振興課文化財係主事

関口慶久　水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事

渥美賢吾　水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事

米川暢敬　水戸市教育委員会文化振興課文化財係文化財主事

金子千秋　水戸市教育委員会文化振興課文化財係埋蔵文化財専門員

宮崎賢司　水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園所長

山戸祐子　水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園嘱託員

大津郁子　水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員

荒蒔周平　水戸市教育委員会文化振興課大串貝塚ふれあい公園埋蔵文化財専門員

5. 発掘調査と整理作業には以下の者が参加した。

発掘調査参加者

中尾麻由実（筑波大学大学院人文社会科学研究科大学院生），岡見知紀（東京学芸大学学部生），石川　勉，石崎寿子，石崎洋子，榎澤由紀江，海老原四郎，岡野政雄，小野瀬智工，小山司農夫，加藤利男，川又恵美子，河原井俊吉郎，黒須秀昭，久保木きよ子，久保田馨，栗原芳子，鈴木潤一，高柳悦子，高安幸且，飛田とし子，冨田　仁，中山忠雄，野原　猛，花田繁二郎，廣水一真，福原雅美，三浦健太，皆川明子，皆川幸子，村上巧兒，矢ノ倉史夫，山崎武司，渡辺恵子

整理作業参加者

安島町子，飯田貴代子，小澤弥代，柏千枝子，斉藤千左乃，杉崎明美，鈴木加代子，須藤裕美，田上雪枝，橋本祥子，人見よね子，平根真由美，広瀬文子，深澤貞子，三浦悦子

6. 本書の執筆は各調査担当者が分担して行ない，全体の編集には川口・色川があたった。出土遺物については図化および観察表作成，解説文執筆を色川・川口が担当し，石器および奈良・平安時代の遺物解説文執筆については川口と渥美が，中・近世の遺物解説文執筆については関口が補佐した。水戸城跡出土の近世瓦については，木本挙周氏（牛久市教育委員会生涯学習課非常勤特別学芸員）に解説文執筆をお願いした。執筆分担はそれぞれ文末に明記した。

7. 本書に関わる資料は，水戸市教育委員会が保管している。

8. 遺構の写真撮影は調査担当者が行い，遺物の写真撮影は川口が行った。

9. 発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の方々・諸機関より御指導・御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第です（五十音順・敬称略）。

【個人】　青山俊明，荒井秀規，飯島一生，石川　功，稲田健一，井上説子，今尾文昭，大塚初重，大橋泰夫，大森隆志，岡本東三，川崎純徳，川尻秋生，河野一也，瓦吹　堅，黒澤彰哉，小圷のり子，越川欣和，小杉山大輔，後藤一成，後藤孝行，後藤道雄，斎藤弘道，坂井秀弥，佐々木義則，鈴木素行，清野孝之，曽根俊雄，高島英之，田中　裕，長谷川　聡，畑野経夫，日高　慎，吹野富美夫，松本太郎，水野順敏，三井　猛，宮内良隆，山路直充，山中菊乃，山中敏史，横倉要次，吉村武彦

【機関】　文化庁文化財部記念物課，伊藤平左衛門事務所，茨城県教育庁文化課，茨城県偕楽園弘道館事務所，株式会社日本窯業史研究所，明治大学古代学研究所，有限会社三井考測，株式会社浦井工務店，萩谷建設株式会社，東新建設株式会社，株式会社キガ

凡　例

1. 遺構平面図・断面図の縮尺は統一していない。縮小率は各図面に示したスケールを参照願いたい。

2. 遺跡の位置図のうち，第1図は川口が（茨城県教育委員会編　2001 『茨城県遺跡地図』）をスキャナーを用いて読み込んだ画像をデジタルトレースし，1:60, 000の大きさに縮小したものである。個別の遺跡位置図は，（井上・夢沼・仁平・根本　1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書　平成10年度版』水戸市教育委員会）および（細谷・佐藤・川井・根本・

市毛　1994『内原町の遺跡―内原町遺跡分布調査報告書―』内原町史編さん委員会）の地図をスキャナーで読み込み，画像としたものに加筆した。
4. 水戸城跡（第13・15次調査）の調査位置図は，茨城県弘道館事務所から委託を受けて測量調査を実施した有限会社三井考測により作成された遺跡調査測量図を使用させていただいた。
5. 遺構断面図及び土層堆積図の標高は，その都度図中に示している。
6. 本書中の色調に関する表現は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 2005年版）に従った。
7. 引用・参考文献は，一括して本書の最後に提示した。
8. 表紙に使用した遺物の実測図は，軍民坂遺跡（第3地点）出土の墨書土器である。実測及び浄書は色川が行った。

目　次

あいさつ
例言・凡例・目次

第1章　平成19年度の発掘調査と概要・・1

第2章　開発に伴う試掘調査
2―1　赤塚遺跡（第4地点）・・・10
2―2　薄内遺跡（第1地点）・・・14
2―3　大串遺跡（第8地点）・・・15
2―4　大塚新地遺跡（第2地点）・・17
2―5　大塚新地遺跡（第5地点）・・18
2―6　大銀町遺跡（第6地点）・・・19
2―7　大銀町遺跡（第7地点）・・・22
2―8　大銀町遺跡（第8地点）・・・23
2―9　加倉井原遺跡（第4地点）・・25
2―10　蔵田千軒遺跡（第2地点）・・・26
2―11　軍民坂遺跡（第3地点）・・・28
2―12　下荒句遺跡（第4地点）・・・30
2―13　下荒句遺跡（第5地点）・・・32
2―14　周知外（藤井町地内）・・・32
2―15　新田遺跡（第1地点）・・34
2―16　台渡里遺跡（第34次）・・・36
2―17　台渡里遺跡（第35次）・・・37
2―18　台渡里遺跡（第40次）・・・40
2―19　東照宮境内遺跡（第1地点）・・41
2―20　長嶋遺跡（第2地点）・・42
2―21　荷鞍坂遺跡（第1地点）・・・43
2―22　西原古墳群（第13地点）・・45
2―23　東組遺跡（第1地点）・・47
2―24　開江宿遺跡（第1地点）・・・49
2―25　舞台遺跡（第4地点）・・50
2―26　堀遺跡（第11地点）・・・51
2―27　堀遺跡（第12地点）・・・52
2―28　町付遺跡（第1地点）・・55
2―29　水戸城跡（第10次）・・・56
2―30　水戸城跡（旧弘道館）（第13・15次）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
2―31　元石川大谷原遺跡（第1地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68

2－32　若林遺跡（第２地点）・・69
2－33　渡里町遺跡（第４地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
2－34　渡里町遺跡（第７地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

第３章　個人住宅建築に伴う本発掘調査

3－1　大串遺跡（第８地点）・・72
3－2　大銀町遺跡（第７地点）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

第４章　開発に伴う工事立会調査

4－1　周知外（城東３丁目179番地）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
4－2　水戸城跡（14次）・・85

引用・参考文献・・93

図版目次

第１図　調査対象となった遺跡の位置・・・・・・・・・・・4
第２図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（1）・・・・5
第３図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（2）・・・・6
第４図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（3）・・・・7
第５図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（4）・・・・8
第６図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（5）・・・・9
第７図　赤塚遺跡（第４地点）の位置・・・・・・・・・・10
第８図　赤塚遺跡（第４地点）のトレンチ配置・・・・・・11
第９図　赤塚遺跡（第４地点）出土遺物（1）・・・・・・12
第10図　赤塚遺跡（第４地点）出土遺物（2）・・・・・・13
第11図　薄内遺跡（第１地点）の位置・・・・・・・・・・14
第12図　薄内遺跡（第１地点）のトレンチ配置・・・・・・15
第13図　大串遺跡（第８地点）の位置・・・・・・・・・・15
第14図　大串遺跡（第８地点）のトレンチ配置・・・・・・16
第15図　大串遺跡（第８地点）トレンチ１遺構検出状況・・16
第16図　大塚新地遺跡（第２・5地点）の位置・・・・・・17
第17図　大塚新地遺跡（第２地点）のトレンチ配置・・・・17
第18図　大塚新地遺跡（第５地点）のトレンチ配置・・・・18
第19図　大塚新地遺跡（第５地点）出土遺物・・・・・・18
第20図　大銀町遺跡（第６地点）の位置・・・・・・・・・19
第21図　大銀町遺跡（第６地点）のトレンチ配置・・・・・20
第22図　大銀町遺跡（第６地点）出土遺物・・・・・・・21
第23図　大銀町遺跡（第７・8地点）の位置・・・・・・・22
第24図　大銀町遺跡（第７地点）のトレンチ配置・・・・・23
第25図　大銀町遺跡（第８地点）のトレンチ配置・・・・・24
第26図　加倉井原遺跡（第４地点）の位置・・・・・・・26
第27図　加倉井原遺跡（第４地点）のトレンチ配置・・・・26
第28図　蔵田千軒遺跡（第２地点）の位置・・・・・・・26
第29図　蔵田千軒遺跡（第２地点）のトレンチ配置・・・・27
第30図　蔵田千軒遺跡（第２地点）のトレンチ内遺構検出状況・・・27
第31図　蔵田千軒遺跡（第２地点）出土遺物・・・・・・27
第32図　軍民坂遺跡（第３地点）の位置・・・・・・・・28
第33図　軍民坂遺跡（第３地点）のトレンチ配置・・・・28
第34図　軍民坂遺跡（第３地点）トレンチ１・・・・・・28
第35図　軍民坂遺跡（第３地点）出土遺物・・・・・・・・29
第36図　下荒句遺跡（第４地点）の位置・・・・・・・・30
第37図　下荒句遺跡（第４地点）のトレンチ配置・・・・30
第38図　下荒句遺跡（第４地点）出土遺物・・・・・・・30
第39図　下荒句遺跡（第４地点）トレンチ３堀跡検出状況・土層断面・・・31
第40図　下荒句遺跡（第５地点）の位置・・・・・・・・32
第41図　下荒句遺跡（第５地点）のトレンチ配置・・・・32
第42図　下荒句遺跡（第５地点）出土遺物・・・・・・・32
第43図　周知外（藤井町地内）の位置・・・・・・・・・33
第44図　周知外（藤井町地内）のトレンチ配置・・・・・・33
第45図　周知外（藤井町地内）出土遺物・・・・・・・・33
第46図　新田遺跡（第１地点）の位置・・・・・・・・・34
第47図　新田遺跡（第１地点）のトレンチ配置・・・・・・34
第48図　新田遺跡（第１地点）トレンチ２・5遺構検出状況・・・・35
第49図　台渡里遺跡（第34・35・40次）の位置・・・・・36
第50図　台渡里遺跡（第34次）のトレンチ配置・・・・・37
第51図　台渡里遺跡（第35次）のトレンチ配置・・・・・38
第52図　台渡里遺跡（第35次）出土遺物・・・・・・・・39
第53図　台渡里遺跡（第40次）のトレンチ配置・・・・・40
第54図　東照宮境内遺跡（第１地点）の位置・・・・・・41
第55図　東照宮境内遺跡（第１地点）のトレンチ配置・・・41
第56図　長嶋遺跡（第２地点）の位置・・・・・・・・・42
第57図　長嶋遺跡（第２地点）のトレンチ配置・・・・・42
第58図　長嶋遺跡（第２地点）出土遺物・・・・・・・・42
第59図　荷鞍坂遺跡（第１地点）の位置・・・・・・・・43
第60図　荷鞍坂遺跡（第１地点）のトレンチ配置・・・・・44
第61図　西原古墳群（第13地点）の位置・・・・・・・・45
第62図　西原古墳群（第13地点）のトレンチ配置と隣接古墳の位置関係・・・46
第63図　西原古墳群（第13地点）出土遺物・・・・・・・47
第64図　東組遺跡（第１地点）の位置・・・・・・・・・47

第65図　東組遺跡（第1地点）のトレンチ配置・・・・・・48
第66図　開江宿遺跡（第1地点）の位置・・・・・・・・49
第67図　開江宿遺跡（第1地点）のトレンチ配置・・・・・50
第68図　舞台遺跡（第4地点）の位置・・・・・・・・・50
第69図　舞台遺跡（第4地点）のトレンチ配置・・・・・・51
第70図　舞台遺跡（第4地点）出土遺物・・・・・・・・51
第71図　堀遺跡（第11・12地点）の位置・・・・・・・・51
第72図　堀遺跡（第11地点）のトレンチ配置と遺構検出状況・・・・・・52
第73図　堀遺跡（第12地点）のトレンチ配置と遺構検出状況・・・・・・53
第74図　町付遺跡（第1地点）の位置・・・・・・・・・55
第75図　町付遺跡（第1地点）のトレンチ配置・・・・・・55
第76図　水戸城跡（第10次）の位置・・・・・・・・・・56
第77図　水戸城跡（第10次）のトレンチ配置・・・・・・57
第78図　水戸城跡（第10次）トレンチ1・2平面・土層断面・・・・・・58
第79図　水戸城跡（第10次）出土遺物・・・・・・・・・58
第80図　水戸城跡（第13・15次）の位置・・・・・・・・60
第81図　水戸城跡（第13・15次）調査区の位置・・・・・61
第82図　水戸城跡（第13次）トレンチ内遺構配置・土層断面・・・・・62
第83図　水戸城跡（第13・15次）出土遺物（1）・・・・・64
第84図　水戸城跡（第13・15次）出土遺物（2）・・・・・65
第85図　水戸城跡（第13・15次）出土遺物（3）・・・・・66
第86図　元石川大谷原遺跡（第1地点）のトレンチ配置・・・68
第87図　若林遺跡（第2地点）の位置・・・・・・・・・・69
第88図　若林遺跡（第2地点）のトレンチ配置・・・・・・69
第89図　渡里町遺跡（第4・7地点）の位置・・・・・・・70
第90図　渡里町遺跡（第4地点）のトレンチ配置・・・・・70
第91図　渡里町遺跡（第7地点）のトレンチ配置・・・・・71
第92図　大串遺跡（第8地点）の位置・・・・・・・・・・72
第93図　大串遺跡（第8地点）第1号住居跡・・・・・・72
第94図　大串遺跡（第8地点）出土遺物・・・・・・・・73
第95図　大銀町遺跡（第7地点）の位置・・・・・・・・74
第96図　大銀町遺跡（第7地点）の遺構配置と1～3号遺構土層断面・・・75
第97図　大銀町遺跡（第7地点）5～8号遺構・1号遺構ピット土層断面・・・76
第98図　大銀町遺跡（第7地点）1号遺構ピット土層断面・立面・・・・・・77
第99図　大銀町遺跡（第7地点）出土遺物（1）・・・・・・79
第100図　大銀町遺跡（第7地点）出土遺物（2）・・・・・80
第101図　買知外（城東3丁目179番地）立会調査地点の位置・・・・・・84
第102図　買知外（城東3丁目179番地）立会調査出土遺物・・・・・・84
第103図　水戸城跡（第14次）立会調査地点の位置・・・・・85
第104図　水戸城跡（第14次）立会調査出土遺物・・・・・86

写真目次

写真1　トレンチ7縄文時代土坑群（北から）・・・・・・12
写真2　トレンチ6竪穴住居跡（西から）・・・・・・・・12
写真3　トレンチ6東端溝跡（南から）・・・・・・・・・12
写真4　トレンチ1遺構検出状況（西から）・・・・・・・16
写真5　トレンチ1遺構検出状況（東から）・・・・・・・16
写真6　トレンチ1第1号住居跡検出状況（北から）・・・21
写真7　トレンチ1第1号溝跡検出状況（北から）・・・・21
写真8　トレンチ3第5号住居跡検出状況（南から）・・・・22
写真9　トレンチ5第2号住居跡検出状況（西から）・・・・22
写真10　トレンチ1遺構検出状況（南から）・・・・・・・25
写真11　トレンチ2溝跡検出状況（南から）・・・・・・・25
写真12　トレンチ3遺構検出状況（南から）・・・・・・・25
写真13　トレンチ4遺構検出状況（西から）・・・・・・・25
写真14　トレンチ3堀跡検出状況（東から）・・・・・・・31
写真15　トレンチ3堀跡断面（東から）・・・・・・・・・31
写真16　トレンチ2炉穴・集石検出状況（北から）・・・・・35
写真17　トレンチ5炉穴検出状況（南から）・・・・・・・35
写真18　1区掘削状況（西から）・・・・・・・・・・・・39
写真19　5区溝跡検出状況（南東から）・・・・・・・・・39
写真20　4区ピット群検出状況（西から）・・・・・・・・39
写真21　円墳周溝検出状況（西から）・・・・・・・・・・45
写真22　隣接地古墳墳丘（南東から）・・・・・・・・・・45
写真23　トレンチ2性格不明土坑検出状況（南東から）・・・48
写真24　トレンチ5竪穴住居跡検出状況（西から）・・・・・48
写真25　トレンチ2-002号遺構調査状況（西から）・・・・・52
写真26　トレンチ2-001号遺構検出状況（西から）・・・・・52
写真27　トレンチ2遺構検出状況（北東から）・・・・・・54
写真28　トレンチ2遺構検出状況（西から）・・・・・・・54
写真29　トレンチ2畝状遺構検出状況（西から）・・・・・・54
写真30　トレンチ2道路状遺構検出状況（南から）・・・・・55
写真31　トレンチ3竪穴住居跡検出状況（西から）・・・・・55
写真32　トレンチ1遠景（南から）・・・・・・・・・・・59
写真33　トレンチ1遺構検出状況（東から）・・・・・・・59
写真34　トレンチ1-Pit1土層断面（南から）・・・・・・・59
写真35　トレンチ1-Pit2土層断面（南から）・・・・・・・59
写真36　トレンチ1-Pit3土層断面（南から）・・・・・・・59
写真37　トレンチ2遺構検出状況（西から）・・・・・・・59
写真38　1号遺構完掘状況（西から）・・・・・・・・・・63
写真39　2号遺構完掘状況（南から）・・・・・・・・・・63
写真40　3号遺構完掘状況（西から）・・・・・・・・・・63
写真41　4号遺構完掘状況（東から）・・・・・・・・・・63
写真42　5号遺構完掘状況（西から）・・・・・・・・・・63
写真43　第1号住居跡遺物検出状況（東から）・・・・・・74
写真44　第1号住居跡遺物検出状況（南から）・・・・・・74
写真45　炉跡土層断面（西から）・・・・・・・・・・・・74
写真46　第1号住居跡土層断面（東から）・・・・・・・・74

写真 47　1 号遺構検出状況（南東から）・・・・・・・・・82
写真 48　1 号遺構土層断面（西から）・・・・・・・・・・82
写真 49　1 号遺構土層断面近景（西から）・・・・・・・・・82
写真 50　1 号遺構西壁土層断面（東から）・・・・・・・・・82
写真 51　1 号遺構西壁土層断面近景（東から）・・・・・・・82
写真 52　1 号遺構完掘状況（東から）・・・・・・・・・・82
写真 53　1 号遺構完掘状況（南東から）・・・・・・・・・・82
写真 54　1 号遺構 P3 土層断面（西から）・・・・・・・・・82
写真 55　1 号遺構 P5 土層断面（東から）・・・・・・・・・83
写真 56　1 号遺構 P32 土層断面（東から）・・・・・・・・・83
写真 57　1 号遺構 P33 土層断面（東から）・・・・・・・・・83
写真 58　2 号遺構土層断面（西から）・・・・・・・・・・83
写真 59　3 号遺構土層断面（東から）・・・・・・・・・・83
写真 60　4 号遺構土層断面（東から）・・・・・・・・・・83
写真 61　6 号遺構土層断面（南東から）・・・・・・・・・・83
写真 62　8 号遺構土層断面（南東から）・・・・・・・・・・83

表目次

第 1 表　開発に伴う試掘・確認調査一覧・・・・・・・・・・1
第 2 表　個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧・・・・・・・・3
第 3 表　開発に伴う工事立会調査一覧・・・・・・・・・・3
第 4 表　大串遺跡（第 8 地点）出土遺物総量・・・・・・・73
第 5 表　大鋸町遺跡（第 7 地点）土坑・ピット一覧・・・・・78
第 6 表　大鋸町遺跡（第 7 地点）出土遺物総量・・・・・・81
第 7 表　土器・陶磁器・瓦観察表・・・・・・・・・・・・87
第 8 表　石器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・92
第 9 表　鉄器・鉄滓観察表・・・・・・・・・・・・・・・92

第１章　平成 19 年度の発掘調査と概要

平成 19 年度の水戸市内遺跡発掘調査は，46 遺跡（周知外２地点含む）66 地点がその対象となった。その内訳は，開発に係わる試掘・確認調査 64 件であった。

開発に係わる試掘調査では，18 遺跡 25 地点で遺構が検出され，25 遺跡 34 地点で遺物が出土した（第１表・第２表）。これらのうち，61 件については，事業計画と試掘・確認調査によって得られた成果を比較したところ，工事を実施した場合の遺跡への影響が軽微であると判断されたため，工事立会あるいは，慎重工事の扱いとなり，本調査の実施が必要であると判断されたものは３件であった。

本調査の対象となった３件のうち，台渡里遺跡（第 34 次）については，検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており，１冊の報告書として刊行すべき内容であることから，本書では第２表に調査の概要のみを記し，詳細については別途，刊行を予定している報告書に収録する。大串遺跡（第８地点）と大谷町遺跡（第７地点）の調査成果については本書に収録した。また，工事立会の扱いとなり，立会調査の際に遺物が出土した地点が３箇所ある（第３表）。遺構・遺物が検出されなかった遺跡（地点）の詳細な位置は第２～６図のとおりである。

第１表　開発に伴う試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積（㎡）	調査担当者	遺構	遺物
1	赤塚遺跡（第４地点）	河和田３丁目 2542-1 外	1 次　12 月 18 日～ 19 日 2 次　1 月 15 日～ 16 日	宅地造成工事	177.0	川口武彦，新垣清貴	○	○
2	上遺跡（第７地点）	河和田１丁目 1610-2	5 月 8 日	個人住宅建築	3.0	新垣清貴	—	—
3	有賀遺跡（第１地点）	有賀町 1270	6 月 4 日	個人住宅建築	3.0	関口慶久	—	—
4	池上遺跡（第１地点）	大塚町字池上 1958-8	11 月 1 日	宅地造成工事	33.0	新垣清貴	—	—
5	薄内遺跡（第１地点）	六反田町字薄内 861-2	9 月 27 日	通信基地局建築	36.0	新垣清貴	○	○
6	大串遺跡（第８地点）	塩崎町字原 1077-3	4 月 27 日	個人住宅建築	33.15	川口武彦	○	○
7	大塚新地遺跡（第２地点）	大塚町 544-6	4 月 19 日	個人住宅建築	28.35	新垣清貴	—	△
8	大塚新地遺跡（第３地点）	大塚町 544-7	5 月 21 日	個人住宅建築	2.0	新垣清貴	—	—
9	大塚新地遺跡（第４地点）	大塚町 544-8	6 月 20 日	個人住宅建築	8.0	新垣清貴	—	—
10	大塚新地遺跡（第５地点）	大塚町 544-1	6 月 20 日	個人住宅建築	9.5	新垣清貴	—	△
11	大谷町遺跡（第６地点）	元吉田町 2338-1	10 月 2 日～ 3 日	宅地造成工事	167.5	新垣清貴	○	○
12	大谷町遺跡（第７地点）	元吉田町 2350-2	11 月 19 日	個人住宅建築	22.2	新垣清貴	○	○
13	大谷町遺跡（第８地点）	元吉田町 2349-1，2350-1，2351	2 月 25 日～ 26 日	宅地造成工事	116.8	関口慶久，新垣清貴	○	○
14	加倉井原遺跡（第３地点）	加倉井町字原 1363	7 月 26 日	個人住宅建築	8.0	新垣清貴	—	—
15	加倉井原遺跡（第４地点）	加倉井町 1319-1	11 月 27 日	個人住宅建築	8.0	新垣清貴	—	△
16	蔵田千軒遺跡（第２地点）	酒泉町字九ノ割 6002-2	9 月 21 日	個人住宅建築	11.45	新垣清貴	○	○
17	堀民取遺跡（第３地点）	上国井町字南台 3667-1	1 月 17 日～ 18 日	個人住宅建築	6.0	新垣清貴	○	○
18	下遠田遺跡（第１地点）	五平町 318-1，323-1	7 月 18 日	個人住宅建築	6.5	新垣清貴	—	—
19	小林遺跡（第３地点）	小林町字粗崎 1509-2	8 月 1 日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
20	二本松古墳群（第２地点）	田島町字将巻 372-4	12 月 11 日	個人住宅建築	9.0	川口武彦，新垣清貴	—	—
21	下兵句遺跡（第３地点）	双葉台４丁目 243-107，110	4 月 18 日	個人住宅建築	7.0	新垣清貴	—	—
22	下兵句遺跡（第４地点）	双葉台４丁目 238	11 月 19 日	個人住宅建築	39.0	関口慶久	○	△
23	下兵句遺跡（第５地点）	双葉台４丁目 243-92 外	12 月 25 日	個人住宅建築	6.0	川口武彦，新垣清貴	—	△

24	下本郷遺跡（第2地点）	千波町字東久保 14-19	2月22日	個人住宅建築	4.0	川口武彦	—	—
25	国知所（藤井町地内）	藤井町字南駒形 1946	9月28日	通信基地局建設	24.0	新垣清貴	—	△
26	宿西遺跡（第2地点）	酒瀬町 3095-1，3093-1	8月1日	個人住宅建築	4.5	新垣清貴	—	—
27	新田遺跡（第1地点）	全開町 1366-1	8月27日～8月30日	汚水槽建設	8.0	川口武彦	○	○
28	新田遺跡（第2地点）	全開町 1366-1	8月28日～8月30日	道路建設	1.0	川口武彦	—	—
29	台渡里遺跡（第34次）	渡里町字宿屋敷 3028-8	4月4日～4月5日	個人住宅建築	98.24	川口武彦，渥美賢吾	○	○
30	台渡里遺跡（第35次）	渡里町 2812-1 ～3011	5月27日～5月28日	公共下水道管埋設	18.0	新垣清貴	○	○
31	台渡里遺跡（第40次）	渡里町字狸久保 2771-12	3月19日	個人住宅建築	24.71	川口武彦	○	—
32	滝瀬北遺跡（第1地点）	酒瀬町字一ノ割 901-1，903-1，904-2	9月21日	個人住宅建築	37.0	新垣清貴	—	—
33	東照宮境内遺跡（第1地点）	宮町 2-4	1次　9月14日 2次　10月17日	マンション建築	99.5	渥美賢吾，関口慶久	—	△
34	遠台遺跡（第2地点）	柑崎町 2102	7月30日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
35	遠台遺跡（第3地点）	中原町 737-8	3月17日	個人住宅建築	3.6	川口武彦，新垣清貴	—	—
36	長崎遺跡（第2地点）	大足町 1044-1 外	2月21日	個人住宅兼店舗建築	45.0	川口武彦	—	△
37	南台遺跡（第1地点）	上国井町 4150	4月14日	個人住宅建築	14.25	新垣清貴，関口慶久	—	—
38	荒梅坂遺跡（第1地点）	酒門町 242-1	8月27日～8月28日	コンビニエンスストア建築	220.5	新垣清貴，渥美賢吾	○	○
39	西原古墳群（第13地点）	渡里町字野木 3370-6，3370-7	2月28日	個人住宅建築	21.88	川口武彦，渥美賢吾	○	○
40	東原遺跡（第1地点）	元吉田町 379-1 外	1次　2月19日～2月20日 2次　3月12日	物販店舗建築	497.0	川口武彦，新垣清貴，木本平周	○	○
41	東別遺跡（第10地点）	東野町字北割 59-5，59-6	5月14日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
42	東別遺跡（第11地点）	東野町 118-5	5月14日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
43	開江原遺跡（第1地点）	開江町字宮久保 1219-3	7月5日	個人住宅建築	10.5	新垣清貴	—	○
44	開江原遺跡（第2地点）	開江町字長田 1690	11月2日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
45	舞台遺跡（第4地点）	三湖町 86-2	9月28日	通信基地局建設	21.25	新垣清貴	○	○
46	文京2丁目遺跡（第1地点）	文京2丁目 1986	7月27日	個人住宅建築	39.0	関口慶久	—	—
47	堀遺跡（第9地点）	渡里町字高野台 3309-2 の一部（K画 No.8）	3月4日～6日	個人住宅建築	21.0	川口武彦，渥美賢吾	○	○
48	堀遺跡（第11地点）	渡里町 3293-1，3294-1	6月15日	個人住宅建築	23.0	新垣清貴	○	○
49	堀遺跡（第12地点）	堀町 396-1	1月29日	個人住宅建築	65.8	関口慶久，木本平周	○	○
50	町屋遺跡（第1地点）	酒門町 638-1	11月19日～11月20日	共同住宅建築	122.5	新垣清貴	○	○
51	水戸城跡（第10次）	三の丸 2-9-22（水戸二中）	1次　8月20日～22日 2次　9月12日	受水槽埋設工事	106.0	関口慶久，新垣清貴，川口武彦	○	○
52	水戸城跡（第13次）	三の丸 1-6-29（旧弘道館）	8月31日～9月4日	授乳改築工事	3.3	関口慶久	○	○
53	南裏呼遺跡（第4地点）	加倉井町字豆田 332-3	8月23日	個人住宅建築	4.0	新垣清貴	—	—
54	宮西遺跡（第1地点）	東赤塚 2227-3，2228-4	1月7日	個人住宅建築	4.0	川口武彦，新垣清貴	—	—
55	向原遺跡（第5地点）	中原町字向原 533-3	7月5日	個人住宅建築	12.5	新垣清貴	—	—
56	元石川大谷原遺跡（第1地点）	元石川町字大谷原 2265 外	1次　10月24日・25日・29日・31日 2次　11月1日・2日・5日	宅地造成工事	920.0	川口武彦	○	○

57	谷田古墳群（第6地点）	酒門町 567-1	7月18日	共同住宅建築	45.0	新垣清貴	—	—
58	谷田古墳群（第7地点）	酒門町字ひた塚 990-7	12月10日	個人住宅建築	9.7	川口武彦、新垣清貴	—	—
59	横宿遺跡（第2地点）	元吉田町 2649-63	4月17日	個人住宅建築	2.5	新垣清貴	—	—
60	米須町遺跡（第9地点）	千波町字中道面 1502-8	5月14日	個人住宅建築	11.75	新垣清貴	—	—
61	亀岡遺跡（第2地点）	三潴町字亀岡 1108-424	4月24日	個人住宅建築	2.0	新垣清貴	—	—
62	若林遺跡（第2地点）	見川5丁目 1232，1233	4月9日～4月10日	共同住宅建築	87.0	新垣清貴，木本琴摂	—	○
63	渡里町遺跡（第4地点）	渡里町 2373-3	11月13日，12月10日	個人住宅建築	17.0	新垣清貴	○	○
64	渡里町遺跡（第7地点）	渡里町字八幡前 2598-4	3月24日	個人住宅建築	2.0	川口武彦	—	○

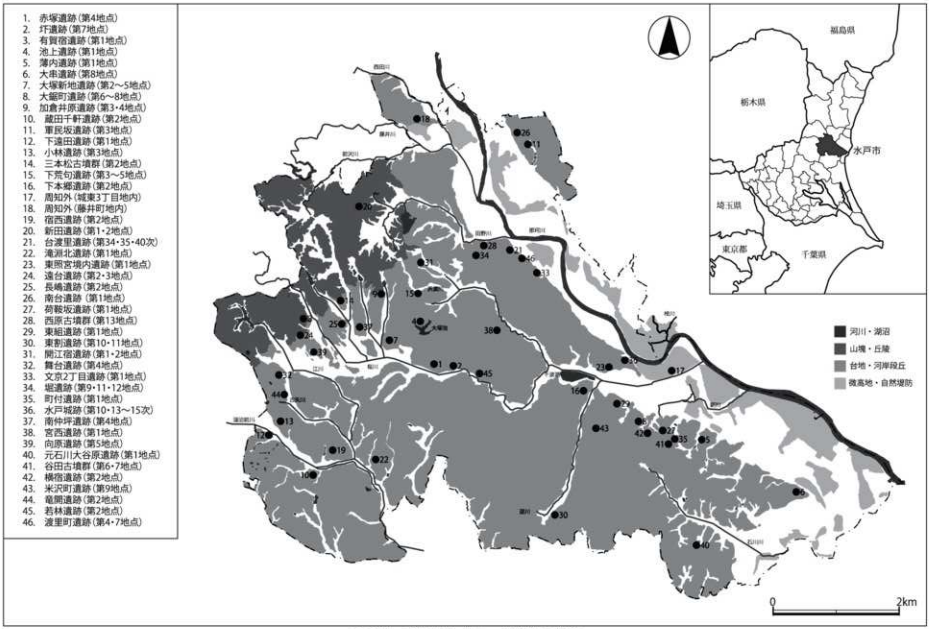
※遺物欄の○は遺構確認面や遺構覆土中からの出土遺物，△は表土・撹乱層中からの出土遺物を示す。

第2表　個人住宅建築に伴う本発掘調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査面積（㎡）	調査担当者	遺構	遺物
1	台渡里遺跡（第34次）	渡里渡里町字原屋敷 3028-8	4月6日～6月18日	176.0	川口武彦，渥美賢吾，木本琴摂	竪穴住居跡2（古墳1，奈・平1），土坑1（奈・平），掘立柱建物跡1（奈・平），時期不明土坑多数	土師器，須恵器，鉄鏃（無頭鍬状五角形鏃）
2	大串遺跡（第8地点）	塩崎町字原 1077-3	5月21日～5月25日	5.0	川口武彦	竪穴住居跡1（古墳）	縄文土器，土師器，軽石
3	大湖町遺跡（第7地点）	元吉田町 2350-2	1月31日～2月22日	89.25	関口慶久，新垣清貴	溝跡2，土坑6，ピット36	縄文土器，弥生土器，土師器，須恵器（奈良・平安），青磁，鉄釘，不明鉄製品，鉄滓

第3表　開発に伴う工事立会調査一覧

No.	遺跡名	調査地	調査期間	調査原因	調査面積（㎡）	調査担当者	遺物
1	間知外（城東3丁目地内）	城東3丁目 177-1，177-4，178-1，179	4月28日	宅地造成工事	176.0	関口慶久	陶磁器（近世・近代）
2	水戸城跡（第14次）	三の丸 2-1-315	12月14日～1月18日	建物解体工事	—	関口慶久	陶磁器（近世・近代）
3	水戸城跡（第15次）	三の丸 1-6-29（旧弘道館）	2月13日	排水管改修工事	—	関口慶久	陶磁器（近世・近代），瓦（近世・近代）



第１図　調査対象となった遺跡の位置

圷遺跡（第７地点）

有賀宿遺跡（第１地点）

池上遺跡（第１地点）

大塚新地遺跡（第３・４地点）

加倉井原遺跡（第３地点）

下遠田遺跡（第１地点）

第２図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（１）

小林遺跡（第 3 地点）

下本郷遺跡（第 2 地点）

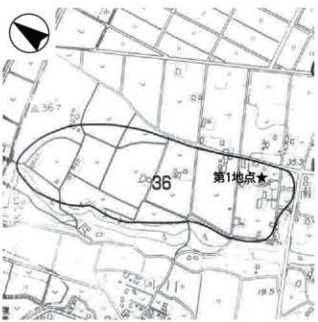
宿西遺跡（第 2 地点）

新田遺跡（第 2 地点）

遠台遺跡（第 2・3 地点）

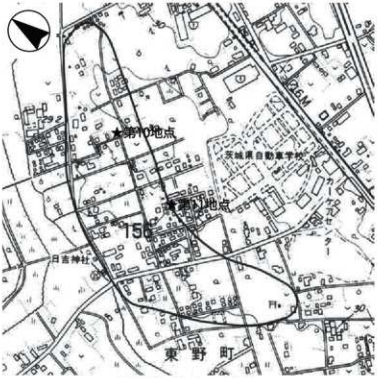
滝測北遺跡（第 1 地点）

文京 2 丁目遺跡（第 1 地点）

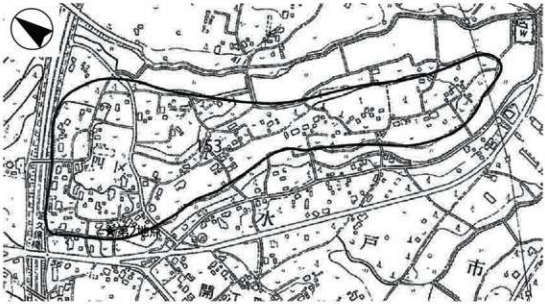


南台遺跡（第 1 地点）

第 3 図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（2）



東割遺跡（第 10・11 地点）



開江宿遺跡（第 2 地点）

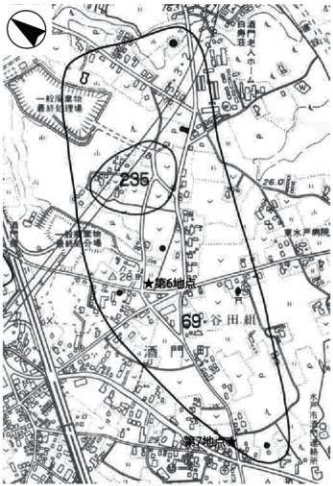
第 4 図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（3）

南仲坪遺跡（第４地点）

宮西遺跡（第１地点）

向原遺跡（第５地点）

横宿遺跡（第２地点）



谷田古墳群（第６・７地点）

第５図　遺構・遺物が検出されなかった遺跡の位置（４）

米沢町遺跡（第 9 地点）

竜開遺跡（第 2 地点）

下荒句遺跡（第 3 地点）

三本松古墳群（第 2 地点）

第 6 図　遺構･遺物が検出されなかった遺跡の位置（5）

第２章　開発に伴う試掘調査

試掘調査は，周知の遺跡の範囲内において実施するが，範囲外であっても現地踏査の結果，遺物が採集される場合，地形等から遺跡の存在が予測される場合，開発面積が広大である場合には，周知の範囲外においても試掘調査を実施した。

試掘調査は，開発予定地内に数㎡の大きさのトレンチ（試掘溝）を設定し，重機（バックホウ）および人力により，関東ローム層上面まで掘削し，遺構・遺物の有無について確認した。遺構か否かの判断が困難な場合には，サブトレンチ等を設定し，精査により遺構の確認を行った。また，遺跡の時期や遺構の正確を判断するために，サブトレンチを設定し，部分的に掘り下げた場合もある。

遺物は表面採集遺物，トレンチ一括遺物，遺構確認面一括遺物，遺構出土遺物に区分し，取り上げを行った。

２－１　赤塚遺跡（第４地点）

所 在 地　水戸市河和田３丁目2542-1 外

開発面積　248.0 ㎡

調査期間　平成 19 年 12 月 18 日～ 12 月 19 日（1 次）
　　平成 20 年 1 月 15 日～ 1 月 16 日（2 次）

調査原因　宅地造成工事

調査担当　川口武彦・新垣清貴

調査概要　開発対象地は原因者の所有地である山林と原因者が水戸市公園緑地課と公園としての利用契約を締結している所有地であり，後者については，試掘調査に際して公園緑地課による公園占有許可が必要となることから，調査を２次に分けて最初に山林部分を調査し，年明けに公園部分を調査することにした。第１次調査では西側の山林部分にトレンチを９箇所設定し，第２次調査では東側の公園内にトレンチ８箇所設定し，関東ローム層上面を目標に重機を用いて掘削した（第８図）。

第７図　赤塚遺跡（第４地点）の位置

（1）第１次調査のトレンチ

トレンチ１　17m × 1.5m。地表下 50cm 前後で関東ローム層上面が検出され，古墳時代中期と考えられる竪穴住居跡１軒，時期不詳の土坑１基，近世以降の溝跡が１条確認された。遺物は竪穴住居跡の覆土上面から土師器が多数出土した。

トレンチ２　10m × 1.5m。地表下 20cm で関東ローム層上面が検出され，古墳時代中期と考えられる竪穴住居跡が１軒確認された。本来の以降確認面からは 40cm 以上の削平を受けているとみられる。遺構確認面から土師器が多数出土した。

トレンチ３　7m × 1m。地表下 40cm で関東ローム層上面が検出され，トレンチ２において確認された竪穴住居跡の延長部分が確認された。トレンチ２に比べて遺構覆土の遺存状況は良好である。

トレンチ４　9m × 1m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ５　6m × 1m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出されたが，遺構は確認されなかった。表土中より，縄文土器片，古墳時代の土師器片が出土した。

トレンチ６　18m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。時期不詳の溝跡と古墳時代中期の竪穴住居跡１軒が確認された。竪穴住居跡の覆土上面より土師器が多数出土した。

トレンチ７　8m × 2m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。縄文時代中期の土坑群が無数に切り合った状況で確認され，関東ローム層はほとんど残存していない状況であった。覆土上面から縄文時代中期の土器片とともに先土器時代の剥片が出土した。

トレンチ８　6m × 1.5m。地表下 20cm で関東ローム層が検出されたが，遺構・遺物は確認されなかった。既にハー

第８図　赤塚遺跡（第４地点）のトレンチ配置

ドローム層まで削平を受けている。

トレンチ９　8m × 1m。地表下 20cm で関東ローム層が検出されたが，遺構・遺物は確認されなかった。既にハードローム層まで削平を受けている。

（2）第２次調査のトレンチ

トレンチ 10　6m × 1.5m。地表下 110cm で関東ローム層上面が検出されたが，湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 11　7m × 1.5m。地表下 110cm で関東ローム層上面が検出されたが，湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 12　7m × 1.5m。地表下 110cm で関東ローム層上面が検出されたが，湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 13　10m × 1.5m。地表下 110cm で関東ローム層上面が検出されたが，湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 14　4m × 1.5m。地表下 110cm で関東ローム層上面が検出されたが，湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 15　3m × 1m。地表下 110cm で関東ローム層上面が検出されたが，湧水が著しく遺構・遺物は確認されなかった。

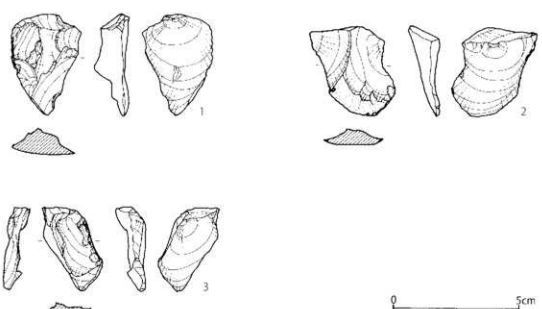
トレンチ 16　10m × 2m。本トレンチは，地表面に時期や性格不明の土塁状の高まりと堀状の窪みが認められる

ことから，その性格を解明するためにこの土塁状の高まりと堀状の窪みに直交する形で設定した。調査の結果，地表下 40cm で関東ローム層上面が検出された。また，この土塁状の高まりと堀状の窪みについては，大規模な切り土ではないが，僅かに台地縁を削り、人工的に地形を改変していることが窺えた。周辺では湧水が見られることも考慮し，中世の城館跡に関連する堀と考えるよりも，水路のような性格を持っていると考えたい。堀状の窪みの底面からは 19 世紀代に比定できる陶磁器片が数点出土した。

写真１　トレンチ７縄文時代土坑群（北から）

写真２　トレンチ６竪穴住居跡（西から）

写真３　トレンチ６東端溝跡（南から）

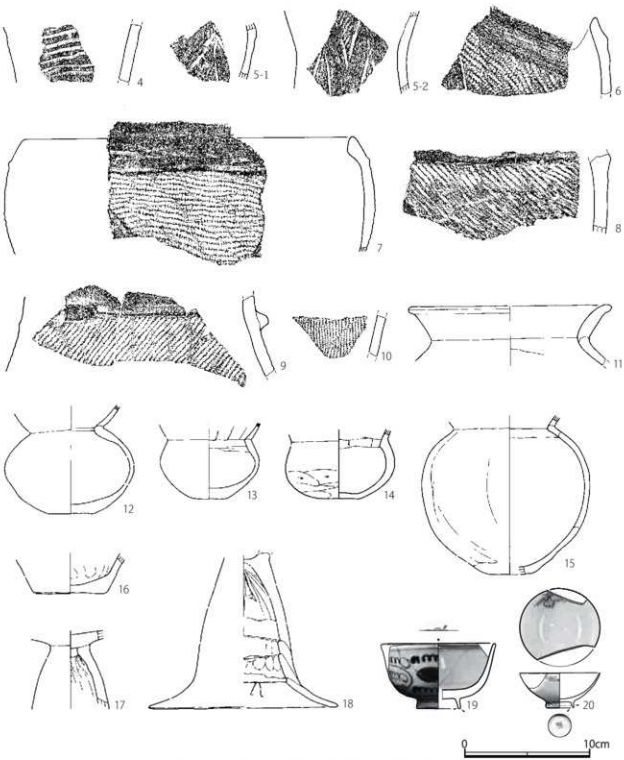


第９図　赤塚遺跡（第４地点）出土遺物（１）

トレンチ17　21m × 1m。本トレンチもトレンチ16と同様，地表面に時期や性格不明の土塁状の高まりが認められることからその性格解明のために土塁状の高まりに直交する形でトレンチを設定した。地表下100cmで関東ローム層上面が検出され，自然地形が緩やかに傾斜する状況であることが確認された。　（川口・新垣）

（3）出土遺物

1～3は先土器時代のものとみられる剥片である。いずれもトレンチ7の縄文時代の土坑群の確認面から出土したものである。本来はローム層中に包含されていたものが，縄文時代の土坑群の掘削に伴い，原位置を失ったもの



第10図　赤塚遺跡（第4地点）出土遺物（2）

とみられる。1は剥片である。背面には複数の切り合う剥離面がみられ，その切り合い関係から反時計回りの方向に打面を90°転位させていく過程で生じた剥片とみられる。左側縁には微細な剥離痕がみられるが，人為的なものか，新規破損によるものかは判別できない。打面は複数の剥離面が切り合う切子打面である。2も剥片である。背面下半部に自然面が残されており，相互に切り合う2枚の大きな剥離面が観察される。その切り合い関係から，時計回りの方向に打面を90°転位させていく過程で生じた剥片とみられる。打面は一枚の剥離面から構成される単剥離面打面である。3は折断剥片である。左側面には腹面側から背面側に向かう折断面がみられ，背面には複数の相互に切り合う剥離面がみられるが，器体の下半部が折断により失われているため，剥片剥離過程の復原は困難である。打面は一枚の剥離面から構成される単剥離面打面である。1～3いずれも石材には硬質頁岩が利用されているが，1と2が艶のないチョコレート色をしていることから，同一母岩の可能性があるのに対し，3は艶のある灰色の硬質頁岩であり，別の母岩とみられる。この他にもう1点頁岩製の折断剥片があるが，小片であるため，図化は見送った。（川口）

4～10は縄文土器である。4は深鉢形土器で，底部付近の破片である。半截竹管状工具の外側を器壁に当て，押しながら器肉を削り取るようにして，太沈線文が施されている。5は小型の深鉢形土器である。口縁部付近は隆起線文，胴部は沈線で鋸歯状文が施文され，区画文内は単節斜縄文RLが充填されている。6～8は深鉢形土器あるいは鉢形土器である。6は波状口縁を呈し，文様が隆起線文と沈線文により区画されている。7・8は文様が隆起線文により区画されている。9は両耳壺形土器と考えられる。10は単節斜縄文RLが斜位に施文されている。4は早期中葉「田戸下層式」，5～9は中期後葉「加曽利E4式」，10は「加曽利E式」に相当する。

11～18は土師器である。11は甕形土器，12は坩形土器，13・14は小型の壺形土器，15は壺形土器，17・18は高坏形土器である。時期は古墳時代中期前半に位置付けられる。

19は磁器の碗で，丸碗Xである。推定生産地は在地産，推定年代は19世紀以降とみられる。20は磁器の小坏で，薄手酒坏である。推定生産地は瀬戸・美濃，推定年代は19世紀以降とみられる。（色川）

（4）確認された埋蔵文化財の取扱い

以上が調査の概要である。最終的な調査面積は合計177.0㎡であった。

調査の結果，進入道路敷設予定部分で先土器時代・縄文時代・古墳時代の遺構・遺物が多数確認され，茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせた結果，本件は原則Ⅲの（1）道路建設（改良工事を含む）に該当することから，進入道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。（川口・新垣）

2－2　薄内遺跡（第1地点）

所 在 地　水戸市六反田町字薄内861-2番地

開発面積　36.0㎡

調査期間　平成19年9月27日

調査原因　通信基地局建設

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，鉄塔建設予定部分に2本のトレンチを設定し（第12図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

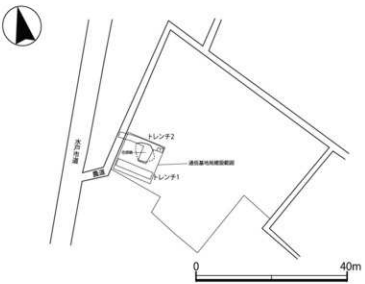
（1）トレンチの詳細

トレンチ1　8m×1.5m。地表下30cmで関東ローム層上面が検出され，耕作土より奈良・平安時代以降の土師器・須恵器片が出土したが，遺構は確認されなかった。

トレンチ2　当初は12m×1.5mのトレンチであったが，遺構が確認され，その規模を把握するためにT字状に交差する形で新たに3m×2mの拡張を行った。地表下30cmで関東ローム層

第11図　薄内遺跡（第1地点）の位置

上面が検出され，弥生時代後期から古墳時代前期初頭頃の土器を包含する住居跡とみられる遺構が確認された。平面形は小判形で，南北方向に 4m の大きさを測る。東西方向はトレンチの外に広がっているため，詳細な大きさは不明であるが，3m 程度とみられる遺構の詳細確認のため，サブトレンチを 20cm 幅で設定し，部分的に掘削を行ったところ，弥生時代後期の土器片のほか，古墳時代前期初頭とみられる土師器片も出土した。遺構確認面から床面までの深さは 30cm ほどである。床面には顕著な硬化面は認められなかった。耕作土より奈良・平安時代以降の土師器・須恵器片が出土したが，遺構は確認されなかった。



第 12 図　薄内遺跡（第 1 地点）のトレンチ配置

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構が確認されたため，事業者と保存について協議を重ねたが，鉄塔の設置箇所は変更できないうえに 30cm 以上の保護層の確保も困難であるとの結論に達したことから，記録保存による本発掘調査が相当であるとした。

その後，平成 20 年 1 月 10 日～ 1 月 26 日の期間に毛野考古学研究所による本発掘調査が行われ，試掘調査で確認されていた竪穴住居跡のほかに古墳時代後期の竪穴住居跡 1 軒，土坑 2 基，ピット 2 基が確認された。遺物は先土器時代の剥片，縄文時代前・中期の土器・剥片，弥生時代前・中期・後期の土器・アメリカ式石鏃，古墳時代前・後期の土師器が出土した（日沖・石丸・川口・色川・新垣・渥美　2008）。なお，試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため，本発掘調査の報告書に収録した。　（新垣・川口）

2－3　大串遺跡（第 8 地点）

所 在 地　水戸市塩崎町字原 1077-3 番地

開発面積　33.15 ㎡

調査期間　平成 19 年 4 月 27 日

調査原因　個人住宅建築

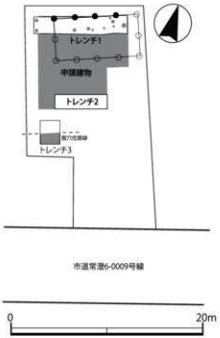
調査担当　川口武彦

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分に 2 本のトレンチを設定し（第 14 図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの詳細

トレンチ 1　9.5m × 1.9m。地表下 50 ～ 70cm で関東ローム層上面が検出され，奈良・平安時代の掘立柱建物跡を構成するとみられる柱穴 4 基と時期不明のピット 10 基が確認された（第 15 図・写真 4・5）。掘立柱建物跡については，トレンチ 1 の東方に延びており，桁行は 4 間以上と推定されるが，トレンチ 2 では柱穴が一切確認されていないことから，梁行 2 間程度とみられる。現状では 4 × 2 間程度の建物として理

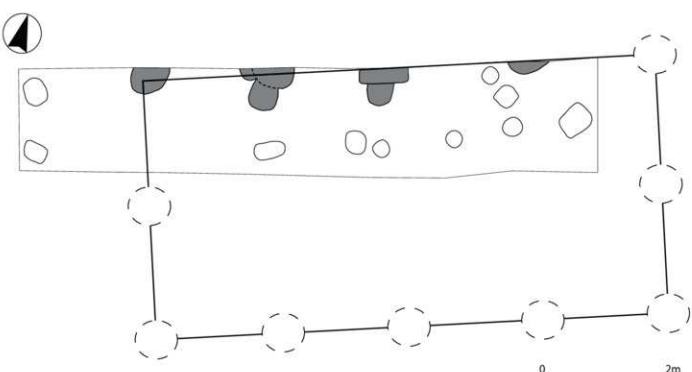
第 13 図　大串遺跡（第 8 地点）の位置



第 14 図　大串遺跡（第 8 地点）のトレンチ配置

写真 4　トレンチ 1 遺構検出状況（西から）

写真 5　トレンチ 1 遺構検出状況（東から）



第 15 図　大串遺跡（第 8 地点）トレンチ 1 遺構検出状況

解しておく。柱間は桁行・梁行ともに2.1m（7尺）。遺物は出土していない。

トレンチ2　5.05m × 2m。地表下50～70cmで関東ローム層上面が検出されたが，遺構・遺物ともに確認されなかった（写真6）。

トレンチ3　2.5m × 2m。地表下60cmで竪穴住居跡とみられるプランが1基確認された。遺構確認面からは刷毛目を持つ土師器片が出土していることから，古墳時代前期末の竪穴住居跡とみられる。当遺跡ではこれまで7地点において発掘調査が行われており，古墳時代前期末の竪穴住居跡は17軒確認されている。本住居跡もその集落の一部を構成するものであろう。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

申請建物部分および浄化槽埋設部分より遺構が確認されたため，事業者と保存について協議を重ねた。その結果，申請建物部分については30cm以上の保護層を確保できるが，浄化槽の埋設箇所の変更は困難であるとの結論に達したことから，浄化槽の埋設箇所から確認された古墳時代前期末の竪穴住居跡を対象とした記録保存による本発掘調査が相当であるとした。

その後，平成19年5月21日～25日に浄化槽埋設部分で確認された竪穴住居跡を対象とした記録保存の本発掘調査を実施した。調査の詳細は本書「3-1　大串遺跡（第8地点）」を参照願いたい。（川口）

第16図　大塚新地遺跡（第2・5地点）の位置

2－4　大塚新地遺跡（第2地点）

所 在 地　水戸市大塚町544-6番地

開発面積　289.0㎡

調査期間　平成19年4月19日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分に3本のトレンチを設定し（第17図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

トレンチ1　2.5m × 1.5m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが，遺構は確認されなかった。遺物は現表土より古墳時代前期の土師器片が数点出土した。

トレンチ2　6m × 1.5m。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが，遺構は確認されなかった。遺物は現表土より土師器片が数点出土した。

トレンチ3　8m × 1.5mで当初設定したが，遺構の有無をさらに確認するため，3.6m × 1mの拡張を行った。地表下20cmで関東ローム層上面が検出されたが，遺構は確認されなかった。遺物は現表土より土師器片が数点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は現表土より数点出土したものの，遺構は確認されなかったことから，慎重工事が相当であるとした。（新垣）

第17図　大塚新地遺跡（第2地点）のトレンチ配置

2－5　大塚新地遺跡（第５地点）

所 在 地　水戸市大塚町 544-1 番地

開発面積　529.13 ㎡

調査期間　平成 19 年 6 月 20 日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分に２本のトレンチを設定し（第 18 図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ１　2m × 1m。地表下 90 ～ 100cm で関東ローム層上面が検出されたが，遺構・遺物ともに確認されなかった。

トレンチ２　4m × 1.5m。地表下 90 ～ 100cm で関東ローム層上面が検出されたが，トレンチャーによる攪乱が著しく，遺構は確認されなかった。遺物は攪乱層より須恵器の有台坏片が１点出土した。

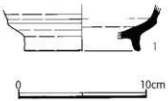
（2）出土遺物

１は須恵器有台坏である。時期は９世紀前葉に位置付けられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は攪乱層より１点出土したものの，遺構は確認されなかったことから，慎重工事が相当であるとした。（新垣）

第 18 図　大塚新地遺跡（第５地点）のトレンチ配置



第 19 図　大塚新地遺跡（第５地点）出土遺物

2－6　大鋸町遺跡（第６地点）

所 在 地　水戸市元吉田町 2338-1 番地
開発面積　790 ㎡
調査期間　平成 19 年 10 月２日～ 10 月３日
調査原因　宅地造成工事
調査担当　新垣清貴
調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および進入道路部分に５本のトレンチを設定し（第 21 図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

第 20 図　大鋸町遺跡（第６地点）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ１　29m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。弥生時代のものとみられる竪穴住居跡１軒，古墳時代あるいは奈良・平安時代のものとみられる竪穴住居跡２軒，溝跡１条が検出された。溝跡については，遺構の性格および構築時期・埋没時期を把握するためにサブトレンチを設定し，重機を用いて掘削した。その結果，溝跡は深さ 2.5m，上面幅 5.5m 以上を呈することが確認された。覆土中からは中世の常滑焼の甕とみられる破片が出土したことから中世の堀跡とみられる。また，溝跡以外の遺構からも覆土上面より遺物が多数検出されている。

トレンチ２　28m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。奈良・平安時代のものとみられる竪穴住居跡１軒，時期不明の土坑２基が検出された。また，トレンチ１で確認された中世以降の堀跡の延長部分が確認された。各遺構からは多数の遺物が出土した。

トレンチ３　31m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。奈良・平安時代のものとみられる竪穴住居跡１軒，時期不明のピット１基が検出された。トレンチ最東端では，トレンチ１・２で確認された中世以降の堀跡の延長部分が確認された。各遺構からは多数の遺物が出土した。

トレンチ４　10m × 2m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出されたが，現代の攪乱が著しく，遺構・遺物ともに確認されなかった。

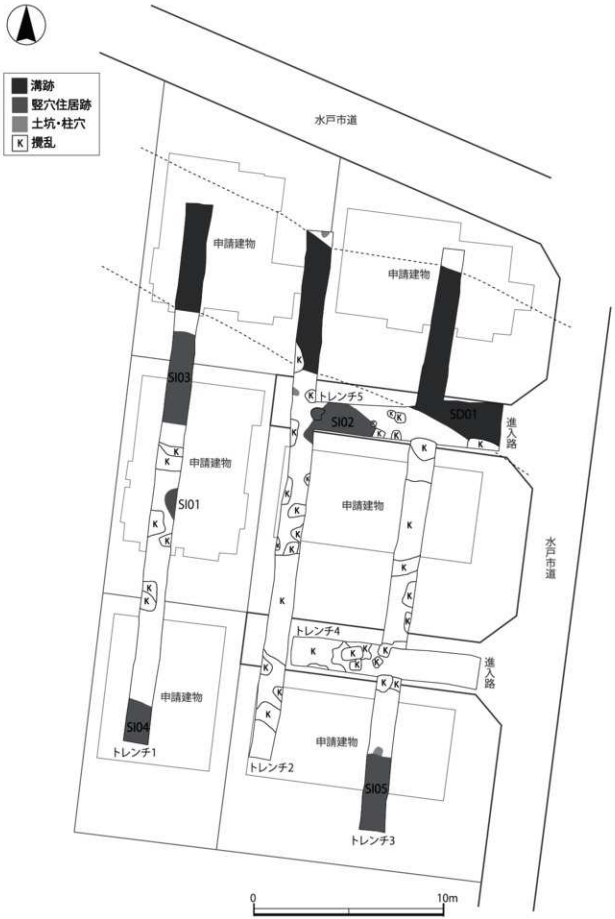
トレンチ５　10m × 2m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出された。奈良・平安時代のものとみられる竪穴住居跡１軒，トレンチ１～３で確認された中世以降の堀跡の延長部分が確認された。各遺構からは多数の遺物が出土した。

（2）出土遺物

１～８は，遺構確認面において第１号住居跡（SI01）の範囲内から検出されたものである。住居跡覆土の遺物として捉えられるものであろう。１は複合口縁を呈し，複合部は無文，３段である。複合部下端に棒状工具による刺突文が施されている。口唇部には棒状工具による刻みが施され，頸部は付加条第２種（LR × R）による縄文が施文されている。２は口縁部に付加条第１種付加２条（LR + 2R）による縄文を施文し，その下端に縄文原体による刺突文が列状に施されている。頸部は下向きの連弧文が施文されている。櫛歯状工具の歯数は６本。刻みのある貼付文が２個１組で施されている。３～８は胴部の破片である。３～５は付加条第２種による羽状縄文が施されている。６は付加条第１種付加２条，７は付加条第１種付加１条，８は R を Z 巻きした原体（軸不明）による縄文が施されている。

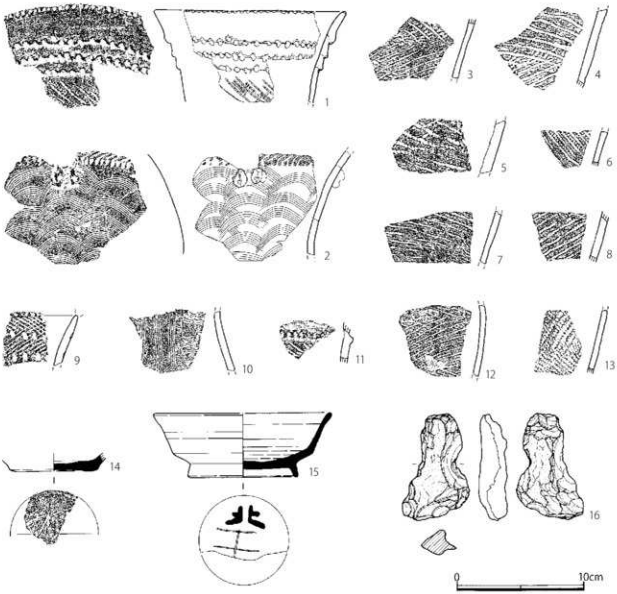
１は「東中根式」，２は所謂「二軒屋式」である。２は，鈴木正博氏による所謂「二軒屋式」の「Ⅱ段階」に相当する。貼付文がみられることを指標にすれば，同じ「Ⅱ段階」とされる薬王院東遺跡（井上　1990）よりも新しいと考えられる。第１号住居跡出土の土器群は，羽状縄文の破片が存在することから，「東中根式」の「東中根清水」（鈴木（正）　1982）に相当すると推定され，「十王台式」が成立する前段階に位置付けられる。

９～13 は遺構外出土の弥生土器である。９は単純口縁を呈し，口縁部には付加条第１種付加２条（RL + 2L・LR + 2R）による羽状縄文，帯状に施文された各縄文の下端には縄文原体による刺突文が列状に施されている。口唇部



第 21 図　大鋸町遺跡（第 6 地点）のトレンチ配置

は縄文原体による刻みが施文されている。10 は縦位区画が３条を単位とする。横位区画は直状文と波状文。櫛歯状工具の歯数は４本。11 は胴部の破片である。縄文原体による刻みが施された隆帯が２条以上巡り，以下にＬを



第 22 図　大鋸町遺跡（第６地点）出土遺物

写真６　トレンチ１第１号住居跡検出状況（北から）　写真７　トレンチ１第１号溝跡検出状況（北から）

写真８　トレンチ３第５号住居跡検出状況（南から）　写真９　トレンチ５第２号住居跡検出状況（西から）

S巻きした原体（軸不明）による縄文が施文されている。

９は所謂「二軒屋式」，10･11は「十王台式」，12･13は弥生時代後期中葉から後葉に位置付けられる。10は横位区画が波状文と直状文という属性の組合せから，「大畑類型」（鈴木（素）2002）に属する。「大畑類型」は，「十王台式」の成立期の土器群である「薬王院式」以後，「武田式」以前に位置付けられている。

14は須恵器無台坏である。時期は９世紀に位置付けられる。15は須恵器有台坏である。底面に墨書「北」とヘラ記号がみられる。遺構確認面において第２号住居跡（SI02）の範囲内から検出されたもので，住居跡覆土の遺物として捉えられるものであろう。時期は９世紀前葉に位置付けられる。16は縄文時代の打製石斧である。表裏両面に自然面が残されていることから，素材には礫が利用されていることが読み取れる。二次加工は周囲から中心に向かって施されており，器体の中央部には着柄に係わる抉りが作り出されている。（色川・川口）

（３）確認された埋蔵文化財の取扱い

多数の遺構・遺物が確認されたことから，事業者と保存について協議を重ねたが，宅地部分については盛土を行い30cm以上の保護層を確保できるが，進入道路部分については茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせると，原則面の（１）道路建設（改良工事を含む）に該当することから，進入道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。（新垣）

２－７　大鋸町遺跡（第７地点）

所 在 地　水戸市元吉田町 2350-2 番地

開発面積　240 ㎡

調査期間　平成 19 年 11 月 19 日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分にトレンチを１本設定し（第 24 図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

第 23 図　大鋸町遺跡（第７・８地点）の位置

（１）トレンチの詳細

トレンチ１　14.8m × 1.5m。地表下 50cm で関東ローム層上面が検出され，第６地点の調査で確認された中世の溝跡の延長部分が検出された（第 24 図）。表土および溝跡の覆土上面からは多数の遺物が出土した。

（２）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたことから，事業者と保存について協議を重ねたが，申請建物については地帯力が弱く，

パイル工法を採用せざるを得ないとの結論に達したことから，中世の溝跡を対象とした記録保存による本発掘調査が相当であるとした。

その後，平成20年1月31日～2月22日に浄化槽埋設部分で確認された中世の溝跡を対象とした記録保存の本発掘調査を実施した。調査の詳細は本書「3-2　大鋸町遺跡（第7地点）」を参照願いたい。　（新垣）

2－8　大鋸町遺跡（第8地点）

所 在 地　水戸市元吉田町2349-1，2350-1，2351番地

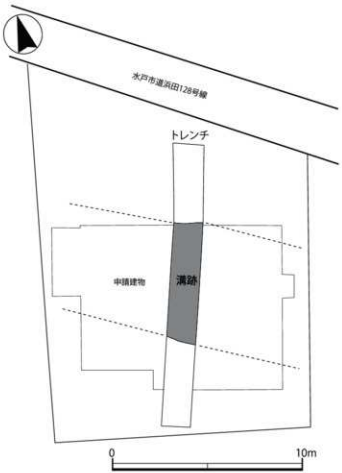
開発面積　1,651.57㎡

調査期間　平成20年2月25日～2月26日

調査原因　宅地造成工事

調査担当　関口慶久・新垣清貴

調査概要　開発対象地は第7地点に隣接しており，第7地点の調査で確認された中世の堀跡が延長していることは明白であった。ただし，溝跡の南側の遺構展開状況については未知であったため，この度の試掘調査では，溝跡の延長部分およびその南側における埋蔵文化財の有無の確認を目的として実施した。トレンチは道路部分にトレンチを2本（トレンチ1・2），3区画の分譲予定地について1区画毎に3m×3mのトレンチを3本（トレンチ3～5）設定し（第25図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。



第24図　大鋸町遺跡（第7地点）のトレンチ配置

（1）トレンチの詳細

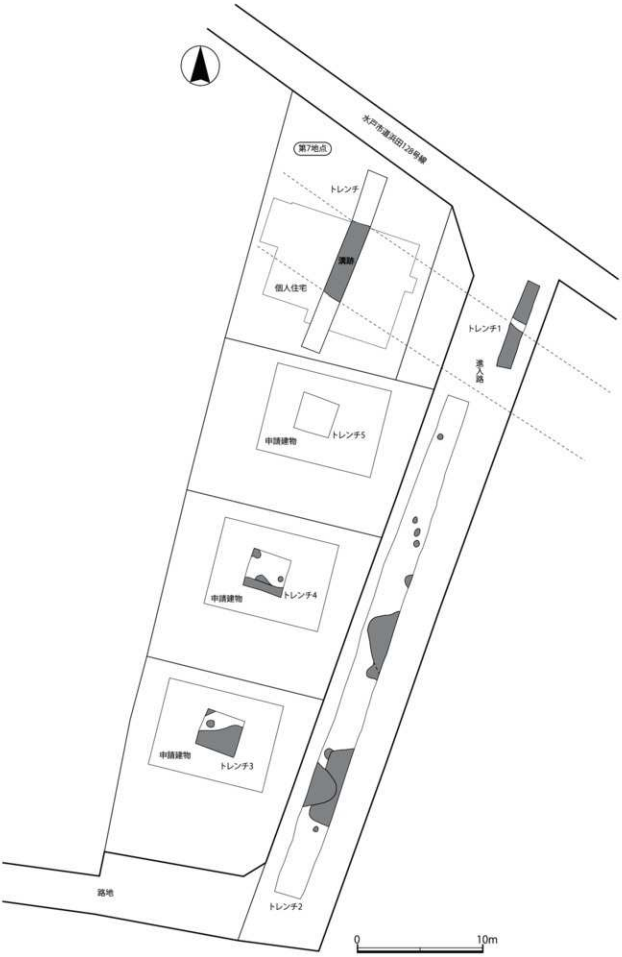
トレンチ1　7.4m×1m。地表下30～40cmで関東ローム層上面が検出され，8世紀後半の竪穴住居跡および9世紀初頭の竪穴住居跡，中世末～近世初頭の大形土坑，時期不明の土坑1基およびピット7基が検出された（第25図）。遺構確認面からは奈良・平安時代のものとみられる土師器・須恵器が出土した。

トレンチ2　41.2m×2m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出され，中世の堀跡が2条確認された。南側の溝跡が第7地点の本発掘調査で検出された1号遺構，北側の溝跡が第7地点の本発掘調査で検出された2号遺構に対応するものとみられる（第25図）。遺構確認面からは奈良・平安時代のものとみられる土師器・須恵器が出土した。

トレンチ3　3m×3m。地表下50cmで関東ローム層上面が検出され，奈良・平安時代の竪穴住居跡2軒，時期不明のピット1基が検出された（第25図）。遺構確認面からは奈良・平安時代のものとみられる土師器・須恵器が出土した。

トレンチ4　3m×3m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出され，奈良・平安時代の土坑3基およびピット1基が検出された（第25図）。南側の土坑についてはボーリングステッキによる探査の結果，深さが80cmに達することが判明している。遺構確認面からは奈良・平安時代のものとみられる土師器・須恵器が出土した。

トレンチ5　3m×3m。地表下40cmで関東ローム層上面が検出されたが，遺構・遺物は確認されなかった（第25図）。



第 25 図　大鋸町遺跡（第８地点）のトレンチ配置

写真 10　トレンチ 1 遺構検出状況（南から）

写真 11　トレンチ 2 溝跡検出状況（南から）

写真 12　トレンチ 3 遺構検出状況（南から）

写真 13　トレンチ 4 遺構検出状況（西から）

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

多数の遺構・遺物が確認されたことから，事業者と保存について協議を重ねたが，宅地部分については盛土を行い30cm 以上の保護層を確保できるが，道路部分については茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱基準に照らし合わせると，原則Ⅲの（1）道路建設（改良工事を含む）に該当することから，道路部分については記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後，平成 20 年 6 月 23 日～ 7 月 19 日の期間に毛野考古学研究所による本発掘調査が行われ，試掘調査で確認されていた竪穴住居跡や溝跡，土坑のほかに溝跡が 3 条，竪穴住居跡 2 軒，掘立柱建物跡 1 棟，井戸跡 1 基等が新たに検出され，奈良・平安時代の土師器・須恵器・鉄製鎌・鉄製刀子・鉄鏃・土製紡錘車，中世陶器・北宋銭，近世陶磁器・キセル等が出土した。なお，試掘調査で出土した遺物については，本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため，本発掘調査の報告書（石丸・源美　2009）に収録した。（関口）

2－9　加倉井原遺跡（第 4 地点）

所 在 地　水戸市加倉井町 1319-1 番地

開発面積　424 ㎡

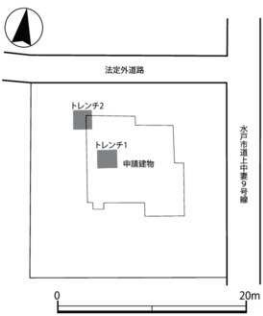
調査期間　平成 19 年 11 月 27 日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分に 2 本のトレンチを設定し（第 27 図），人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

第 26 図　加倉井原遺跡（第４地点）の位置



第 27 図　加倉井原遺跡（第４地点）のトレンチ配置

（1）トレンチの概要

トレンチ１　2m × 2m。地表下 50cm 前後で関東ローム層上面が検出され，表土中から奈良・平安時代の土師器片，須恵器片が出土したが，遺構は確認されなかった。

トレンチ２　2m × 2m。地表下 50cm 前後で関東ローム層上面が検出され，表土中から奈良・平安時代の土師器片，須恵器片が出土したが，遺構は確認されなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は表土層より奈良・平安時代の土師器片や須恵器が少量出土したものの，遺構は確認されなかったことから，慎重工事が相当であるとした。　（新垣）

２－10　蔵田千軒遺跡（第２地点）

所 在 地　水戸市鯉淵町字九ノ割 6002-2 番地

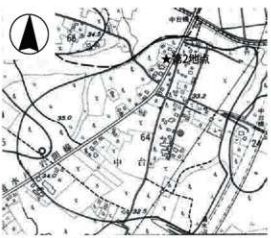
開発面積　488.73 ㎡

調査期間　平成 19 年 9 月 21 日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分に２本のトレンチを設定し（第 29 図），重機により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

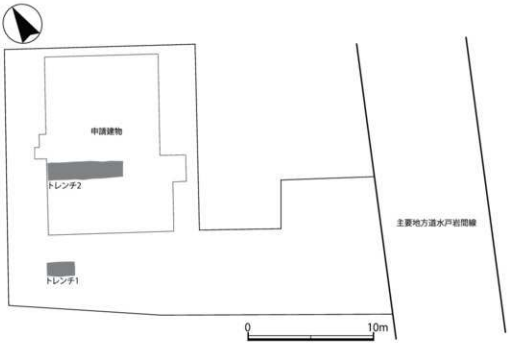


第 28 図　蔵田千軒遺跡（第２地点）の位置

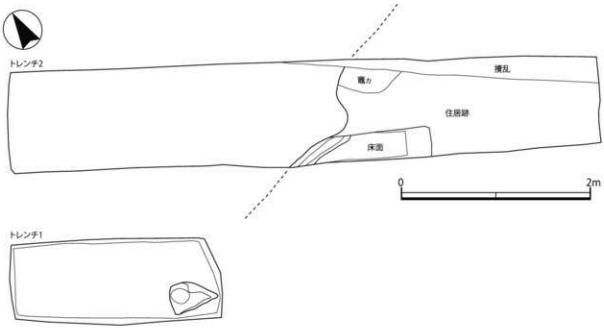
（1）トレンチの概要

トレンチ１　2.25m × 1.2m。地表下 70cm 前後で関東ローム層上面が検出されるとともにピット１基が検出された（第 30 図）。遺構の性格および時期を把握するため，トレンチ内の遺構部分を掘削した結果，遺構覆土から奈良・平安時代の土師器片，須恵器片が出土したことから，奈良・平安時代のピットであることが判明した。

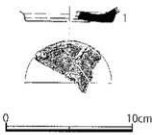
トレンチ２　6.25m × 1.4m。地表下 70cm 前後で関東ローム層上面が検出され，竪穴住居跡とみられるプランが１箇所確認された（第 30 図）。遺構の性格および時期を把握するため，トレンチ内の遺構部分を掘削した結果，遺構覆土から奈良・平安時代の土師器片，須恵器片が出土したことから，奈良・平安時代の竪穴住居跡であることが判明した。



第 29 図　蔵田千軒遺跡（第２地点）のトレンチ配置



第 30 図　蔵田千軒遺跡（第２地点）のトレンチ内遺構検出状況



第 31 図　蔵田千軒遺跡（第２地点）出土遺物

（2）出土遺物

１は須恵器無台坏である。底面にヘラ記号がみられる。時期は９世紀前葉に位置付けられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたが，浄化槽埋設部分で確認されたピットについては記録の作成が完了したこと，申請建物部分については 30cm 以上の保護層が確保できることから，慎重工事が相当であるとした。（新垣）

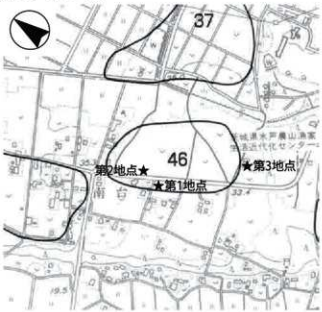
2－11　軍民坂遺跡（第３地点）

所 在 地　水戸市上国井町字南台 3667-1 番地
開発面積　220 ㎡
調査期間　平成 20 年 1 月 17 日～ 1 月 18 日
調査原因　個人住宅建築
調査担当　新垣清貴
調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分に２本のトレンチを設定し（第 33 図），人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ１　2m × 2m。地表下 55cm で須恵器の大甕片等を多量に包含する黒色土が確認された。関東ローム層上面はその 30cm 下の地表下 80cm の深さより検出され，複数のピットが重複して切り合うピット群が確認された（第 34 図）。

トレンチ２　2m × 1m。地表下 80cm 前後で関東ローム層上面が検出され，時期不詳のピット１基が確認された。



第 32 図　軍民坂遺跡（第３地点）の位置

（新垣・川口）

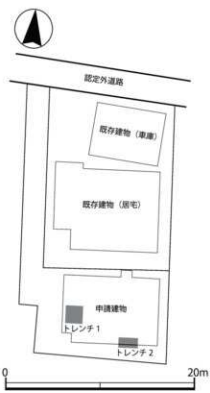
（2）出土遺物

１は縄文土器の口縁部片である。単節斜縄文ＲＬを施文後，沈線文が施されている。時期は中期後葉「加曽利Ｅ３・４式」に位置付けられる。２～４は須恵器有台坏である。２は底面に墨書「河屋」とヘラ記号がみられる。５は須恵器有台盤である。６は須恵器甕で，平底である。蔵骨器の可能性があり，甕（６）の本体に有台盤（５）で蓋をする構成が考えられる。２～６は，出土状況から一括の可能性が高く，時期は８世紀末～９世紀初頭に位置付けられる。７は縄文時代の敲石である。表裏両面には敲打によって形成された剥離面が観察され，それに重複する研磨面がみられることから，敲打後に研磨作業に用いられたと考えられる。正面右側と裏面の研磨面は自然面の上に形成されており，上下左右の側縁全体に敲打痕がみられる。

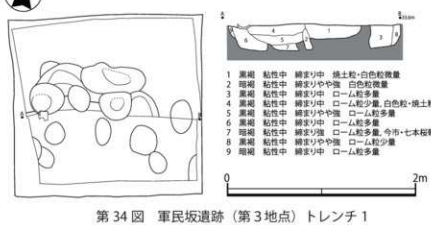
（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

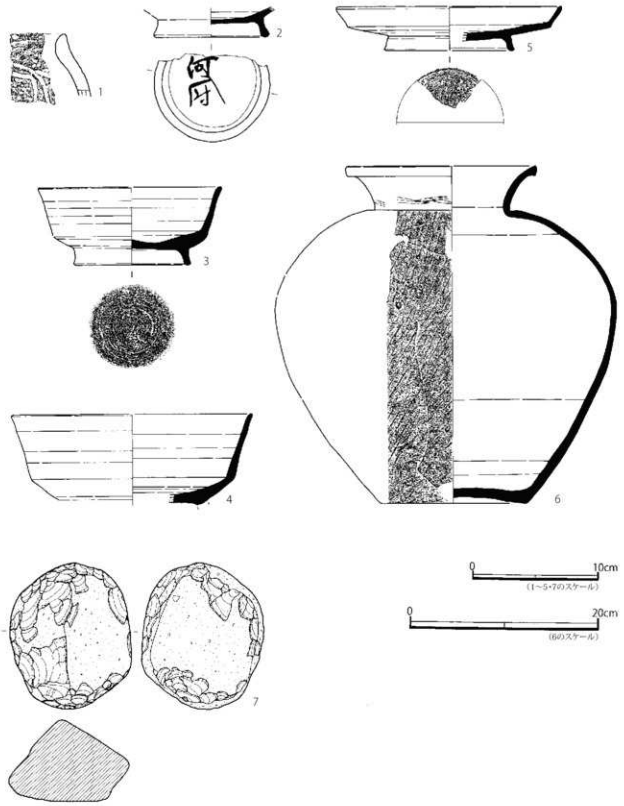
遺構・遺物が確認され，事業者と保存について協議を重ねたが，申請建物部分については，地帯力が弱く，パイル工法は回避できないとの結論に



第 33 図　軍民坂遺跡（第３地点）のトレンチ配置



第 34 図　軍民坂遺跡（第３地点）トレンチ１



第 35 図　軍民坂遺跡（第 3 地点）出土遺物

達したことから，申請建物部分を対象とする記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

（川口）

2－12　下荒句遺跡（第４地点）

所 在 地　水戸市双葉台４丁目238番地

開発面積　2,255㎡

調査期間　平成19年11月19日

調査原因　樹木の伐根，盛土

調査担当　関口慶久

調査概要　開発対象地に３本のトレンチを設定し（第37図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

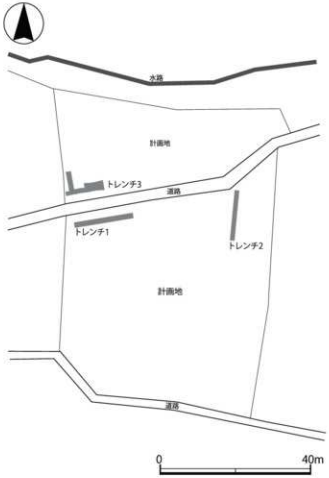
トレンチ１　15m × 1m。地表下50cmで関東ローム層上面が確認された。表土層から数点の土器片が出土したが，遺構は確認されなかった。

トレンチ２　14m × 1m。地表下70cm前後で関東ローム層上面が検出されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ３　10m × 1m。地表下50cm前後で関東ローム層上面が検出され，堀跡が確認された。堀跡が確認されたため，その規模や構築時期・性格を把握するために南北方向に直交する形でサブトレンチを追加で設定した（第37図）。その結果，堀跡は上面幅3.4m，底面幅0.25m，深さ1.8mであり，断面が箱薬研状を呈することが確認された（第39図）。遺物は出土しなかったが，表土層から縄文時代中期の土器片が数点出土した。堀跡からは，遺物は出土していないが，覆土の様相および断面構造のあり方から近世以降のものと考えられる。（関口）

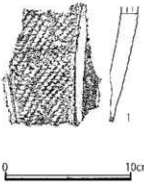
（2）出土遺物

１は縄文土器である。文様が沈線文により区画されている。懸垂文間が無文の所謂「磨消縄文」。単節斜縄文RLの縄文が縦位に施されている。時期は中期後葉「加曽利E2・3式」に位置付けられる。（色川）

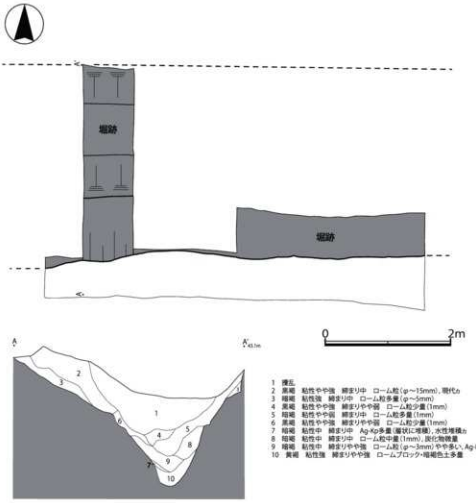


第37図　下荒句遺跡（第４地点）のトレンチ配置

第36図　下荒句遺跡（第４地点）の位置



第38図　下荒句遺跡（第４地点）出土遺物



第 39 図　下荒句遺跡（第４地点）トレンチ３堀跡検出状況・土層断面

写真 14　トレンチ３堀跡検出状況（東から）

写真 15　トレンチ３堀跡断面（東から）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物は確認されたものの，堀跡は近世以降の所産と判断され，埋蔵文化財としては取り扱えないこと，遺物についても表土層から数点出土したにとどまったことから，当該地域には埋蔵文化財は存在せず，慎重工事が相当であるとした。（関口）

2－13　下荒句遺跡（第５地点）

所 在 地　水戸市双葉台４丁目243-92番地

開発面積　488.03㎡

調査期間　平成19年12月25日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　川口武彦・新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分に２本のトレンチを設定し（第41図），人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ１　2m×1m。地表下70cmで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ２　2m×2m。地表下60cm前後で関東ローム層上面が検出された。表土から縄文時代中期の土器片１点が出土したが，遺構は確認されなかった。（川口・新垣）

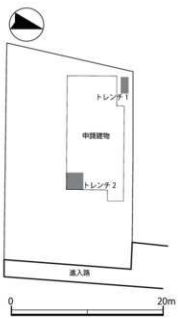
（2）出土遺物

１は縄文土器である。単節斜縄文ＲＬと沈線文が施されている。時期は中期後葉「加曽利Ｅ式」に位置付けられる。（色川）

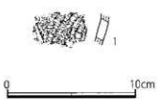
（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は１点の縄文土器が出土したものの，表土からの出土であり，遺構も確認されなかったことから，慎重工事が相当であるとした。（川口・新垣）

第40図　下荒句遺跡（第５地点）の位置



第41図　下荒句遺跡（第５地点）のトレンチ配置



第42図　下荒句遺跡（第５地点）出土遺物

2－14　周知外（藤井町地内）

所 在 地　水戸市藤井町字南駒形1946番地

開発面積　99.99㎡

調査期間　平成19年９月28日

調査原因　通信基地局建設

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「十万原遺跡」に近接していることから（第43図），埋蔵文化財の存在が予測された。開発対象地のうち，通信基地局建設予定箇所に２本のトレンチを設定し（第44図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1　8m × 1.5m。地表下75cmで関東ローム層上面が確認された。現耕作土から弥生時代後期の土器片，奈良・平安時代の須恵器片が数点出土したが，遺構は確認されなかった。

トレンチ2　8m × 1.5m。地表下110cmで関東ローム層上面が確認された。現耕作土から縄文土器片，奈良・平安時代の土師器片・須恵器片が数点出土したが，遺構は確認されなかった。（新垣）

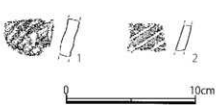
（2）出土遺物

1は縄文土器である。単節斜縄文ＲＬと沈線文が施されている。時期は中期後葉「加曽利Ｅ式」に位置付けられる。2は弥生土器である。付加条第2種（R × R）による縄文が施文されている。時期は「十王台式」に位置付けられる。（色川）

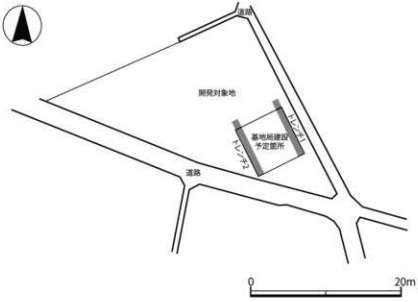
（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺物は出土したものの，耕作土中からの出土であり，遺構も確認されなかったことから，当該地域には埋蔵文化財は存在せず，慎重工事が相当であるとした。（新垣）

第43図　周知外（藤井町地内）の位置



第45図　周知外（藤井町地内）出土遺物



第44図　周知外（藤井町地内）のトレンチ配置

2－15　新田遺跡（第１地点）

所 在 地　水戸市全隈町 1366-1 番地

開発面積　2,300 ㎡

調査期間　平成 19 年 8 月 27 日～ 8 月 30 日

調査原因　吐水槽建設

調査担当　川口武彦

調査概要　開発対象地は山林であり，伐採等が行われていなかった為，重機の進入が困難な状況であった。そこで開発対象地内に 7 箇所のトレンチを設定し（第 47 図），人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

第 46 図　新田遺跡（第１地点）の位置

（1）トレンチの概要

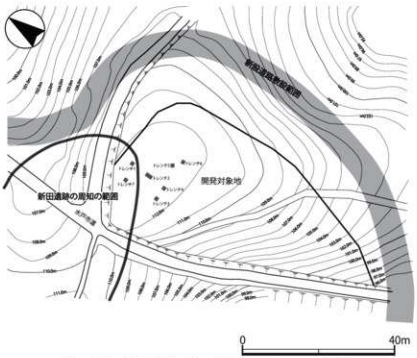
トレンチ１　1m × 1m。地表下 90cm で関東ローム層上面が確認された。縄文土器片が数点出土したが，遺構は確認されなかった。

トレンチ２　1.9m × 0.9m。地表下 70cm で関東ローム層上面が確認されるとともに，縄文時代早期の集石と炉穴とみられるプランが確認された（第 48 図）。遺物は縄文時代早期の土器片が出土した。

トレンチ３　1m × 1m。地表下 70cm で関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ４　1m × 1m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ５　1m × 1m。地表下 90cm で関東ローム層上面が確認され，縄文時代早期の炉穴とみられるプランを確認した（第 48 図）。遺物は確認されなかった。



第 47 図　新田遺跡（第１地点）のトレンチ配置

トレンチ６　1m × 1m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

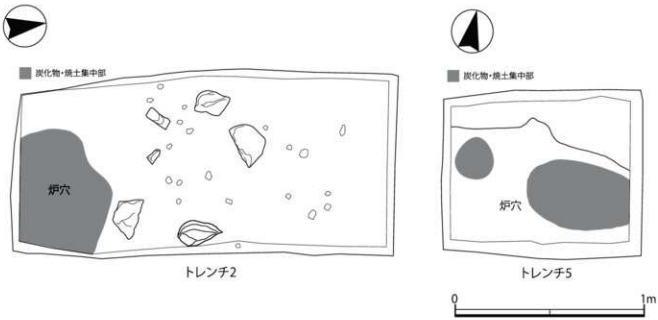
トレンチ７　1m × 1m。地表下 90cm で関東ローム層上面が確認された。縄文土器片が数点出土したが，遺構は確認されなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

周知の範囲内から遺構・遺物が確認されたことから，事業者と保存について協議を重ねたが，吐水槽建設の代替地の確保は困難であり，吐水槽建設に伴い生じる削平土を用いて水戸市道を新設することから，工事の計画変更は困難であるとの結論に達した。そのことから，記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後，平成 21 年 5 月 1 日～ 7 月 31 日にかけて財団法人茨城県教育財団埋蔵文化財調査部による本発掘調査が行われ，竪穴住居跡 3 軒，炉跡 7 基，陥し穴 6 基，土坑 43 基，道路跡 1 条，ピット群 1 箇所，集石 7 基，石器集中地点調査区 3 箇所が確認された。

竪穴住居跡は出土した土器から，縄文時代後期のものであることが確認されたほか，調査区の北部からは陥し穴



第 48 図　新田遺跡（第 1 地点）トレンチ 2・5 遺構検出状況

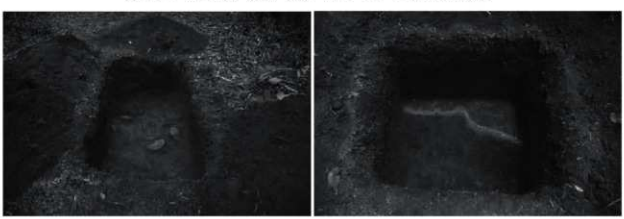


写真 16　トレンチ 2 炉穴・集石検出状況（北から）　写真 17　トレンチ 5 炉穴検出状況（南から）

6 基，中央部からは炉跡が確認された。遺物は縄文時代早期・後期の土器のほかに石鏃や石匙，磨製石斧 、奈良・平安時代の土師器・須恵器も出土している。（川口）

2－16　台渡里遺跡（第34次）

所 在 地　水戸市渡里町字宿屋敷3028-8番地

開発面積　286㎡

調査期間　平成19年4月4日～4月5日

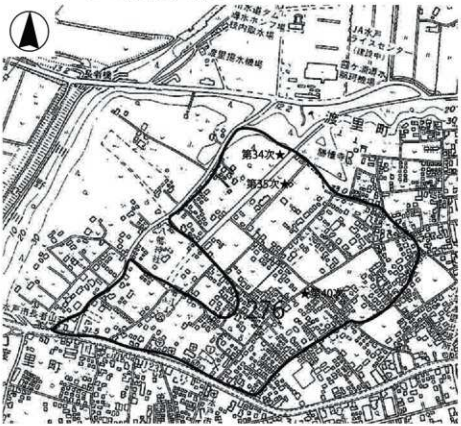
調査原因　個人住宅建築

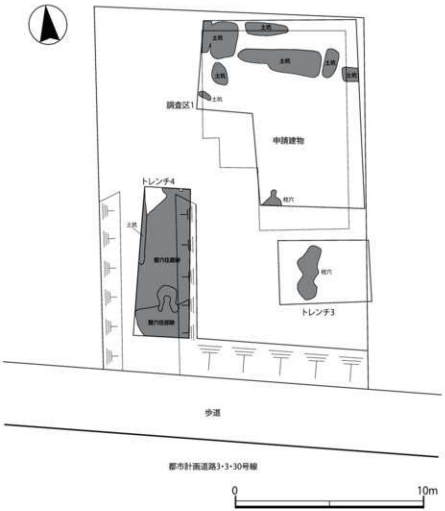
調査担当　川口武彦・渥美賢吾

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分，進入路掘削部分にトレンチおよび調査区を設定し（第50図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

調査区1（トレンチ1・2）　申請建物部分に2m×1mのトレンチ2本を設定したが，調査の結果，土坑9基および掘立柱建物跡の柱穴1基が確認されたため，2本のトレンチを1つの調査区に拡張した。最終的な調査面積は58.22㎡である。地表下30～50cmで関東ローム層上面が確認された。遺物は古墳時代・奈良・平安時代の土師器や須恵器が出土した。


第34次
第35次
第40次
渡里町
JA水戸
ライスセンター
（建設中）
渡里排水機場
渡里排水機場
渡里排水機場



第 50 図　台渡里遺跡（第 34 次）のトレンチ配置

2－17　台渡里遺跡（第 35 次）

所 在 地　水戸市渡里町字前原 2812-1 地先～字宿屋敷 3011 地先（市道常磐 222 号線）

開発面積　968 ㎡

調査期間　平成 19 年 5 月 27 日～ 5 月 28 日

調査原因　公共下水道管埋設

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地である水戸市道常磐 222 号線，部分にトレンチおよび調査区を設定し（第 51 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

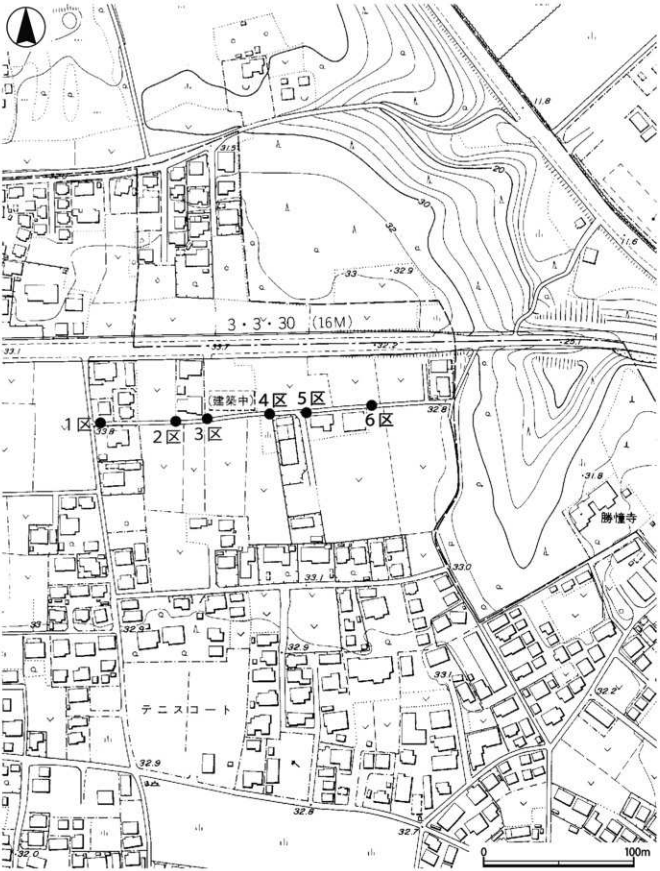
1 区　3m × 1m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

2 区　3m × 1m。地表下 140cm で関東ローム層上面が確認された。竪穴住居跡とみられるプランと土坑 1 基が確認された。

3 区　3m × 1m。地表下 100cm で関東ローム層上面が確認された。遺構・遺物は確認されなかった。

4 区　1.5m × 1mのトレンチを2箇所設定した。地表下 100cmで関東ローム層上面が確認された。土坑およびピット群を確認した。

5 区　3m × 1m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認された。遺構はトレンチに対して北西方向から南東方向に斜交する溝跡が 1 条確認された。遺物は奈良・平安時代の須恵器が出土した。



第51図　台渡里遺跡（第35次）のトレンチ配置

写真 18　1 区掘削状況（西から）

写真 19　5 区溝跡検出状況（南東から）

写真 20　4 区ピット群検出状況（西から）

6 区　3m × 1m。地表下 80cm で関東ローム層上面が確認された。遺物は奈良・平安時代の須恵器が出土した。　（新垣）

（2）出土遺物

1 は須恵器無台坏である。底面に墨書「厨□」がみられる。時期は 8 世紀後葉に位置付けられる。　（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構・遺物が確認されたことから，事業課である水戸市下水道工事第一事務所と保存について協議を重ねたが，保存は困難であるとの結論に達したことから，記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

第 52 図　台渡里遺跡（第 35 次）出土遺物

その後，平成 19 年 11 月 21 日～平成 20 年 1 月 18 日にかけて株式会社東京航業研究所による本発掘調査が行われ，古墳時代の竪穴住居跡 7 軒，溝跡 1 条，土坑 2 基，奈良・平安時代の掘立柱建物跡 1 ～ 2 棟，溝跡 4 条，井戸跡 1 基，土坑 1 基，中・近世の溝跡 1 条，井戸跡 2 基，土坑 1 基，ピット群が確認されるとともに，古墳時代後期～奈良・平安時代の土師器，須恵器，灰釉陶器などが出土した。注目される遺物としては「郡厨」，「郡」，「寺仲」，「枚井村」などの墨書土器が出土している（佐々木・林・川口・関口　2008）。　（新垣）

2－18　台渡里遺跡（第40次）

所 在 地　水戸市渡里町字狸久保2771-12

開発面積　243.15㎡

調査期間　平成20年3月19日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　川口武彦

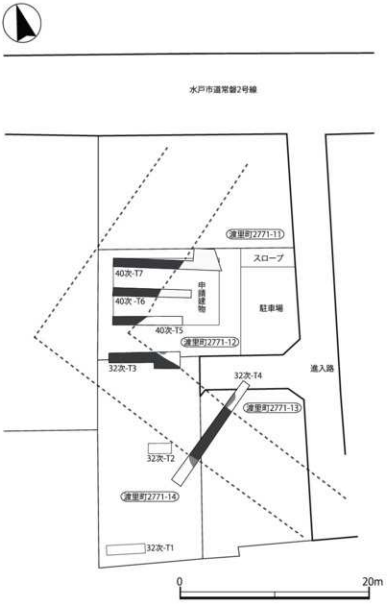
調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを3本設定し（第53図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチの名称については，宅地造成前に実施した試掘調査（第32次調査）の番号を踏襲し，トレンチ5～7と命名した。

トレンチ5　7.5m×1m。地表下1.5～1.4mの深さより幅2.5m以上の溝跡と見られるプランが検出された。覆土にはロームブロックが多数含まれることから人為的に埋め戻されたとみられる。遺物は出土しなかった。

トレンチ6　8.5m×1m。地表下1.3mの深さより幅4.8m以上の溝跡と見られるプランが検出された。覆土にはロームブロックが多数含まれることから人為的に埋め戻されたとみられる。遺物は出土しなかった。



第53図　台渡里遺跡（第40次）のトレンチ配置

トレンチ7　8.5m×1mで設定したが，浄化槽部分について5.98㎡の拡張を行った。トレンチの中央から西寄りの位置で地表下1mの深さより幅6m以上の溝跡と見られるプランが検出された。覆土にはロームブロックが多数含まれることから人為的に埋め戻されたとみられる。遺物は出土しなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

32次調査では北西方向から南東方向に向かう溝跡が確認されていたが（川口・色川・関口・新垣　2008），今般の試掘調査により，本地点の南西野位置で北東方向に90°向きを変えることが判明した。溝跡の上面幅は6m以上あると想定され，覆土はロームブロックを多数含むことから人為的に埋め戻されたとみられる。

溝跡が確認されたことから，事業者と保存について協議を重ねたが，人為堆積による溝跡が申請建物の部分の地下の大半に埋没しており，地耐力が弱く，パイル工法はやむを得ないとの結論に達したことから，記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。

その後，平成20年4月30日～平成20年6月4日にかけて水戸市教育委員会による本発掘調査が行われ，溝跡の底面から7世紀後半の土師器や須恵器などが出土し，それに並行する柵列1条と主軸の一致する7世紀後半

の竪穴住居跡１軒が確認されたことから，７世紀後半以前に営まれた豪族居館もしくは評段階に遡る初期官衙域である可能性が高まった。（川口・渥美）

２－19　東照宮境内遺跡（第１地点）

所 在 地　水戸市宮町 2-4
開発面積　3,140.27 ㎡
調査期間　平成 19 年９月 14 日（１次調査）
　　平成 19 年 10 月 17 日（２次調査）
調査原因　マンション建設
調査担当　関口慶久・渥美賢吾
調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および駐車場部分にトレンチを設定し（第 55 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

第 54 図　東照宮境内遺跡（第１地点）の位置

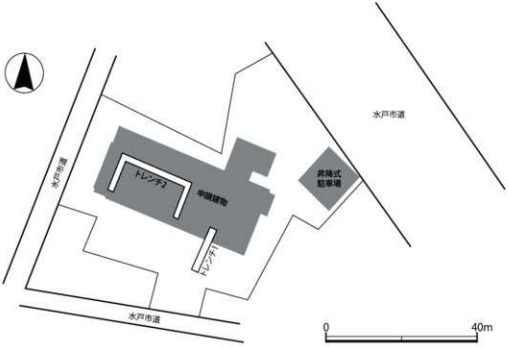
（1）トレンチの概要

トレンチ１　12m × 2m。申請建物部分の南側に設定した。表土下 50cm で地山が確認された。いずれも砂層かもしくは砂利層に到達しており，遺構・遺物は確認されなかった。なおこれらの砂層や砂利層は水平堆積ではなく，傾斜堆積をなしており，南西から北東に向かって傾斜堆積をしている様相が窺えた。

トレンチ２　申請建物部分の西側に南北 10m，東西 17m のコの字状のトレンチを設定した。表土下 60cm で地山（砂利層）が確認された。遺構は確認されなかった。地山は第１回目の試掘調査で確認されたような傾斜堆積はみられず，水平堆積であった。遺物は表土から近世磁器片２点が出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

２次にわたる試掘の結果，地山は礫層に達している状況が確認された。上市台地の基本層序は，関東ローム層（層厚約 2m）・茨城粘土層（層厚約 1m）・上市段丘礫層（層厚約 10m）・砂層の順で堆積していることが判明している。往事の生活面がどのレベルであったのかを推測する材料はないが，近代以前の盛土・硬化面等の人為堆積が全く認められないことから，現代に相応の削平が行われた可能性が高い。従って，当該地区においては，埋蔵文化財は隠



第 55 図　東照宮境内遺跡（第１地点）のトレンチ配置

滅しているものと判断される。1 次調査では地山が傾斜堆積をなしており，2 次調査では水平堆積であることが確認され，当該地域の東側に小規模な谷津が入り込む状況が想定された。上市台地におけるこれまでの試掘調査でも，鋸歯状の小谷が入り込むなど細かな起伏が認められており，それらの自然地形を巧みに利用して水戸城・城下町を整備したことが明らかとなりつつある。今回確認された堆積状況も，上市台地の自然地形ひいては水戸城下町の成立をうかがう貴重な知見として評価されよう。以上のように遺構が確認されず，遺物も表土からの出土であったため，当該地域には埋蔵文化財は存在せず，慎重工事が相当であるとした。（関口）

2－20　長嶋遺跡（第 2 地点）

所 在 地　水戸市大足町 1044-1 番地外

開発面積　5,217.25 ㎡

調査期間　平成 20 年 2 月 21 日

調査原因　個人住宅兼店舗建設

調査担当　川口武彦

調査概要　開発対象地のうち，店舗建物部分および雨水浸透施設部分にトレンチを設定し（第 57 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1　6m × 1.5m。関東ローム層は存在せず，表土下 210cm で粘土層が確認された。湧水が著しく，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2　24m × 1.5m。関東ローム層は存在せず，表土下 70 ～ 90cm で粘土層が確認された。東側部分では湧水が著しかった。西側で近現代の竿穴とみられるプランが 2 箇所確認されたが，遺構は確認されなかった。遺物は須恵器の底部片が表土から 1 点出土したにとどまった。（川口）

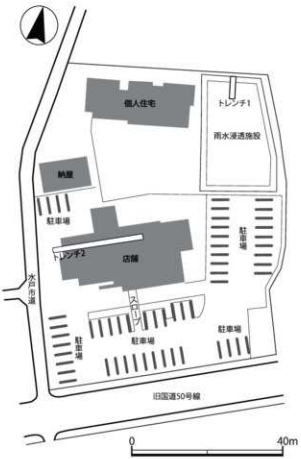
（2）出土遺物

1 は須恵器無台坏，2 は須恵器有台坏である。時期は 9 世紀に位置付けられる。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

遺構は確認されず，遺物も表土から出土したにとどまったことから，慎重工事が相当であるとした。（川口）

第 56 図　長嶋遺跡（第 2 地点）の位置



第 57 図　長嶋遺跡（第 2 地点）のトレンチ配置

第 58 図　長嶋遺跡（第 2 地点）出土遺物

2－21　荷鞍坂遺跡（第１地点）

所 在 地　水戸市酒門町 242-1 番地

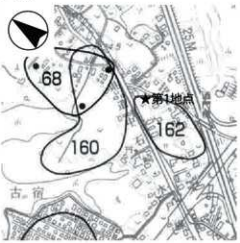
開発面積　990 ㎡

調査期間　平成 19 年 8 月 27 日～ 8 月 28 日

調査原因　コンビニエンスストア建築

調査担当　渥美賢吾・新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，店舗部分および浄化槽部分，土壌処理システム部分，駐車場部分にトレンチを設定し（第 60 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。各トレンチの詳細は下記のとおりである。



第 59 図　荷鞍坂遺跡（第１地点）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ１　当初は 17m × 1.5m で設定していたが，遺構の有無を確認するため，5m × 3m の拡張を行った。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ２　12m × 1m。地表下 45 ～ 15cm で関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。地形が緩やかに傾斜する状況であるため，本来の地形は谷状であったと考えられる。

トレンチ３　25m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され，墳丘の柵平された古墳に伴うとみられる周溝・時期不詳の土坑 1 基が確認された。古墳の周溝は幅 3 m程度で，覆土中に円筒埴輪や形象埴輪の破片を多数包含している。東側に向かうにつれて，周溝のプランは細くなっていく。

トレンチ４　10m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され，トレンチ３で確認されていた古墳の周溝が確認された。遺物は埴輪片が多数出土した。

トレンチ５　9m × 1m。地表下 20cm で関東ローム層上面が確認され，トレンチ３・４で確認されていた古墳の周溝が確認された。

トレンチ６　16m × 1.5m。地表下 50 ～ 20cm で関東ローム層上面が確認され，トレンチ３～５で確認されていた古墳の周溝のほかに古墳の周溝を切る溝状遺構が確認された。溝状遺構の確認面には硬化面が認められることから，道路状遺構の可能性がある。

トレンチ７　19m × 1.5m。地表下 20cm で関東ローム層上面が確認されたが，トレンチ３～６で確認されていた古墳の周溝が確認された。周溝の幅は西側に向かうにつれて幅が細くなる。

トレンチ８　19m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され，時期不詳のピット群が多数確認された。

トレンチ９　19m × 1.5m。地表下 15cm で関東ローム層上面が確認され，時期不詳のピット群・土坑が確認された。

（2）確認された埋蔵文化財の取扱い

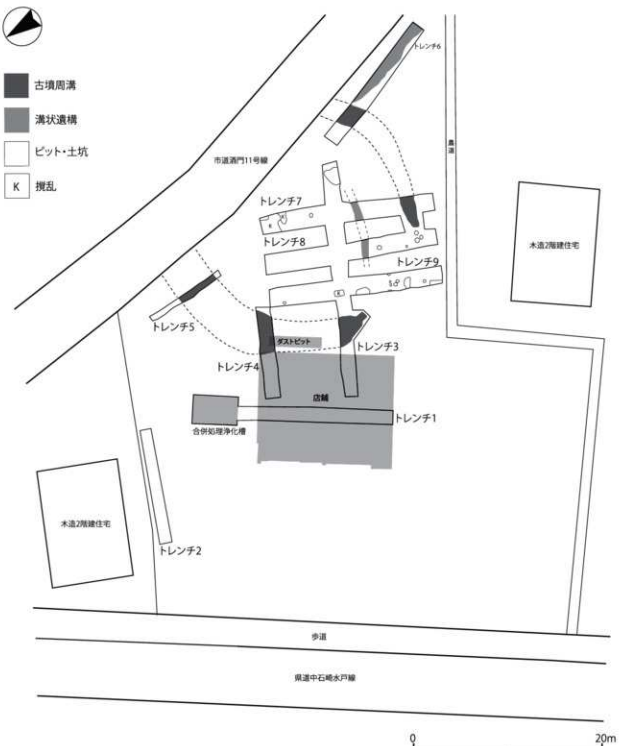
荷鞍坂遺跡はこれまで，弥生時代後期の土器片，古墳時代・奈良・平安時代の土師器片・須恵器片，円筒埴輪片が採集されており，弥生時代以降の集落や付近に古墳が存在していた可能性も考えられていたが，具体的な性格は不明であった。

そのような中，この度の試掘調査により台地縁に外径 30m，内径 25m の墳丘が削平された円墳の周溝が確認され，近隣に営まれている酒門台古墳群を構成する古墳のひとつであったことが判明した。

周溝内からは円筒埴輪や形象埴輪が出土していることから 6 世紀代の後期古墳であると考えられ，酒門台古墳群が遅くとも 6 世紀代から形成されていたという事実を示す資料を得ることができた。

このように遺構が確認されたため，事業者と保存について協議を重ねたが，古墳が確認された駐車場部分についても 30cm 以上の保護層の確保は困難であるとの結論に達したことから，記録保存による本発掘調査が相当であるとした。その後，平成 20 年 4 月 21 日～ 5 月 21 日の期間に毛野考古学研究所による本発掘調査が行われ，試掘

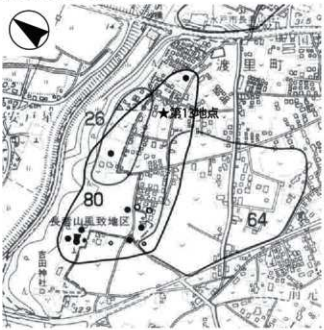
調査で確認されていた円墳の周溝と道路状遺構のほかに井戸跡1基，土坑12基，ピット62基（うち掘立柱建物跡1棟，柵列2条），生垣跡2条が確認された。遺物は縄文土器（前期）・石鏃，弥生土器（後期）・紡錘車，埴輪（円筒埴輪，朝顔形円筒埴輪，形象埴輪）・鉄鏃・土師器壺，奈良・平安時代の須恵器（坏，甕），近世陶磁器・土器・瓦・鉄製刀子・釘・銅製煙管が出土した（有山・長井・渥美　2009）。なお，試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため，本発掘調査の報告書に収録した。（渥美）



第60図　荷鞍坂遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2－22　西原古墳群（第 13 地点）

所 在 地　水戸市渡里町字野木 3370-6，3370-7
開発面積　286 ㎡
調査期間　平成 20 年 2 月 28 日
調査原因　個人住宅建築
調査担当　川口武彦・渥美賢吾
調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分にトレンチを設定し（第 62 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。



第 61 図　西原古墳群（第 13 地点）の位置

（1）トレンチの概要

12.5m × 2m で設定していたが，東側については幅 1.5m となった。地表下 60 ～ 90cm で関東ローム層上面が確認されるとともに，幅 2.0 ～ 3.0m の古墳の周溝とみられる円形状のプランが検出された。その断面構造および土層堆積状況を確認するため，部分的にサブトレンチを設定し，掘削した。その結果，周溝の深さは 50cm で底面は平坦であることが確認された。覆土は 2 層からなり，いずれも自然堆積の様相を示していた。遺物は周溝に設定したサブトレンチ内から土師器片・須恵器片・凝灰岩片が出土した。

凝灰岩片は主体部に凝灰岩の切石等を採用した横穴式石室が採用されていることを示す資料とみることができる。というのも，昭和 26 年に茨城高等史学部によって行われた本古墳群の第 5 号墳・第 6 号墳の発掘調査（大森 1952a，1952b）では，凝灰岩の横穴式石室が主体部に採用されていることが確認されているからである。

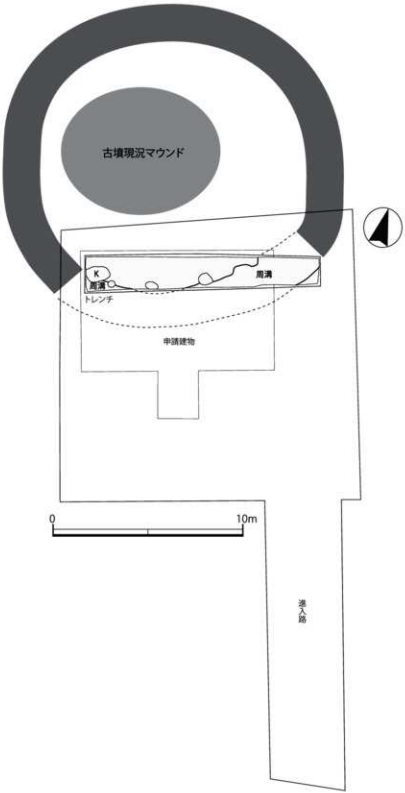
今般の開発対象地の北側には，東西 8.0m，南北 6.0m，高さ約 1.0m の古墳と見られる低墳丘が現存しており（第 62 図，写真 22），トレンチ内で検出された周溝がその墳丘を取り囲む様相を呈していることから，内径 16.0m，外径 21.0m の円墳であった可能性が高い。（川口・渥美）

（2）出土遺物

1 は須恵器無台坏である。時期は 8 世紀後葉に位置付けられる。2 は土師器坏である。時期は 7 世紀中葉に位置付けられる。3 は縄文時代の剥片である。打面および末端部両方に折断面を有し，打面側の折断面が腹面側から，末端部側の折断面が背面側からの加圧によるものとみられる。背面の剥離面は主要剥離面と同一方向であることから，打面を固定し，連続的に剥片剥離を行う過程で生じたものとみられる。右側縁には二次加工の可能性がある 5 枚の小さな剥離痕が連続的に形成されている。（川口・色川）

写真 21　円墳周溝検出状況（西から）

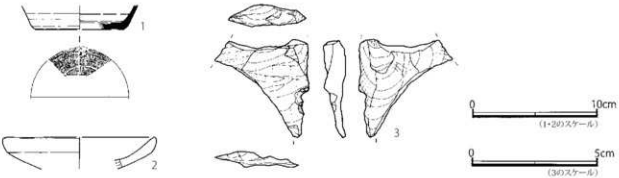
写真 22　隣接地古墳墳丘（南東から）



第 62 図　西原古墳群（第 13 地点）のトレンチ配置と隣接古墳の位置関係

（3）確認された埋蔵文化財の取扱い

円墳に伴うとみられる周溝が確認されたことから，事業者と保存について協議を重ねた。その結果，申請建物部分については 30cm 以上の保護層が確保できることから，工事立会が相当であるとした。　（川口・渥美）



第 63 図　西原古墳群（第 13 地点）出土遺物

2－23　東組遺跡（第 1 地点）

所 在 地　水戸市元吉田町 379-1 外
開発面積　2,3255 ㎡
調査期間　平成 20 年 2 月 19 日～2 月 20 日（1 次）
　　平成 20 年 3 月 12 日（2 次）
調査原因　物販店舗建築
調査担当　川口武彦・新垣清貴・木本挙周
調査概要　開発対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが，計画地の大半が周知の埋蔵文化財包蔵地である「吉田古墳群」,「薬王院東遺跡」,「お下屋敷遺跡」,「水戸南高校遺跡」に隣接しているため（第 64 図），埋蔵文化財専門職員による現地踏査を実施した。その結果，土器片の散布が認められ，遺構の存在が予測された。事業者に試掘調査の実施について協力を求めたところ，重機を提供するとともに，試掘調査の実施に協力する旨，了解が得られた。その後，日程調整を行い，平成 20 年 2 月 19 日～20 日および 3 月 12 日の 3 日間に試掘調査を実施することとなった。トレンチは開発対象地内に 11 箇所設定し（第 65 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

第 64 図　東組遺跡（第 1 地点）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ 1　25m × 1.5 m。地表下 70cm で関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 2　28m × 1 m で当初設定していたが，遺構が確認されたため，9m × 3.5m の拡張を行った。地表下 50cm で関東ローム層上面が確認されるとともに近世陶磁器を包含する性格不明の土坑 2 基が確認された。

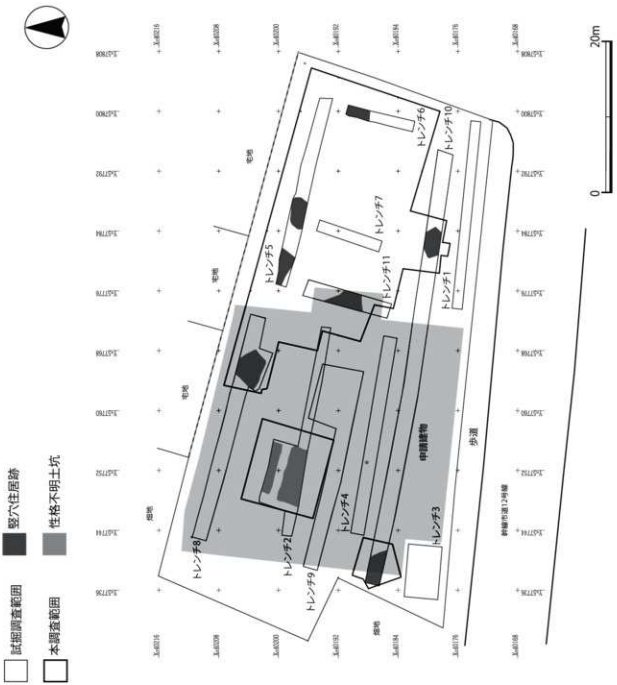
トレンチ 3　7m × 4.5 m。地表下 40cm で関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 4　26m × 4.5 m。地表下 40cm で関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 5　26m × 1.5 m。地表下 40cm で関東ローム層上面が確認されるとともに，奈良・平安時代の土師器・須恵器を含む竪穴住居跡 2 軒が検出された。

トレンチ 6　9m × 1.5 m。地表下 60cm で関東ローム層上面が確認されるとともに，竪穴住居跡 1 軒が検出された。

トレンチ 7　9m × 1.5 m。地表下 40cm で関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく，遺構・遺物は確認されなかった。



第65図　東組遺跡（第1地点）のトレンチ配置

写真23　トレンチ2性格不明土坑検出状況（南東から）

写真24　トレンチ5竪穴住居跡検出状況（西から）

トレンチ８　31m × 2 mで当初設定していたが，遺構が確認されたため，5m × 2mの拡張を行った。地表下40cmで関東ローム層上面が確認されるとともに竪穴住居跡１軒が確認された。

トレンチ９　27m × 2 mで当初設定していたが，遺構の有無を確認するために 8m × 4mの拡張を行った。地表下40cmで関東ローム層上面が確認された。トレンチャーによる攪乱が著しく，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ10　58m × 1.5 m。地表下 40 ～ 90cmで関東ローム層上面が確認されるとともに，竪穴住居跡２軒が確認された。

トレンチ11　12m × 2 m。地表下 40cmで関東ローム層上面が確認されるとともに，竪穴住居跡１軒が確認された。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

以上の試掘結果に基づき，事業者と協議を重ねた結果，遺構の保存は困難であるとの結論に達したことから，記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。その後，平成 20 年３月 21 日から４月 25 日の期間に有限会社毛野考古学研究所による本発掘調査が実施された。本発掘調査では，試掘調査で確認されていた竪穴住居跡７軒，性格不明土坑２基のほかに竪穴住居跡７軒が確認された。遺物は縄文土器，打製石斧，弥生土器（後期），土師器（古墳前・奈良・平安），須恵器（奈良・平安），土師質土器（中・近世），陶磁器（中・近世）等が出土した（南田・渥美　2009b）。なお，試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため，本発掘調査の報告書に収録した。

（川口・木本）

２－24　開江宿遺跡（第１地点）

所 在 地　水戸市開江町字宮久保 1219-3

開発面積　215.37 ㎡

調査期間　平成 19 年７月５日

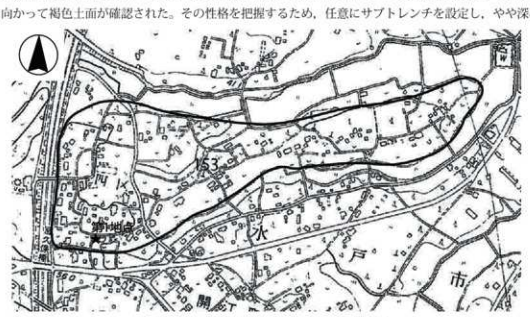
調査原因　個人住宅建築

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分にトレンチを１本設定し（第 67 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ１　7m × 1.5 m。地表下 60cmで関東ローム層上面が確認された。表土中より縄文時代中期の土器片が出土したが，遺構は確認されなかった。トレンチ東側において鹿沼軽石層のブロックが混入したローム土がみられ，西側に向かって褐色土面が確認された。その性格を把握するため，任意にサブトレンチを設定し，やや深めに掘削



第 66 図　開江宿遺跡（第１地点）の位置

した。その結果，関東ローム層上面は東側よりも100cm下がる状況が確認され，緩やかに傾斜する地形であることが判明した。また，現況での地形環境からも当該地域は埋没谷であったと考えられる。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺物は縄文時代中期の土器片が表土中から出土したものの，遺構は確認されなかったことから慎重工事が相当であるとした。　（新垣）

第67図　開江宿遺跡（第1地点）のトレンチ配置

2－25　舞台遺跡（第4地点）

所 在 地　水戸市三湯町86-2

開発面積　99.99㎡

調査期間　平成19年9月28日

調査原因　通信基地局建設

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，鉄塔部分建設部分にトレンチを3本設定し（第69図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ1　8.5m×1.5m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，覆土中に古墳時代終末期の土師器・須恵器を含む竪穴住居跡とみられるプランが確認された。その性格を把握するために，北側の壁に沿って東西方向にサブトレンチを設定し，遺構の底面まで掘削した結果，柱穴とみられる円形のプランが2基確認されるとともに平坦な硬化面が確認された。以上の状況から，当該遺構は竪穴住居跡である可能性が高いと判断され，SI01と銘々した。

トレンチ2　5m×1m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

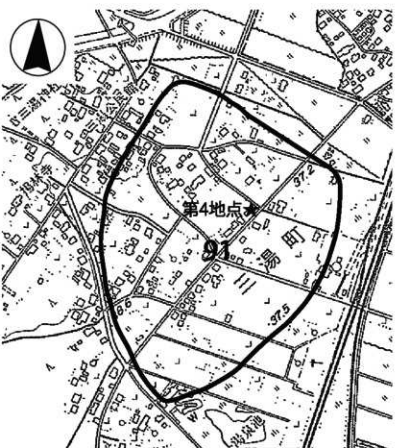
トレンチ3　3.5m×1m。地表下50cmの深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，トレンチ1で確認されたSI01の延長部分が確認された。

（新垣）

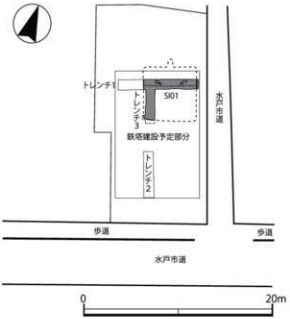
（2）出土遺物

1は第1号住居跡（SI01）の床面直上から検出された土師器坏である。時期は7世紀中葉に位置付けられる。

（色川）



第68図　舞台遺跡（第4地点）の位置



第 69 図　舞台遺跡（第 4 地点）のトレンチ配置

第 70 図　舞台遺跡（第 4 地点）出土遺物

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

鉄塔建設部分から古墳時代終末期の竪穴住居跡が 1 軒確認されたことから，事業者と保存について協議を重ねた。その結果，今般の通信基地局の建設計画を中止するとの結論に達したことから，竪穴住居跡は保存されることになった。　（新垣）

2－26　堀遺跡（第 11 地点）

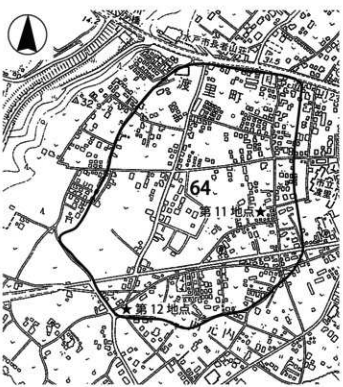
所 在 地　水戸市渡里町 3293-1，3294-1
開発面積　320.27 ㎡
調査期間　平成 19 年 6 月 15 日
調査原因　個人住宅建築
調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを 2 本設定し（第 72 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

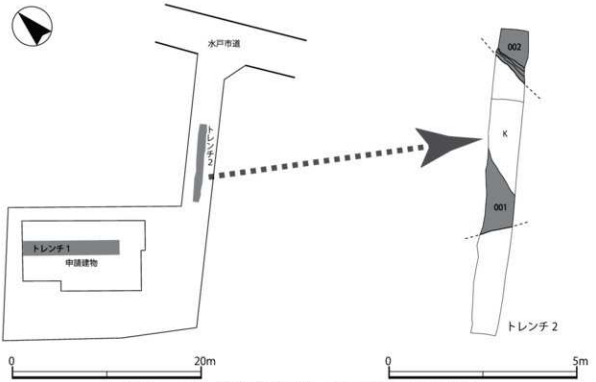
（1）トレンチの概要

トレンチ 1　10m × 1.5 m。地表下 70cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが近現代の攪乱が著しく，遺構は確認されなかった。表土中より平安時代の土師器片・須恵器片が出土した。

トレンチ 2　8m × 1 m。地表下 70cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，平安時代のものとみられる竪穴住居跡が 2 軒確認された。いずれも部分的な検出にとどまっており，全容は明らかでないが，それぞれ 001 と 002 と仮に銘々した。001 は東半分が攪乱により損壊を受けているため，遺存状況はあまり良くないが，北側で 2.3m 以上，南側において 8m 以上ある。確認面から 9 世紀以降の土師器片・須恵器片が出土した。002 は北側において 0.7m 以上，南側において 1.4m 以上ある。部分的にサブトレンチを設定し，掘削した結果，床面までの深度は 0.3m 程度であることが確認された。周溝を伴っており，床面は硬化が著しかった。覆土中より 9 世紀以降の土師器片・須



第 71 図　堀遺跡（第 11・12 地点）の位置



第 72 図　堀遺跡（第 11 地点）のトレンチ配置と遺構検出状況

写真 25　トレンチ 2-002 号遺構調査状況（西から）　写真 26　トレンチ 2-001 号遺構検出状況（西から）

恵器片・内面研磨黒色処理土師器片が出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

浄化槽埋設部分から平安時代の竪穴住居跡が 2 軒確認されたため，事業者とその保存について協議を重ねた。その結果，浄化槽埋設部分を開発対象地内の別地点に変更するとの結論に達した。そのことから，工事立会が相当であるとした。（新垣）

2－27　堀遺跡（第 12 地点）

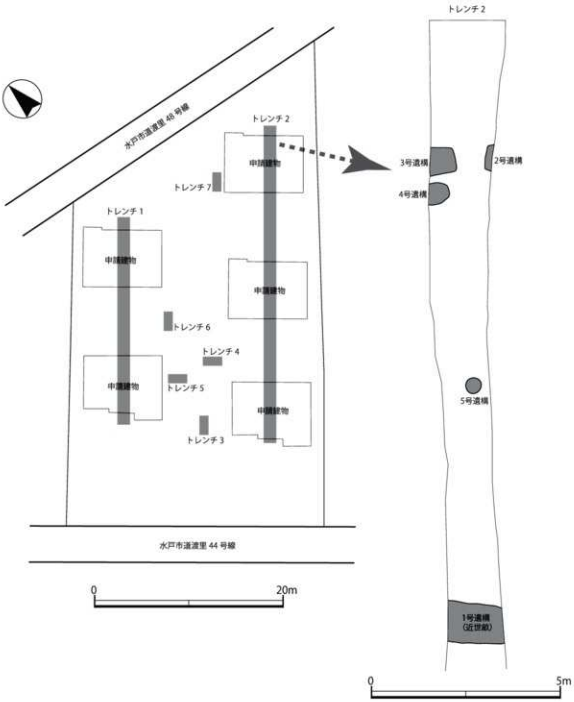
所 在 地　水戸市堀町 396-1 ほか
開発面積　952.68 ㎡
調査期間　平成 20 年 1 月 29 日
調査原因　個人住宅建築
調査担当　関口慶久・木本華周

調査概要　開発対象地のうち，5 棟の申請建物部分および浄化槽埋設部分にトレンチを 7 本設定し（第 73 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ 1　22m × 1.4 m。地表下 200 ～ 140cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，地表下 100cm の暗褐色土層上面より近世の畝状遺構が検出されたが，関東ローム層上面では遺構は確認されなかった。表土中より土師器片が若干出土した。

トレンチ 2　33.8m × 1.4 m。地表下 200 ～ 130cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，地表下 100cm の暗褐色土層上面より近世の畝状遺構が検出された。また，関東ローム層上面では 4 基の遺構が確認された。



第 73 図　堀遺跡（第 12 地点）のトレンチ配置と遺構検出状況

写真 27　トレンチ 2 遺構検出状況（北東から）

写真 28　トレンチ 2 遺構検出状況（西から）

いずれもプラン確認の段階にとどめた為，性格や年代については未詳である。しかしながら，本遺跡の主体的時期は奈良・平安時代にあり，遺物も当該期の土師器・須恵器片に限られることを考慮すれば，奈良・平安時代の所産である可能性は高い。遺構の性格はプランの形状をみる限り，柱穴と思われる。特に 2 号遺構と 3 号遺構はともに方形プランを呈し，覆土の様相も近似していることから，同時期の所産と考えて良いだろう。表土中より縄文土器と土師器片が少量出土した。

写真 29　トレンチ 2 畝状遺構検出状況（西から）

トレンチ 3　2m × 1 m。地表下 140cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 4　2m × 1 m。地表下 160cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 5　2m × 1 m。地表下 140cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 6　2m × 1 m。地表下 200cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

トレンチ 7　2m × 1 m。地表下 170cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

申請建物部分から掘立柱建物跡に関わる遺構が確認されたため，事業者とその保存について協議を重ねた。その結果，盛土により 30cm 以上の保護層を確保できることになったため，工事立会が相当であるとした。

（関口・木本）

2－28　町付遺跡（第１地点）

所 在 地　水戸市酒門町 638-1
開発面積　996.68 ㎡
調査期間　平成 19 年 11 月 19 日～ 11 月 20 日
調査原因　共同住宅建築
調査担当　新垣清貴
調査概要　開発対象地のうち，申請建物部分および浄化槽埋設部分，進入道路スロープ部分にトレンチを３本設定し（第 75 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

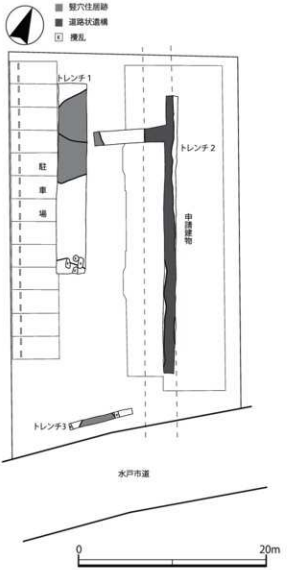
トレンチ１　20m × 3 m。地表下 40 ～ 50cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，古墳時代前期の竪穴住居跡２軒が検出された。覆土上面からは弥生土器片，土師器片が多量に出土した。

トレンチ２　30m × 1.5 m。地表下 50cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，道路状遺構が検出された。部分的にサブトレンチを設定し掘削した結果，道路状遺構は溝状の掘り方を持つもので，上面幅は 3m，中央部分に幅 1m の硬化面が広がっている状況が確認された。硬化面は 10cm ～ 20cm の厚さを持っており，最低でも２

第 74 図　町付遺跡（第１地点）の位置

写真 30　トレンチ２道路状遺構検出状況（南から）

写真 31　トレンチ３竪穴住居跡検出状況（西から）



第 75 図　町付遺跡（第１地点）のトレンチ配置

度に亘る改修を受けているものとみられる。

トレンチ3　7m × 1 m。地表下 50cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，古墳時代前期の竪穴住居跡 1 軒が検出された。覆土上面からは土師器片が出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

以上の試掘結果に基づき，事業者と協議を重ねた結果，遺構の保存は困難であるとの結論に達したことから，記録保存を目的とした本発掘調査が相当であるとした。その後，平成 20 年 2 月 12 日から 2 月 22 日の期間に有限会社毛野考古学研究所による本発掘調査が実施された。本発掘調査では，試掘調査で確認されていた竪穴住居跡 3 軒，道路状遺構のほか，新たに竪穴住居跡 5 軒が確認された。遺物は弥生土器（後期）・磨製石斧（弥生後期），土師器（古墳前・中・平安），須恵器（奈良・平安），勾玉（古墳前）等が出土した（南田・渥美　2009a）。なお，試掘調査で出土した遺物については本発掘調査の出土遺物と接合する可能性が高いため，本発掘調査の報告書に収録した。

（川口・新垣）

2 － 29　水戸城跡（第 10 次）

所 在 地　水戸市三の丸 2-9-22（水戸市立第二中学校）

開発面積　41,285 ㎡

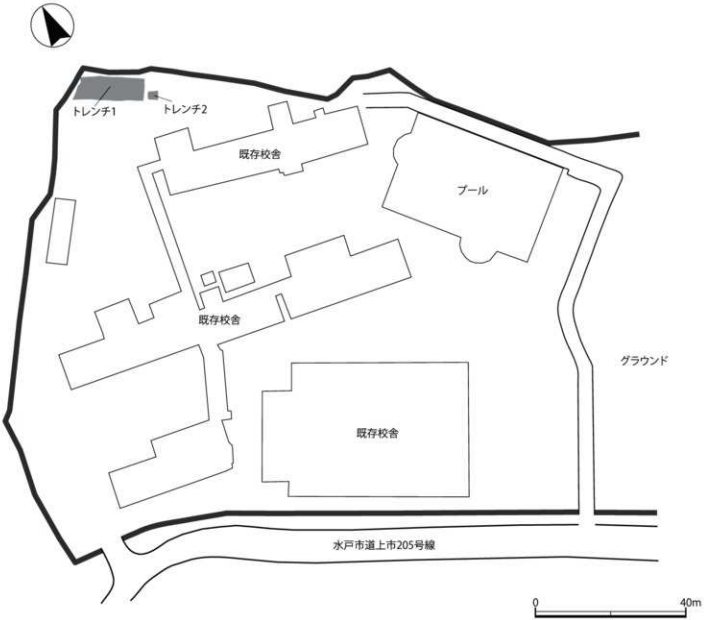
調査期間　平成 19 年 8 月 20 日～ 8 月 22 日（1 次）
　　平成 19 年 9 月 12 日（2 次）

調査原因　受水槽埋設工事

調査担当　関口慶久・川口武彦・新垣清貴

調査概要　開発対象地にトレンチを 2 本設定し（第 77 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

★第 10 次
172
水戸市立第二中学校
水戸市立第一高校
水戸市立第三高校
水戸市立第二小学校
水戸郵便局
水戸合同庁舎
水戸市加倍ホップ場
水戸市立三の丸小学校
水戸地方裁判所
水戸市役所
水戸市立第一小学校
水戸市立第三小学校
水戸市立第一中学校
水戸市立第三中学校
水戸市立第二中学校
水戸市立第一高校
水戸市立第二高校
水戸市立第三高校
水戸市立第一小学校
水戸市立第二小学校
水戸市立第三小学校
水戸市立第一中学校
水戸市立第二中学校
水戸市立第三



第 77 図　水戸城跡（第 10 次）のトレンチ配置

（1）トレンチの概要

トレンチ 1　総面積 99.75 ㎡。表土直下の標高 28.6m 前後に黒褐色の硬化層が確認された。硬化層上面で遺構の確認を行ったが，確認されなかった。硬化層には古代の土師器片等が包含されており，近代にかかる遺物は確認されなかった。また硬化層にパックされる形で中世の柱穴が検出されていることから，この硬化層は近世以降の整地層と判断された。

この硬化層の下層にあたる標高 28.3m 前後で関東ローム層上面が確認され，40 基の遺構プランが検出された。大半は直径 40cm 前後の円形プランを呈しており，このうち 3 基について半截したところ，いずれも柱穴であることが確認された（第 78 図の Pit1 ～ Pit3）。このことから，ほかの遺構についても柱穴である可能性が高い。遺構覆土からの出土遺物はなかった。

このような無数の柱穴が群をなす状況は水戸市立第二中学校校舎改築に伴う第 1 次調査においても確認されており，その埋没年代は中世まで遡ることが判明している。第 1 次調査区と本トレンチは近接していることから，今回検出されたピット群も第 1 次調査区で検出されたピット群と一連のものであることはほぼ疑いない。

第 78 図　水戸城跡（第 10 次）トレンチ 1・2 平面・土層断面

第 79 図　水戸城跡（第 10 次）出土遺物

本トレンチの調査により，ピット群が二の丸曲輪の北西部一帯にまで及んでいることが判明した。本地区は二の丸曲輪の端部にあたることから，土塁や土塀など防禦施設の存在が想定されたものの，そのような遺構は確認されなかった。この状況は中世水戸城二の丸の土地利用を考える上で重要な所見である。数百～数千のピットが群として検出される状況は，八戸城をはじめ多くの中世城館に共通してみられる。これらの遺構の理解には，無数のピット群から一つでも多くの建物跡を見出だす作業が欠かせない。従って，今後は第１次調査区および第２次調査区の所見とあわせて水戸城二の丸におけるピット群を詳細に分析し，土地利用の復原につなげていく必要がある。

トレンチ２　2.5m × 2.5 m。表土下 60cm で黒褐色土が約 25cm の厚さで堆積しており，その下面から近世以前に遡るとみられる土坑とピットが各１基ずつ確認された（第 78 図）。遺物は出土しなかった。　（関口・川口）

（2）出土遺物

１～６は縄文土器である。１は細沈線文，２・３は太沈線文が施されている。４は口縁部で，内外面に条痕文が

写真 32　トレンチ１遠景（南から）

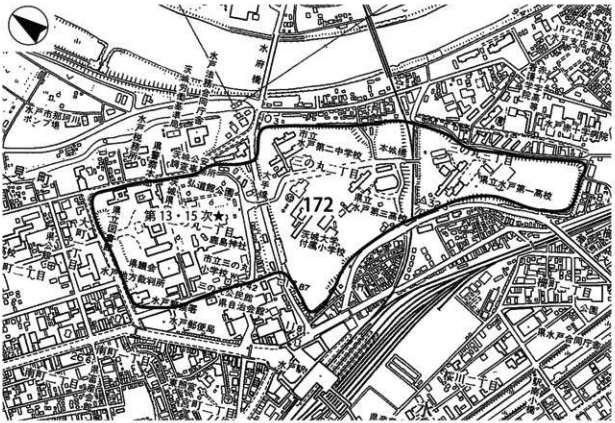
写真 33　トレンチ１遺構検出状況（東から）

写真 34　トレンチ 1-Pit1 土層断面（南から）

写真 35　トレンチ 1-Pit2 土層断面（南から）

写真 36　トレンチ 1-Pit3 土層断面（南から）

写真 37　トレンチ２遺構検出状況（西から）



第 80 図　水戸城跡（第 13・15 次）の位置

施されている。5は胎土に繊維を含み，外面に単節斜縄文ＲＬが施されている。6は口縁部で，半截竹管状工具による文様が施されている。1～3は早期中葉「田戸下層式」，4は早期後葉「鵜ヶ島台式」，5は前期前半の繊維土器，6は前期後半「浮島式」に相当する。（色川）

（3）確認された埋蔵文化財の取り扱い

以上の試掘結果に基づき，事業者と協議を重ねた結果，遺構確認面よりも上に 30cm の保護層を確保できるとの結論に達し，遺構の保存が可能となったことから，本地点については慎重工事が相当であるとした。（関口）

2－30　水戸城跡（第 13・15 次）

所 在 地　水戸市三の丸 1 丁目 6-29（旧弘道館）

開発面積　13.6 ㎡

調査期間　平成 19 年 8 月 31 日～ 9 月 4 日（第 13 次）
　　平成 20 年 2 月 13 日（第 15 次）

調査原因　便所改修工事・排水管改修工事

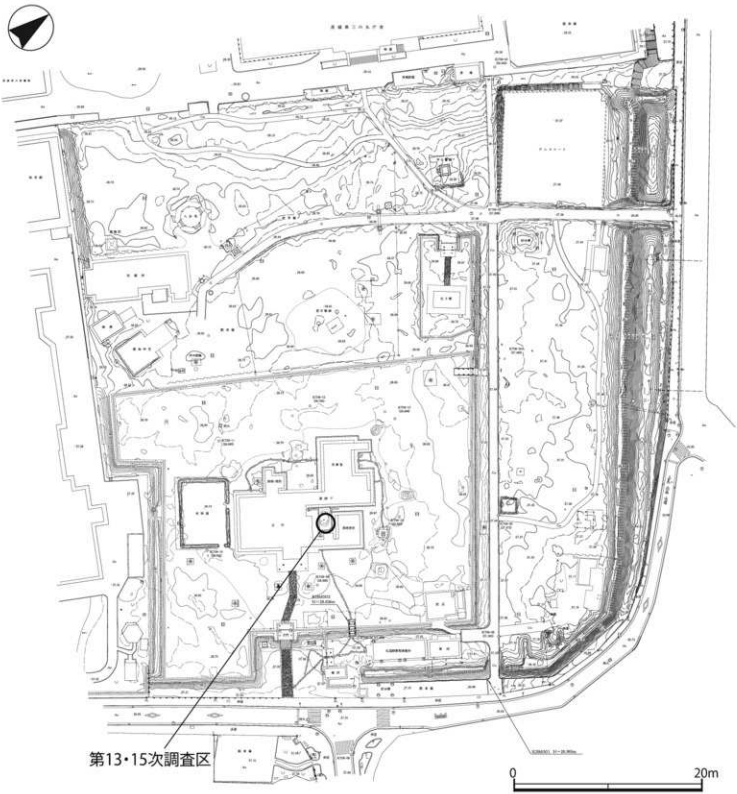
調査担当　関口慶久・新垣清貴

調査概要　今般の土木工事は弘道館政庁内にある老有司直所脇便所改修工事および排水管の改修工事である。改修に際し，まずは新たに掘削する範囲を調査対象とするトレンチ調査を実施し（第 13 次），その後に既設排水道管の撤去工事に際して立会調査（第 15 次）を実施することとした。調査の詳細は下記のとおりである。

（1）第 13 次調査の概要

トレンチをＬ字状に設定し（第 82 図），人力により関東ローム層上面を目標に掘削を行った。総面積は 2.9 ㎡。基本層序は 3 層に区分された。各土層の詳細は下記のとおりである。

Ⅰ層　褐色土層（10YR4/6）。粘性やや弱，締まりやや強。ローム粒（1mm）微量，炭化物やや多量，砂利やや多量，



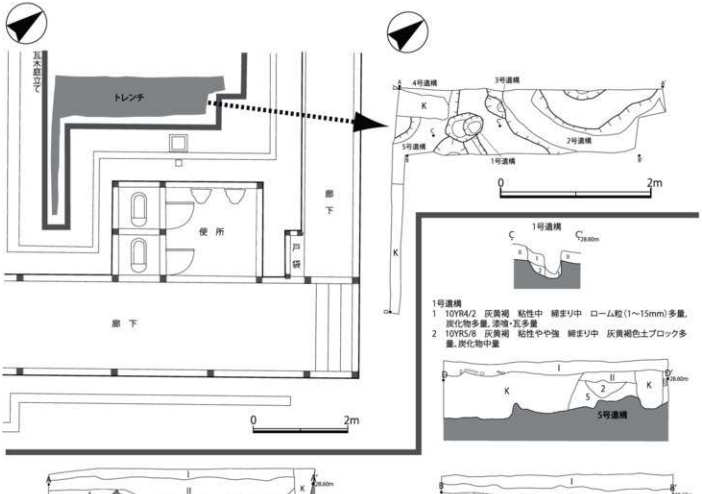
第 81 図　水戸城跡（第 13・15 次）調査区の位置

瓦多量に含む。現代の整地層。

Ⅱ層　暗褐色土層(10YR3/4)。粘性やや弱，締まりやや強。ローム粒(1mm)微量，炭化物少量含む。近代の整地層カ。

Ⅲ層　関東ローム層。近世以前。

確認面はそれぞれ異なるが，遺構は合計 5 基確認された。遺構の詳細は下記のとおりである。



2号遺構
1 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(1～40mm)やや多量,炭化物微量
2 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(1～30mm)極多量
3 10YR3/3 暗褐 粘性やや弱 締まりやや弱 ローム粒(1～40mm)と暗褐色土との混合層,4層との境界に瓦多量に含む
4 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり弱 ローム粒(1～30mm)と暗褐色土との混合層,3層との境界に瓦多量に含む
5 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まりやや強 ローム粒(1～20mm)と黒褐色土との混合層
6 10YR4/2 灰黄褐 粘性やや強 締まり中 ローム粒(1～10mm)微量
7 10YR4/2 灰黄褐 粘性やや強 締まり中 ローム粒(1～10mm)多量,灰黄褐色土との混合層
8 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(1～5mm)多量

4号遺構
1 10YR3/2 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(1～3mm)多量,炭化物微量

5号遺構
1 10YR3/3 暗褐 粘性やや強 締まり中 ローム粒(1～2mm)少量
2 10YR2/1 黒 粘性やや強 締まり強 ローム粒(1～3mm)少量
3 10YR3/4 黒褐 粘性中 締まり強 ローム粒(1～2mm)多量
4 10YR3/4 黒褐 粘性中 締まり強 ローム粒(1～2mm)やや多量
5 10YR3/4 黒褐 粘性中 締まり強 ローム粒(1～2mm)多量,ロームブロック(1～100mm)と黒褐色土との混合層
6 10YR4/3 にぶい黄褐 粘性やや強 締まり強 ローム粒(1～20mm)多量

第82図 水戸城跡(第13次)トレンチ内遺構配置・土層断面

1号遺構 確認面はⅡ層上面である。平面プランは楕円形を呈する。ピット状の円形土坑である。柱痕等は確認されなかったものの,形状からみて柱や杭などが南方向へ抜き取られたものと判断してよいだろう。Ⅱ層上面で検出された遺構は本遺構のみである。

2号遺構 確認面は関東ローム層上面である。3号遺構を切っている。植栽痕とみられる。今回の調査で最も規模の大きな遺構で,推定直径は2.2mを測る。掘方底部外周が一段掘り込まれ,中央が盛り上がりながらも中心部分が凹むタイプ。植栽を移植する際にこういった形状になることが,東京都豊島区や新宿区の江戸遺跡の調査で確認されている。いわゆる抜き取り痕タイプの一形態である。

3号遺構 確認面は関東ローム層上面である。柱穴である。2号遺構にプランの半分以上を切られている。柱痕

写真 38　1 号遺構完掘状況（西から）

写真 39　2 号遺構完掘状況（南から）

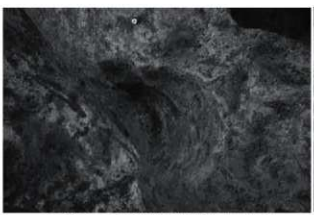


写真 40　3 号遺構完掘状況（西から）

写真 41　4 号遺構完掘状況（東から）

写真 42　5 号遺構完掘状況（西から）

跡は認められなかったが，形状・規模から柱穴とみられる。

4 号遺構　確認面は関東ローム層上面である。5 号遺構と切り合うものの，東半分が攪乱に切られていることもあり，平面プランや遺構の性格については不明である。

5 号遺構　確認面は関東ローム層上面である。4 号遺構と切り合う。東西両端が攪乱によって切られており，平面プランは明らかでない。掘方底面は凹凸が著しく，植栽痕と判断される。抜き取った痕跡は見いだされないため，いわゆる立ち枯れ痕と判断される。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

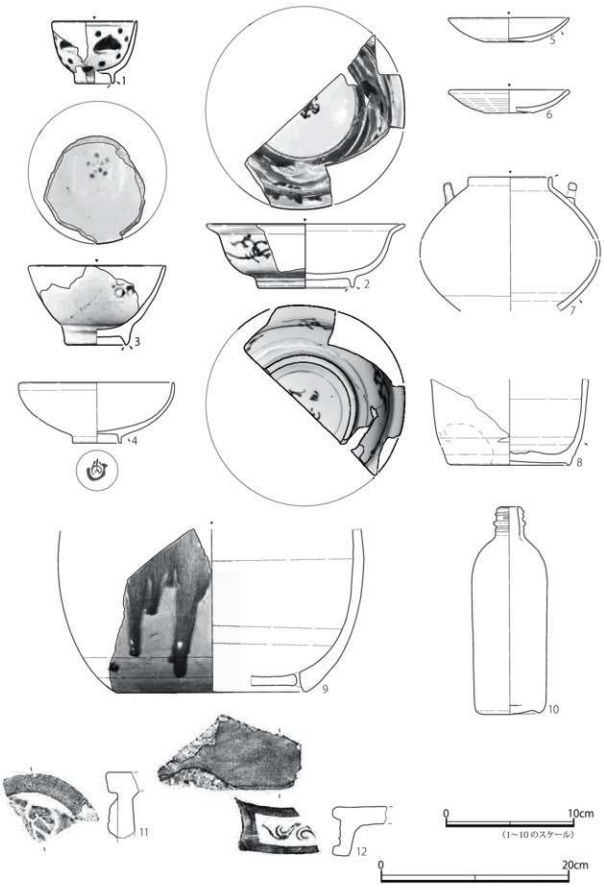
遺構・遺物が確認されたが，事業計画の変更は困難であることから，記録保存はやむを得ない状況であった。本来であれば，原因者負担による記録保存の発掘調査を実施すべきところであるが，今般の土木工事による影響が及ぶ範囲は僅か 2.9 ㎡であり，面積も狭小であるため，試掘調査の一環で記録保存を行った。（関口）

（3）第 15 次調査の概要

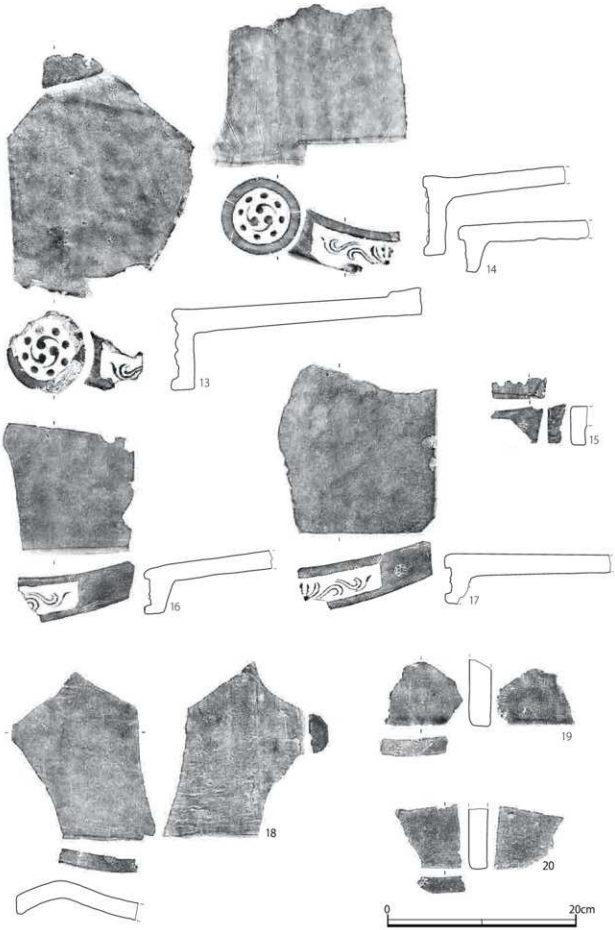
13 次調査の後，平成 20 年 2 月 13 日に既設排水管を撤去し，新しい排水管を埋設する工事に伴い，立会調査を実施した。その結果，攪乱層や遺構の覆土と見られる土層中より 13 次調査の際に出土したものと同様の遺物が出土したが，狭小であったため，遺構の全容については確認できなかった。遺物の詳細については次節で解説する。

（4）第 13・15 次調査出土遺物

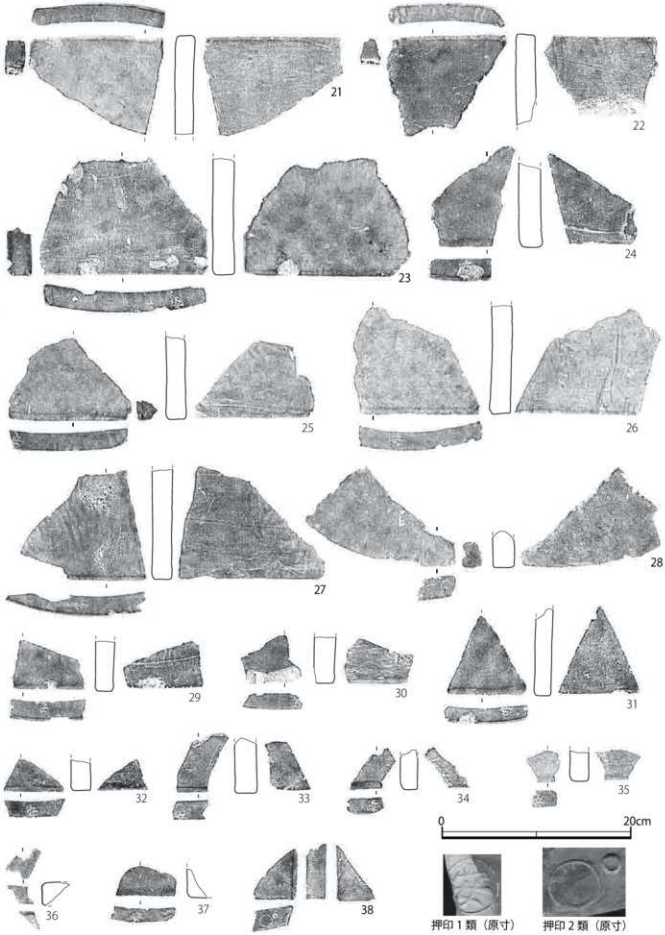
1 は磁器の碗で，小碗である。推定生産地は肥前の可能性が高い。2 は磁器の鉢である。推定生産地は肥前，推



第 83 図　水戸城跡（第 13・15 次）出土遺物（1）



第 84 図　水戸城跡（第 13・15 次）出土遺物（2）



第 85 図　水戸城跡（第 13・15 次）出土遺物（3）

定年代は 18 世紀後半以降とみられる。3 は陶器の碗である。推定生産地は在地産，推定年代は 19 世紀以降とみられる。4 は陶器の碗で，薄茶碗である。推定生産地は京都・信楽，推定年代は 1690 年代～ 1850 年代とみられる。5・6 は陶器の皿，7 は陶器の土瓶である。推定生産地は七面製陶所の可能性が高く，推定年代は 1838 年以降とみられる。8 は陶器の徳利で，灰釉一升徳利である。推定生産地は瀬戸・美濃，推定年代は 1780 年代～ 1860 年代とみられる。9 は陶器の鉢で，植木鉢と考えられる。推定生産地は在地産である。10 は硝子製品である。（色川）

2 次にわたる調査で多数の瓦が出土している。11 は瓦当文様の 2/3 を欠失しているが，三ツ葉葵文軒丸瓦であり，銀燻しが施されている。12 ～ 17 は軒桟瓦である。15 は瓦当文様を欠失しているが，12 ～ 14・16・17 はいわゆる江戸式の瓦当文様に類似する。13・14 は軒丸瓦部の瓦当文様が残存しており，左巻き三つ巴文を中心に周縁に 8 つの珠文を配置する。15 と 17 は軒平瓦部の外区外縁に押印が施されており，円の中に「安」の文字がみられる（押印 1 類）。18 ～ 38 は桟瓦で，いずれも端面に押印を持つ。これらの押印のうち 28 と 38 以外は全て円の中に「安」の文字がみられるが，28 と 38 は円の中に文字はない（押印 2 類）。また，38 は円形の押印の脇に竹管状の工具によるとみられる小さな円があり，28 とも異なる。水戸城跡は 9 地点 20 次にわたる調査が行われているが，出土瓦の報告例は少ない。円の中に「安」の文字を持つ同様の押印瓦は水戸市立第二中学校の校舎建替工事に伴う発掘調査（第 4 地点の 6 次・18 次調査）で出土しているが（調査担当者である河野一也氏・山中菊乃氏の御教示による），5,495 ㎡の調査面積に比して，出土数は少ない。他方，旧弘道館跡内で行われた第 13・15 次調査では僅か 3.3 ㎡の調査で 23 点も出土している。この出土量の差は単なる偶然ではなく，これらの押印瓦が旧弘道館の屋根に葺くために生産されたものであり，水戸市立第二中学校敷地内に存在したとされる旧彰弘館に補修瓦として転用されたことを示している可能性がある。（木本）

2－31　元石川大谷原遺跡（第１地点）

所 在 地　水戸市元石川町字大谷原 2265 外

開発面積　387,583.70 ㎡

調査期間　平成 19 年 10 月 24 日～ 11 月 5 日

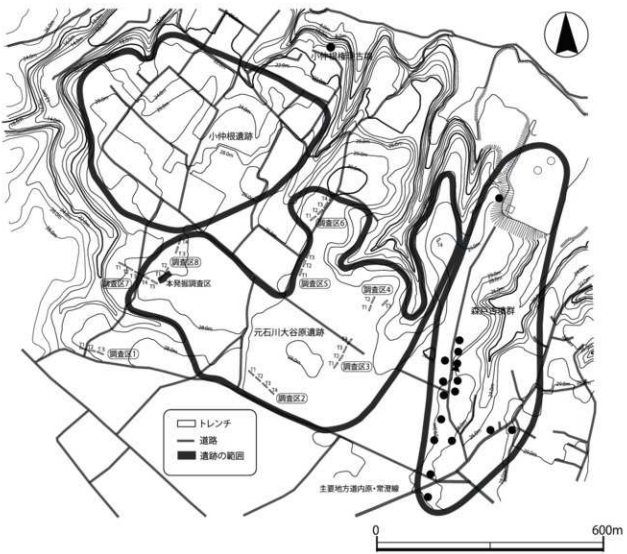
調査原因　宅地造成工事

調査担当　川口武彦

調査概要　開発対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である「小仲根遺跡」および「森戸古墳群」に近接しているが，周知の埋蔵文化財包蔵地には指定されていなかった。開発面積が広大であるため，事業者に試掘調査への協力について申し入れをしたところ，重機の提供も含めて協力が得られる事となった。開発対象地域は８区に区分し，15m ×2m のトレンチを合計 30 本，10m × 2m のトレンチを１本設定し（第 86 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。その結果，複数のトレンチにおいて遺構・遺物が確認された。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたため，事業者に遺跡発見届を提出してもらい，事業者と協議・調整を行った結果，発掘調査はやむを得ないとの結論に達した。そのことから，水戸市教育委員会は大谷原遺跡発掘調査会を組織し，平成 20 年 1 月 21 日～ 2 月 14 日の期間に記録保存を目的とした本発掘調査を実施した。調査では，古墳時代の竪穴建物跡２棟，平安時代の竪穴建物跡３棟が確認され，先土器時代の剥片や縄文土器，土師器，須恵器，灰釉陶



第 86 図　元石川大谷原遺跡（第１地点）のトレンチ配置

器，墨書土器，鉄製鉸具，鉄製刀子，鉄製錠？，球状土錘，砥石，寛永通宝等が出土した（川口・色川・渥美・片平 2008）。なお，試掘調査で出土した遺物については，本発掘調査の遺物と接合する可能性があるため，本発掘調査の報告書に収録した。

（川口）

2－32　若林遺跡（第２地点）

所 在 地　水戸市見川５丁目 1232，1233

開発面積　986 ㎡

調査期間　平成 19 年４月９日～４月 10 日

調査原因　共同住宅建築

調査担当　新垣清貴・木本挙周

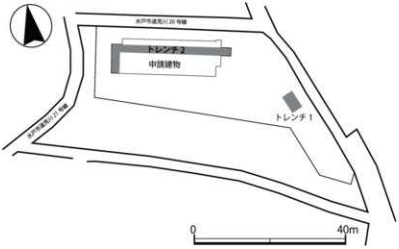
調査概要　開発対象地域のうち，浄化槽部分および申請建物部分にトレンチを２本設定し（第 88 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

第 87 図　若林遺跡（第２地点）の位置

（1）トレンチの概要

トレンチ１　5m × 3m。地表下 50 ～ 60cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構は確認されなかった。遺物は耕作土中より縄文時代中期後葉加曽利Ｅ式の土器片が１点出土した。

トレンチ２　31m × 2m と 5m × 2m のトレンチをＬ状に設定した。地表下 50 ～ 70cm の深さで関東ローム層上面が確認された。遺構は近代以降の所産とみられる土坑１基が確認された。土坑は長軸 190cm，短軸 80cm，深さ 70cm で覆土は締まりが強く，故意に撞き固めた可能性があるが，柱痕跡や柱のアタリ痕等は確認されず，性格は不明である。遺物は耕作土中から縄文時代中期前半の阿玉台式および中期後半加曽利Ｅ式の土器片が 10 数点出土した。



第 88 図　若林遺跡（第２地点）のトレンチ配置

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

２本のトレンチから遺物が出土したものの，いずれも耕作土中からの出土であり，遺構に伴うものではなかった。また，トレンチ２より土坑が確認されたが，構築時期は近代以降とみられることから，埋蔵文化財として取り扱うことは困難であった。このような状況から，当該地域には埋蔵文化財は存在せず，慎重工事が相当であるとした。

（新垣）

2－33　渡里町遺跡（第４地点）

所 在 地　水戸市渡里町 2373-3

開発面積　270.4 ㎡

調査期間　平成 19 年 11 月 13 日，12 月 10 日

調査原因　個人住宅建築

調査担当　新垣清貴

調査概要　開発対象地域のうち，浄化槽部分および申請建物部分にトレンチを３本設定し（第 90 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

（1）トレンチの概要

トレンチ１　8m × 1m。地表下 120cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，奈良・平安時代の土師器・須恵器を含むピット５基，土坑１基が確認された。

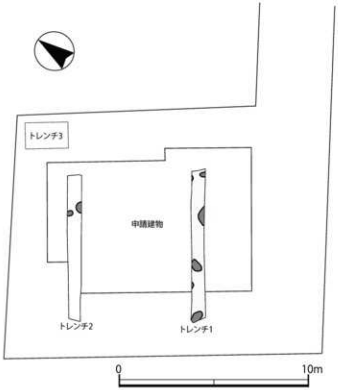
トレンチ２　7m × 1m。地表下 120cm の深さで関東ローム層上面が確認されるとともに，時期・性格不明のピット２基が確認された。

トレンチ３　2.2m × 1.4m。地表下 120cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構・遺物は確認されなかった。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたが，確認深度はかなり深く 30cm 以上の保護層は十分に確保できるため，慎重工事が相当であるとした。　（新垣）

第 89 図　渡里町遺跡（第４・７地点）の位置



第 90 図　渡里町遺跡（第４地点）のトレンチ配置

2－34　渡里町遺跡（第７地点）

所 在 地　水戸市渡里町字八幡前 2598-4
開発面積　331.66 ㎡
調査期間　平成 20 年３月 24 日
調査原因　個人住宅建築
調査担当　川口武彦
調査概要　開発対象地域のうち，浄化槽部分にトレンチを１本設定し（第 91 図），重機を用いて関東ローム層上面を目標に掘削を行った。トレンチの詳細は下記のとおりである。

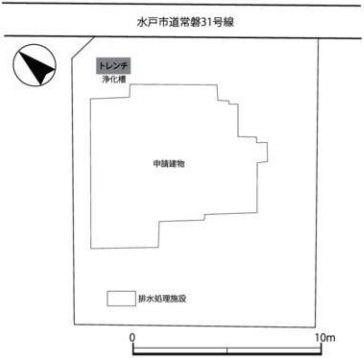
（1）トレンチの概要

2m × 1m。地表下 100cm の深さで関東ローム層上面が確認されたが，遺構は確認されなかった。遺物は焼礫が３点出土した。

（2）確認された埋蔵文化財の取り扱い

遺構・遺物が確認されたが，確認深度はかなり深く 30cm 以上の保護層は十分に確保できるため，慎重工事が相当であるとした。

（川口）



第 91 図　渡里町遺跡（第７地点）のトレンチ配置

第３章　個人住宅建築に伴う本発掘調査

第２章で報告した試掘調査のうち，個人住宅建築に伴い本発掘調査の対象となったのは台渡里遺跡（第 34 次）と大串遺跡（第８地点），大鋸町遺跡（第７地点）の３件であった。これらのうち，台渡里遺跡（第 34 次）については，検出された遺構・遺物が質・量ともに充実しており，１冊の報告書として刊行すべき内容であることから，本報告については次年度以降に刊行する予定である。

本発掘調査は，地下に掘削の及ぶ申請建物部分及び合併浄化槽埋設箇所のうち遺構が確認された箇所を対象とし，重機（バックホウ）により，関東ローム層上面まで表土を掘削し，遺構の精査を行い，確認された遺構を調査の対象とした。遺物は遺構確認面一括遺物，遺構出土遺物に区分し，取り上げを行った。

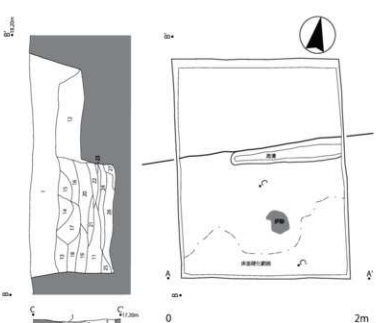
３－１　大串遺跡（第８地点）

所 在 地　水戸市塩崎町字原 1077-3
調査面積　5.0 ㎡
調査期間　平成 19 年５月 21 日～５月 25 日
検出遺構　竪穴住居跡１軒
出土遺物　縄文土器・土師器・軽石
調査担当　川口武彦
調査概要　試掘調査の際に浄化槽埋設予定部分に設定したトレンチ３から確認された第１号住居跡を対象とした。

（1）第１号住居跡

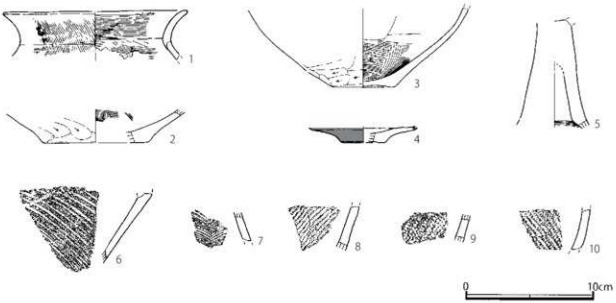
確認できた住居跡の規模は東西 1.75m，南北 1.25 ～ 1.5m の範囲で，遺構確認面から床面までの深さは 50 ～ 60cm である（第 93 図）。覆土はロームブロックやローム人為堆積に

第 92 図　大串遺跡（第８地点）の位置



1　2.5YR4/6　赤褐　粘性弱　締まり強　焼土ブロック20%，炭化粒子3%（炉埋土）
2　10YR3/4　暗褐　粘性弱　締まり中　ロームブロック50%，黒色土ブロック20%（炉内）

第 93 図　大串遺跡（第８地点）第１号住居跡



第 94 図　大串遺跡（第 8 地点）出土遺物（網部は赤彩範囲）

第 4 表　大串遺跡（第 8 地点）出土遺物総量

出土遺構	出土遺物	縄文時代（後期）				弥生時代（後期）				古墳時代（前期）				奈良・平安時代				総計	
		点数	個体	重量	小計	点数	個体	重量	小計	点数	個体	重量	小計	点数	個体	重量	小計	点数	重量
SI01	土師器・甕									80		647	80					80	647
	土師器・高坏									1		149	1					1	149
	土師器・壺									1		15	1					1	15
	土師器・鉢									1		7	1					1	7
	弥生土器					3		30	3									3	30
トレンチ3・廃土	縄文土器	1		35	1													1	35
	弥生土器・壺					1		6	1									1	6
	土師器・高坏									1		29	1					1	29
	須恵器・甕													1		9	1	1	9
区トレンチ3	土師器・甕									5		55	5					5	55
総計		1	0	35	1	4	0	36	4	89	0	902	89	1	0	9	1	95	982

※ 重量の単位は g

よる埋没とみられ，23 層に分層された（第 93 図）。焼土粒や炭化粒を含んでいる層もあることから，火災による焼失あるいは人為的放火による廃絶を経ている可能性がある。掘り方はローム ブロックを主体としており，10cm ～ 16cm の厚さで堆積している。床面は平坦であるが，壁際から 40 ～ 60cm 南側が硬化している。

トレンチの中心よりやや南に寄った位置ではが跡とみられるプランが検出されており，その規模は東西 24cm，南北 25cm であった（第 93 図）。焼土ブロックが多数含まれていたが，層厚は 2cm と浅く，単に廃絶時に伴う焼土が堆積していただけの可能性もある。（川口）

（2）出土遺物

出土遺物の総量は第 4 表のとおりである。主体を占めるのは第 1 号住居跡（SI01）の時期である古墳時代前期の遺物であるが，縄文時代後期・弥生時代後期・奈良・平安時代の遺物の少量ながら出土している。

1 ～ 5 は，第 1 号住居跡（SI01）に伴う遺物で，すべて土師器である。1 は甕形土器で，内外面ともに刷毛目調整されている。4 は壺形土器で，外面が赤彩されている。5 は高坏形土器である。時期は古墳時代前期後半に位置付けられる。

6 は縄文土器である。斜行沈線文系土器で，後期中葉「加曽利 B 式」に相当する。7 ～ 10 は弥生土器である。7 は櫛歯状工具（3 本）による下向きの連弧文が施されている。8・9 は R を Z 巻き，10 は L を S 巻きした原体（軸不明）による縄文が施文されている。7 ～ 10 は「東中根式」に相当する。（色川）

写真 43　第 1 号住居跡遺物検出状況（東から）

写真 44　第 1 号住居跡遺物検出状況（南から）

写真 45　炉跡土層断面（西から）

写真 46　第 1 号住居跡土層断面（東から）

3－2　大鋸町遺跡（第 7 地点）

所 在 地　水戸市元吉田町 2350-2

調査面積　89.25 ㎡

調査期間　平成 20 年 1 月 31 日～ 2 月 22 日

検出遺構　溝跡 2，土坑 6，ピット 36

出土遺物　縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・青磁・鉄釘・不明鉄製品・鉄滓

調査担当　関口慶久・新垣清貴

調査概要　試掘調査の際に申請建物部分に設定したトレンチから確認された溝跡および土坑，ピットを対象とした。

第 95 図　大鋸町遺跡（第 7 地点）の位置

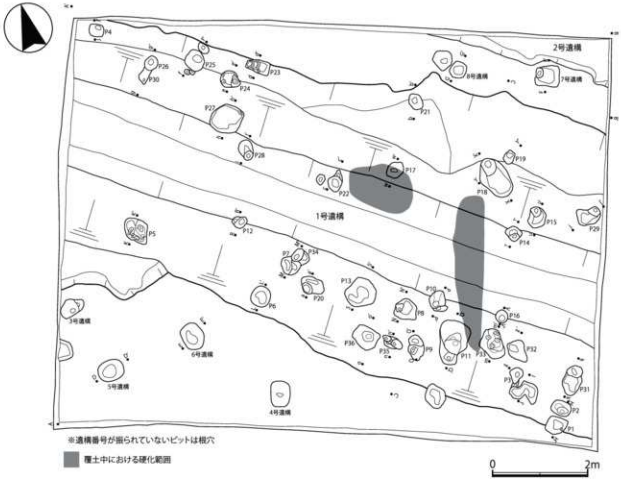
（1）**基本層序**　本地点における基本層序は下記の 2 層に区分される。

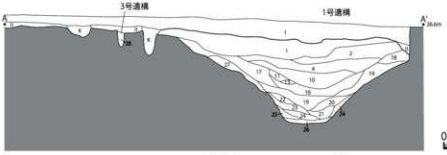
Ⅰ層　10YR2/3　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～ 2mm）多量，ロームブロック（φ～ 2cm）少量，現表土。

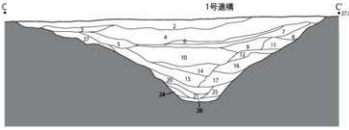
Ⅱ層　10YR2/1　黒　粘性弱　締まり中　ローム粒（φ～ 2mm）多量，1 号遺構の 1 層に近似。1 号遺構の埋め戻しに伴う整地ヵ。

（2）**溝跡**　溝跡は 2 条確認された（第 96 図）。

【1 号遺構】　上面幅 6.2 ～ 4.6m，中段幅 1.8 ～ 1.6m，底面幅 0.8 ～ 0.6m，深さ 1.8 ～ 1.7m。断面は薬研状を呈する。調査区南西では上段部に東西 2.4m，南北 1.0m のテラス状の平坦面がみられるのに対し，調査区の北側では上段部に東西 3.2m，南北 1.4m のテラス状の平坦面がみられる。上段から中段にかけてピットが 36 基みられる（第 5 表，







B-B'

1　10YR3/4　暗褐　粘性中　締まりやや弱　ロームブロック（φ～30mm）, ローム粒（φ～2mm）少量
2　10YR3/4　黒褐　粘性中　締まり中　ロームブロック（φ～30mm）, ローム粒（φ～2mm）多量

A-A'および C-C'

1　10YR2/3　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～3mm）中量
2　10YR3/3　暗褐　粘性中　締まりやや弱　ローム粒（φ～1mm）少量
3　10YR2/2　黒褐　粘性中　締まりやや弱　黒褐色土とローム粒（φ～30mm）の混合層
4　10YR2/2　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～3mm）中量
5　10YR3/3　暗褐　粘性やや弱　締まり中　ローム粒（φ～2mm）やや多量
6　10YR3/3　暗褐　粘性中　締まりやや強　ローム粒（φ～1mm）中量
7　10YR2/3　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～3mm）中量, 硬化層
8　10YR3/2　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～1mm）中量, 炭化物少量
9　10YR2/3　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～5mm）中量
10　10YR2/2　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～3mm）多量, 炭化物少量
11　10YR2/3　黒褐　粘性やや強　締まりやや弱　黒褐色土とローム粒（φ～5mm）の混合層
12　10YR2/3　黒褐　粘性中　締まりやや弱　ローム粒（φ～3mm）少量
13　10YR3/2　黒褐　粘性やや弱　締まりやや弱　ローム粒（φ～3mm）多量
14　10YR2/3　黒褐　粘性やや弱　締まりやや弱　ローム粒（φ～5mm）多量
15　10YR2/2　黒褐　粘性中　締まりやや弱　ローム粒（φ～5mm）多量
16　10YR3/3　暗褐　粘性やや弱　締まり中　暗褐色土とローム粒（φ～90mm）の混合層
17　10YR3/2　黒褐　粘性やや弱　締まり中　ローム粒（φ～50mm）多量
18　10YR3/2　黒褐　粘性やや弱　締まり中　ローム粒（φ～1mm）少量
19　10YR2/3　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～3mm）多量, 炭化物微量
20　10YR3/2　黒褐　粘性弱　締まり中　黒褐色土とローム粒（φ～5mm）の混合層
21　10YR3/2　黒褐　粘性弱　締まり中　ローム粒（φ～5mm）多量
22　10YR3/2　黒褐　粘性弱　締まり中　黒褐色土とローム粒（φ～1mm）の混合層
23　10YR3/3　暗褐　粘性弱　締まり中　暗褐色土とローム粒（φ～3mm）の混合層
24　10YR3/3　暗褐　粘性強　締まり中　暗褐色土とローム粒（φ～1mm）の混合層
25　10YR2/3　黒褐　粘性中　締まり中　黒褐色土とローム粒（φ～5mm）の混合層
26　10YR2/2　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～1mm）多量
27　10YR3/2　黒褐　粘性やや弱　締まり中　ローム粒（φ～10mm）の混合層
28　10YR3/2　黒褐　粘性中　締まり中　ローム粒（φ～2mm）少量, Ag-Kp粒（φ～3mm）微量

第 96 図　大鋸町遺跡（第 7 地点）の遺構配置と 1 ～ 3 号遺構土層断面

1 10YR2/1 黒 粘性弱 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量
2 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~4mm)多量
3 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中弱 ロームブロック(φ~4mm)少量,ローム粒(φ~2mm)中量

1 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 ロームブロック(φ~3mm),ローム粒(φ~2mm)少量
2 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中弱 ロームブロック(φ~3mm),ローム粒(φ~2mm)多量
3 黒 粘性中 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm)少量,焼土粒少
4 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm)多量,焼砂小片電土少

1 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量
2 10YR3/6 褐褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量,ロームブロック(φ~30mm)少量

1 10YR2/2 黒褐 粘性弱 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm)少量,ロームブロック(φ~5mm)少量;焼土粒微量

土坑

1号遺構ピット

P1
1 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量,Ag-Kp中量
2 10YR4/4 褐 粘性中 締まり中弱 ロームブロック(φ~5mm)少量
3 10YR4/4 褐 粘性弱 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量
4 10YR4/4 褐 粘性中弱 締まり中 ローム粒(φ~2mm)

P2
1 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり弱 ローム粒(φ~2mm)少量
2 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり弱 ローム粒(φ~2mm)微量

1 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量
2 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり弱 ローム粒(φ~2mm)少量

1 10YR2/3 暗褐 粘性中弱 締まり中弱 ローム粒(φ~7mm)中量

1 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~30mm)多量

1 10YR2/2 黒褐 粘性中弱 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm)中量
2 10YR2/2 黒褐 粘性中弱 締まり中 ローム粒(φ~10mm)多量

1 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~10mm)多量

1 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中 黒褐色土とローム粒(φ~5mm)の混合層
2 10YR4/6 褐 粘性中 締まり中 黒褐色土中量

1 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm)多量,ロームブロック(φ~2cm)少量
2 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm)多量,ロームブロック(φ~5cm)少量
3 10YR5/6 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量,ロームブロック(φ~3cm)多量

1 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)中量
2 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)中多量
3 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まり中 暗褐色土とローム粒(φ~3mm)の混合層

1 10YR2/1 黒 粘性中 締まり中中弱 ローム粒(φ~2mm)多量
2 10YR2/3 黒褐 粘性中 締まり弱 ローム粒(φ~3mm)多量(1層よりも多い)
3 10YR2/1 黒褐 粘性中 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm),ロームブロック(φ~3cm)多量
4 10YR2/2 黒褐 粘性中 締まり中弱 ローム粒(φ~2mm)多量,ロームブロック(φ~3cm)中量,Ag-Kpブロック(φ~2cm)少量
5 10YR3/3 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~3mm)少量
6 10YR2/6 明黄褐色 粘性中 締まり中弱 ロームブロック(φ~3cm)多量

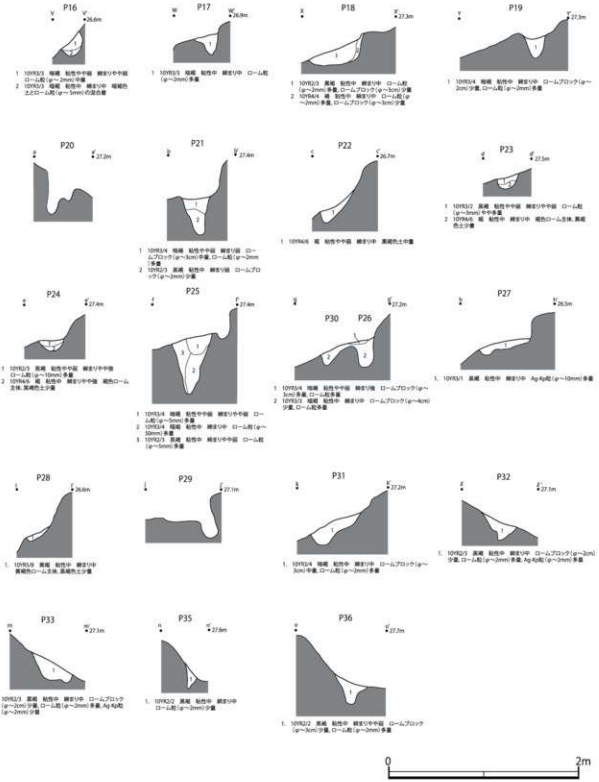
1 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量
2 10YR3/1 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~1mm)多量

1 10YR3/2 黒褐 粘性中中弱 締まり中弱 ローム粒(φ~1mm)中中量
2 10YR3/2 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~5mm)多量

1 10YR3/3 暗褐 粘性中中弱 締まり中中弱 ローム粒(φ~1mm)中量
2 10YR2/3 黒褐 粘性中中弱 締まり中中弱 ローム粒(φ~3mm)中量

1 10YR3/4 暗褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~2mm)多量
2 10YR3/1 黒褐 粘性中 締まり中 ローム粒(φ~1mm)多量

第 97 図　大鋸町遺跡（第 7 地点）5 ～ 8 号遺構・1 号遺構ピット土層断面



第 98 図　大鋸町遺跡（第 7 地点）1 号遺構ピット土層断面・立面

第 97・98 図）。覆土は 27 層に区分される。調査区の中央やや東よりの位置では，覆土の 14 層・16 層に相当する層位で硬化範囲が部分的に認められ，埋没過程で道路などとして機能していた可能性がある。

【2 号遺構】 大半が調査区外に延びているため，全容は不明であるが，確認できた範囲は南北 1.0m，東西 3.8m，深さ 0.4m。断面は逆台形を呈するものとみられる。覆土は 1 層しか確認できていないが，基本層序のⅡ層に覆わ

第５表　大鋸町遺跡（第７地点）土坑・ピット一覧

遺構名	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	遺構名	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	遺構名	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）
3号遺構	0.52	0.32	0.52	1号遺構P10	0.44	0.34	0.14～0.34	1号遺構P24	0.44	0.34	0.10
4号遺構	0.46	0.40	0.29	1号遺構P11	0.96	0.65	0.34～0.54	1号遺構P25	0.42	0.42	0.60
5号遺構	0.54	0.44	0.73	1号遺構P12	0.30	0.26	0.38	1号遺構P26	0.32	0.26	0.26
6号遺構	0.58	0.46	0.68	1号遺構P13	0.65	0.62	0.40	1号遺構P27	0.64	0.62	0.08
7号遺構	0.48	0.44	0.11	1号遺構P14	0.34	0.28	0.12～0.24	1号遺構P28	0.42	0.30	0.06
8号遺構	0.32	0.32	0.20	1号遺構P15	0.46	0.36	0.22	1号遺構P29	0.52	0.46	0.40
1号遺構P1	0.36	0.36	0.24	1号遺構P16	0.28	0.26	0.22	1号遺構P30	0.32	0.20	0.14
1号遺構P2	0.36	0.24	0.06～0.32	1号遺構P17	0.38	0.34	0.20	1号遺構P31	0.66	0.36	0.22
1号遺構P3	0.60	0.40	0.12	1号遺構P18	0.92	0.58	0.28	1号遺構P32	0.52	0.42	0.26
1号遺構P4	0.32	0.24	0.24	1号遺構P19	0.26	0.22	0.20	1号遺構P33	0.66	0.48	0.24
1号遺構P5	0.56	0.44	0.10	1号遺構P20	0.52	0.30	0.14～0.42	1号遺構P34	0.26	0.20	0.30
1号遺構P7	0.42	0.40	0.24	1号遺構P21	0.28	0.26	0.36	1号遺構P35	0.48	0.24	0.24
1号遺構P8	0.50	0.46	0.08～0.12	1号遺構P22	0.48	0.30	0.12	1号遺構P36	0.54	0.46	0.28
1号遺構P9	0.54	0.36	0.44	1号遺構P23	0.49	0.26	0.12				

れている状況で確認されており，Ⅱ層が１号遺構の埋め戻しに伴う整地と考えられることから，１号遺構とほぼ同時期に機能していた可能性が高い。

（３）土坑　土坑は６基確認された（第97図）。いずれも溝跡とは重複していない状態で検出されている。

【３号遺構】　平面形は0.52m × 0.32m の不整円形を呈し，深さ 0.52m。

【４号遺構】　平面形は 0.46m × 0.4m の楕円形を呈し，深さ 0.29m。

【５号遺構】　平面形は0.54m × 0.44mの楕円形を呈し，深さ0.73m。覆土は３層に区分され，自然堆積とみられる。

【６号遺構】　平面形は 0.58m × 0.46m の楕円形を呈し，深さ 0.68m。覆土は４層に区分され，３層は柱痕跡とみられ，４層は柱据方埋土とみられることから，柱穴であったとみられる。

【7号遺構】　平面形は0.48m × 0.44mの楕円形を呈し，深さ0.11m。覆土は２層に区分され，自然堆積とみられる。

【８号遺構】　平面形は 0.32m × 0.32m の楕円形を呈し，深さ 0.2m。覆土は１層に区分され，焼土粒を微量含む。

（関口・川口）

（４）出土遺物

１～３は縄文土器である。単節斜縄文ＲＬと沈線文が施されている。１は中期後葉「加曽利 E2･3 式」，２は「加曽利Ｅ式」，３は後期前葉「堀之内１式」に相当する。

４～６は弥生土器である。４は頸部片で，櫛歯状工具（３本）による菱形文が施されている。５は指頭押捺が施された隆帯が２条以上巡り，以下にＲをＺ巻きした原体（軸不明）による縄文が施されている。６は単節斜縄文ＬＲを施文後，半截竹管状工具による横位線文，２本同時施文具による縦位線文が施されている。４は「東中根２･３式」，５は「十王台式」に相当する。

７～25は須恵器である。７～13は無台坏で，底面にヘラ記号がみられる。14は有台坏，15･16は蓋，17は長頸瓶，18 ～ 20は壺・瓶類，21 ～ 24は甕，25は厚底鉢である。７は９世紀前葉，８は９世紀後葉，９～ 11･13は９世紀，12･17は８世紀，14は７世紀後葉，15･16は８世紀後葉～９世紀前葉，25は８世紀前葉に位置付けられる。

26･27は土師器である。26は甑の把手部である。27は坏で，外面に墨書がみられ，内面は研磨黒色処理が施されている。時期は９世紀に位置付けられる。

28は青磁の碗の破片である。内面に草花文が施されている。時期は中世に位置付けられる。

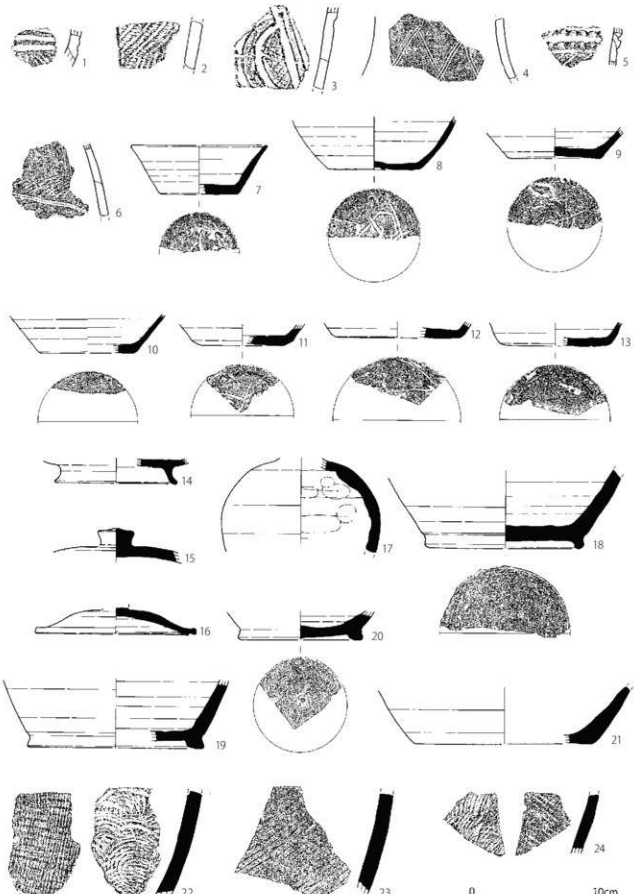
29は定角式磨製石斧の基部側破片である。正面中央には敲打による剥離面がみられ，折断面は裏面側からの加圧による。石材は不明。

30は断面が正方形を呈する鉄製釘である。先端部および頭部は折断により失われており，40°ほどの角度で屈曲している。31は不明鉄製品である。鏃を分割したような形状を呈する板状の金属に刺金状のものが挟まれているが，機能時の姿ではない可能性が高い。32は碗状鉄滓である。遺構に伴うものではないが，近隣に鍛冶工房が存在した可能性がある。

（川口・色川）

（５）土地利用の変遷

大鋸町遺跡は，これまで６地点において発掘調査が行われており，先土器時代から近世に至るまでの土地利用が累積した遺跡として周知されている（井上　1988，斎藤・新垣　2005，佐々木・関口・大橋・林　2006）。本地点にお

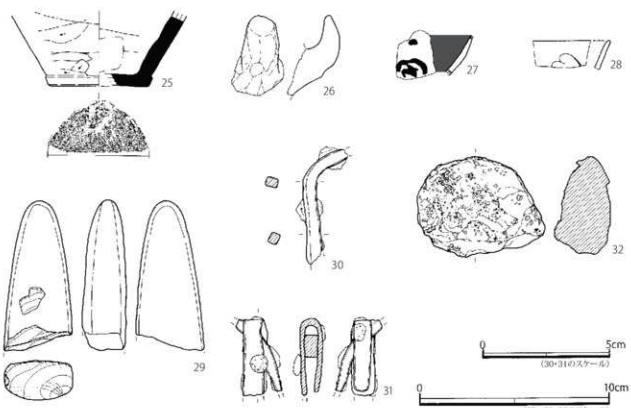


第 99 図　大鋸町遺跡（第 7 地点）出土遺物（1）

いては，検出された遺構および出土遺物から縄文時代，弥生時代，奈良・平安時代，中世，近世の土地利用があったことが確認された。中世以前及び近世の土地利用については遺構が存在せず，遺物しか出土していないため，その内容については定かではないが，既往の調査成果を振り返る限りにおいては，本地点においても中世以前と近世には集落としての土地利用が展開していた可能性が高い。

中世の土地利用に係る遺構は１号遺構と２号遺構である。また，出土遺物がないため，構築時期についてははっきりしないが，３～８号遺構についても１号遺構・２号遺構と並んでいるようにも見えることから，中世の遺構の可能性がある。中世の遺構はこれまでの調査では確認されていなかったが，大鋸町遺跡第３次調査ではカワラケや瓦質土器竈，12 世紀代の白磁皿や 13 世紀後半～ 14 世紀前半代に比定される龍泉窯系の青磁碗，15 世紀前半の青磁碗，15 世紀中葉の瓦質火鉢や 16 世紀中葉の菊皿，至元通宝や元祐通宝，天聖元宝等の銭が出土しており（斎藤・新垣　2005），遺物から中世城館に関連する土地利用が存在していたことが想定されていた。このような近隣の調査地点の遺物の在り方から１号遺構と２号遺構は当遺跡が立地している吉田台地の北縁に営まれている吉田城跡に係る遺構とみて良いように思われる。吉田城跡は，鎌倉時代初期に大掾氏が初めて館を建てて吉田太郎と称したとされており，1416（応永 23）年には江戸氏の支配下に入った。1590（天正 18）年には江戸重通が所領没収となり，佐竹氏の支配下となる。そして 1602（慶長７）年には佐竹義宣が秋田に国替えとなり，吉田城は廃城となる。廃城後には跡地に徳川光圀によって仏日山常照寺が創建され，現在に至っている。吉田城の主郭は現在の常照寺付近にあったと想定され，その範囲は南北 150m，東西 270m の範囲と推定されているが，その他の郭は大鋸町遺跡や酒門台遺跡，横宿遺跡，安楽寺遺跡，吉田神社遺跡の範囲まで広がっていた可能性が高い。文献からは以上のような城主の変遷や土地利用の変遷が知られていたが，大鋸町遺跡（第３地点）の出土品と本地点の遺構・遺物から吉田城の築城が 12 世紀代まで遡ること，城の範囲が大鋸町遺跡の範囲まで広がっていたことが裏付けられたことは大きな成果である。１号遺構や２号遺構が吉田城のどの郭を囲繞する溝であったのかは現状では定かではないが，今後，周辺における調査をさらに進めることにより，吉田城の構造や成り立ちを明らかにしていく必要がある。

（川口・関口）



第 100 図　大鋸町遺跡（第７地点）出土遺物（２）（網部は内面黒色処理）

第６表　大鋸町遺跡（第７地点）出土遺物総量

出土遺構	出土遺物	縄文時代				弥生時代				奈良・平安時代				中世				近世				時期不明				総	総
		破片数	個体	重量	小計	破片数	個体	重量	小計	破片数	個体	重量	小計	破片数	個体	重量	小計	破片数	個体	重量	小計	破片数	個体	重量	小計	破片数	重量
試・トレンチ	縄文土器（中期）	2		38	2																					2	38
	須恵器・無台坏									1		23	1													1	23
	須恵器・有台坏									1		6	1													1	6
	須恵器・甕									1		12	1													1	12
試・トレンチ・廃土	須恵器・有台坏									7		49	7													7	49
	須恵器・坏蓋									2		22	2													2	22
	須恵器・甕（瀬戸産カ）									1		23	1													1	23
	須恵器・短頸壺									1		60	1													1	60
	須恵器・甕									7		230	7													7	230
1号遺構	剥片（珪質頁岩）	1	1	7	1																					1	7
	定角式磨製石斧・石質不明	1	1	325	1																					1	325
	縄文土器（中期）	22		379	22																					22	379
	縄文土器（後期）	1		85	1																					1	85
	縄文土器	2		69	2																					2	69
	鉄滓・鍛冶鉄滓																					1	1	464	1	1	464
	鉄製品・釘																					1	1	11	1	1	11
	鉄製品・不明																					1	1	12	1	1	12
	銭																					59		5,453	59	59	5,453
	弥生土器（後期）					9		97	9																	9	97
	土師器・無台坏									31		210	31													31	210
	土師器・有台坏											6	1													1	6
	内黒土師器・無台坏									32		213	32													32	213
	内黒土師器・有台坏									3		22	3													3	22
	内黒土師器・椀									1		12	1													1	12
	土師器・甕									109		758	109													109	758
	土師器・甕（新治産カ）									91		620	91													91	620
	土師器・鍋									1		47	1													1	47
	須恵器・無台坏									138		1,244	138													138	1,244
	須恵器・無台坏（新治産カ）									2		6	2													2	6
	須恵器・有台坏									23		398	23													23	398
	須恵器・有台坏（瀬戸産カ）									5		83	5													5	83
	須恵器・坏蓋									20		293	20													20	293
	須恵器・坏蓋（瀬戸産カ）									6		86	6													6	86
	須恵器・坏蓋（新治産カ）									1		20	1													1	20
	須恵器・高坏									6		187	6													6	187
	須恵器・盤									1		22	1													1	22
	須恵器・長頸瓶									9		252	9													9	252
	須恵器・短頸壺									6		419	6													6	419
	須恵器・短頸壺（瀬戸産カ）									4		205	4													4	205
	須恵器・鉢									11		360	11													11	360
	須恵器・厚底鉢									1		121	1													1	121
	須恵器・甕									80		1,942	80													80	1,942
	須恵器・甕（瀬戸産カ）									24		770	24													24	770
	須恵器・甕（新治産カ）									6		77	6													6	77
	灰釉陶器・瓶類									2		86	2													2	86
	青磁・碗													1		9	1									1	9
	陶器・常滑焼・甕													5		453	5									5	453
	土師質土器・小皿																	3		12	3					3	12
	磁器・染付碗																	2		7	2					2	7
	陶器・鉢																	1		59	1					1	59
	陶器・摺り鉢																	1		19	1					1	19
	瓦質土器・火鉢																	1		4	1					1	4
1号遺構・P11	須恵器・無台坏									1		9	1													1	9
2号遺構	須恵器・無台坏									1		26	1													1	26
	須恵器・甕（新治産）									1		5	1													1	5
総計		53	2	903	53	9	0	97	9	638	0	8,924	638	6	0	462	6	8	0	101	8	62	3	5,946	62	1,472	16,327

※1　重量の単位はｇ
※2　土師器のうち，推定産地の記述がないものは在地産
※3　須恵器のうち，推定産地の記述がないものは木葉下窯跡群産

写真 47　1 号遺構検出状況（南東から）

写真 48　1 号遺構土層断面（西から）

写真 49　1 号遺構土層断面近景（西から）

写真 50　1 号遺構西壁土層断面（東から）

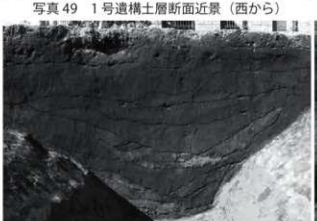


写真 51　1 号遺構西壁土層断面近景（東から）

写真 52　1 号遺構完掘状況（東から）

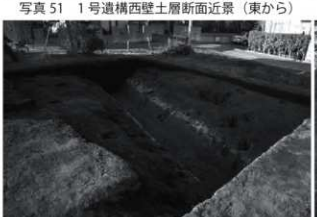


写真 53　1 号遺構完掘状況（南東から）

写真 54　1 号遺構 P3 土層断面（西から）

写真 55　1 号遺構 P5 土層断面（東から）

写真 56　1 号遺構 P32 土層断面（東から）

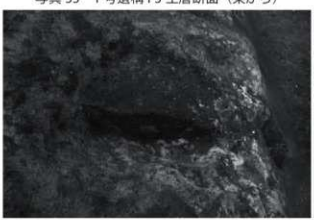


写真 57　1 号遺構 P33 土層断面（東から）

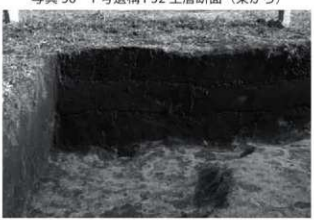


写真 58　2 号遺構土層断面（西から）

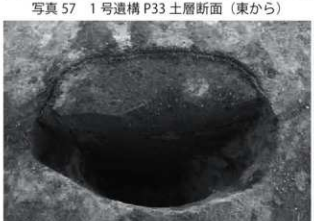


写真 59　3 号遺構土層断面（東から）

写真 60　4 号遺構土層断面（東から）

写真 61　6 号遺構土層断面（南東から）

写真 62　8 号遺構土層断面（南東から）

第４章　開発に伴う工事立会調査

工事立会調査は，周知の埋蔵文化財包蔵地内における試掘・確認調査の結果を受けて，工事立会が相当であるとした案件について実施するが，範囲外であっても，地形等から遺跡の存在が予測される場合，開発面積が広大である場合には，事業者に協力を求めて実施した。立会調査は，事業者による工事の実施を妨げないよう配慮しながら，埋蔵文化財専門職員を掘削工事に立ち会わせ，遺物や遺構が確認された場合には検出状況の写真や簡易的な図面等による記録を作成し，遺物を回収した。

今年度は周知外１件と水戸城跡において２件の合計３件の工事立会調査を実施した。うち，水戸城跡（第 15 次）については，「2-30　水戸城跡（第 13・15 次）」において報告した。他の２件については，いずれも遺構は確認されず，遺物が出土したにとどまる。

第 101 図　周知外（城東３丁目 179 番地）立会調査地点の位置

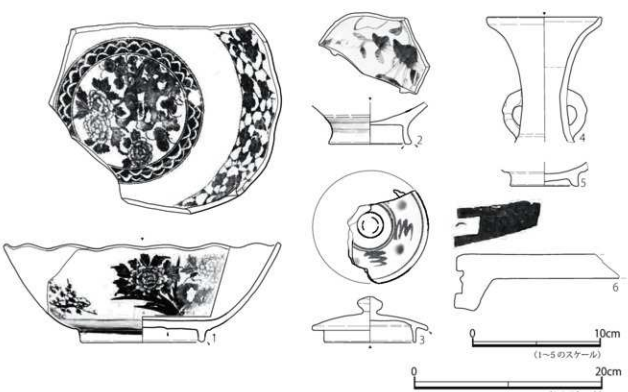
４－１　周知外（城東３丁目 179 番地）

所 在 地　水戸市城東３丁目 177-1，177-4，178-1，179

調査面積　176 ㎡

調査期間　平成 19 年４月 28 日

調査担当　関口慶久



第 102 図　周知外（城東３丁目 179 番地）立会調査出土遺物

調査概要　今般の土木工事は，宅地造成工事であり，進入道路部分に下水道管を埋設する際に立会った。その結果，近世～近代にかかる時期の陶磁器類や瓦が多数出土したが，いずれも表土層からの出土品であり，遺構に伴うものではなかった。（関口）

出土遺物　1は磁器の鉢で，コバルト染付鉢ある。推定生産地は在地産の可能性が高く，推定年代は1870年代以降とみられる。2は磁器の鉢である。推定生産地は肥前の可能性が高い。3は陶器の土瓶蓋で，山水土瓶Cである。推定生産地は益子の可能性が高く，推定年代は1860年代とみられる。4は陶器の花瓶である。5は陶器の碗で，天目茶碗である。推定生産地は瀬戸・美濃，推定年代は登窯第2段階第7小期，18世紀中葉とみられる。6は軒桟瓦である。時期は江戸時代後期である。（色川）

4－2　水戸城跡（第14次）

所 在 地　水戸市三の丸2-1-315

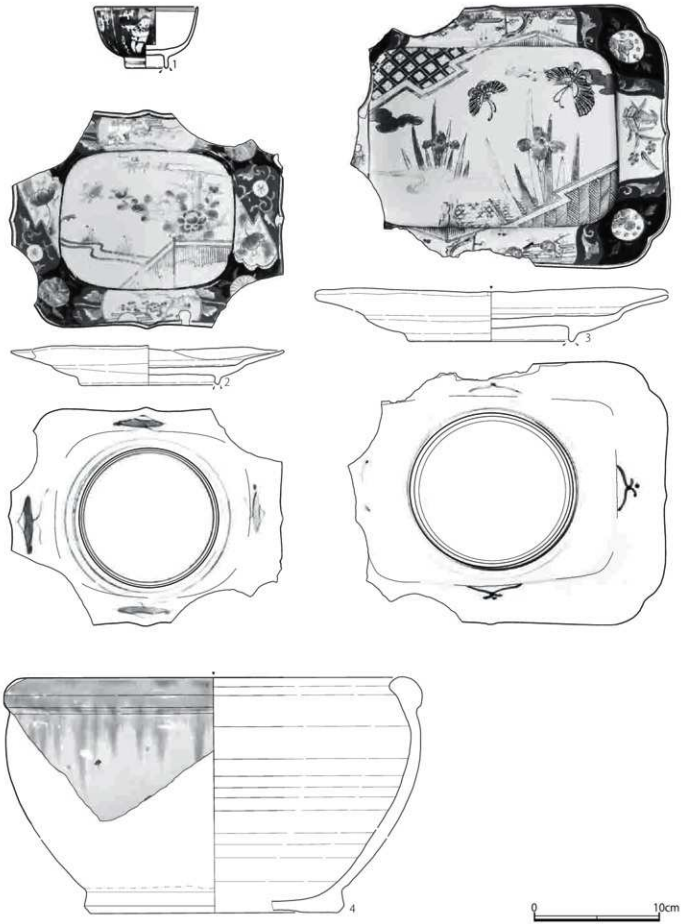
調査期間　平成19年12月14日・平成20年1月18日

調査担当　関口慶久

調査概要　今般の土木工事は，既存建物の解体工事であり，基礎の撤去工事の際に立ち会った。その結果，近世～近代にかかる時期の陶磁器類や瓦が多数出土したが，いずれも攪乱層中からの出土品であり，遺構に伴うものではなかった。（関口）

出土遺物　1は磁器の碗で，丸碗である。推定生産地は瀬戸・美濃，推定年代は19世紀以降とみられる。2・3は磁器の皿で，長皿である。推定生産地は在地産の可能性が高く，推定年代は19世紀以降とみられる。4は陶器の鉢である。推定生産地は笠間，推定年代は1770年代以降とみられる。（色川）

第103図　水戸城跡（第14次）立会調査地点の位置



第 104 図　水戸城跡（第 14 次）立会調査出土遺物

第７表　土器・陶磁器・瓦観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	種別・器形細別	法量（cm） 口径	底径	器高	観察所見	残存率	胎土	焼成	色調（外面・内面）	備考
10	4	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ５	縄文土器	—	—	—	太沈線文	—	砂粒（白多・透多）	良好	にぶい黄褐	縄文時代中期中葉「田戸下層式」
	5	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ６	縄文土器	—	—	—	縄文RL，隆起線文，沈線文	—	砂粒（白多・黒・透多）	良	橙～にぶい黄褐・黒褐	縄文時代中期後葉「加曽利E４式」
	6	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ６	縄文土器	—	—	—	縄文LR，隆起線文，沈線文，波状口縁	—	砂粒（白多・黒多）	良	黒褐・橙	縄文時代中期後葉「加曽利E４式」
	7	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ６	縄文土器	(25.8)	—	[9.1]	縄文LR，隆起線文	口径13％	砂粒（白多・黒多・透多）	良好	にぶい黄褐	縄文時代中期後葉「加曽利E４式」
	8	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ６	縄文土器	—	—	—	縄文L，隆起線文	—	砂粒（白多・黒・透）	良好	明赤褐～黒褐	縄文時代中期後葉「加曽利E４式」
	9	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ６	縄文土器	—	—	—	縄文RL，隆起線文，突起あり	—	砂粒（白多・黒・透多）	良好	橙～灰黄褐	縄文時代中期後葉「加曽利E４式」
	10	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ６	縄文土器	—	—	—	縄文RL	—	砂粒（白多・黒・透多）	良好	にぶい黄褐・褐	縄文時代中期後葉「加曽利E式」
	11	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ５	土師器・甕	(16.0)	—	[4.8]	外面縦位箆撫，内面横位箆撫	口径８％	砂粒（白多・黒・透多）	良好	明赤褐	古墳時代中期前半
	12	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ２	土師器・坩	—	3.6	[8.7]	外面撫	底径100％	砂粒（白多・透多）	良好	黄褐～黒・暗灰黄	古墳時代中期前半
	13	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ１	土師器・小型壺	—	2.7	[6.0]	外面箆撫，内面口縁部横位箆撫・胴部撫	底径100％	得針，砂粒（白多・黒多・透多・赤）	良	橙～暗灰黄・明黄褐	古墳時代中期前半
	14	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ１	土師器・小型壺	—	3.1	[5.5]	外面撫・箆削，内面口縁部横位箆撫・胴部撫	底径100％	得針，砂粒（白多・透多・赤）	良好	灰黄褐～黒・灰黄褐	古墳時代中期前半
	15	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ５	土師器・壺	—	4.1	[12.6]	外面縦位箆撫，内面斜位箆撫	底径61％	砂粒（白多・黒多・透多）	良好	にぶい赤褐・にぶい赤褐～黒	古墳時代中期前半
	16	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ１	土師器	—	5.7	[3.2]	外面撫，内面箆撫	底径77％	得針，砂粒（白・黒・透）	良好	明赤褐・橙	古墳時代中期前半
	17	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ１	土師器・高坏	—	—	[6.2]	外面縦位箆撫，内面箆撫	—	得針，砂粒（白多・黒多・透多）	良好	明褐	古墳時代中期前半
	18	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ２	土師器・高坏	—	(14.9)	[12.3]	内外面横位箆撫，内面輪積痕あり	底径３％	得針，砂粒（白・透）	良好	橙	古墳時代中期前半
	19	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ14	磁器・碗 丸碗X	(8.9)	(3.4)	5.0	輪郭成形／染付／無釉，内面口縁部帯・一重圏線，見込み二重圏線・文様あり，外面口縁部一重圏線，花唐草文，高台脇一重圏線，高台部二重圏線	1/2以下				在地産，19世紀以降
	20	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ14	磁器・小坏 薄手酒坏	6.3	2.2	2.8	輪郭成形／染付／無釉，内面桐文（上絵付），外面桐文（上絵付），高台部櫛歯文，底裏銘あり	1/2以上				瀬戸・美濃，19世紀以降
19	1	大塚新地遺跡（第５地点）	トレンチ２	須恵器・有台坏	—	(9.1)	[3.6]	ロクロ水挽き成形	底径14％	砂粒（白多）	良好	灰	9世紀前葉
22	1	大淵町遺跡（第６地点）	Ｓ１０１	弥生土器・壺	(15.0)	—	[7.3]	口縁部棒状工具による刻み，複合口縁３段，複合部無文，複合部下端に棒状工具による刺突，付加条第２種ＬＲ×Ｒ	口径24％	砂粒（白多・黒・透）	良好	暗灰黄・黒褐	弥生時代後期後葉
	2	大淵町遺跡（第６地点）	Ｓ１０１	弥生土器・壺	—	—	[8.7]	口縁部付加条第１種ＬＲ＋２Ｒ，縄文原体による刺突，櫛歯状工具（６本）による連弧文，貼付文（刻みあり）２個１組	—	砂粒（白・透）	良好	にぶい黄	弥生時代後期後葉
	3	大淵町遺跡（第６地点）	Ｓ１０１	弥生土器	—	—	—	付加条第２種Ｌ×Ｌ→Ｒ×Ｒ	—	砂粒（白・透）	良好	にぶい黄褐	弥生時代後期後葉
	4	大淵町遺跡（第６地点）	Ｓ１０１	弥生土器	—	—	—	付加条第２種Ｌ×Ｌ→Ｒを２巻き（軸不明）	—	雲・砂粒（白・黒）	良好	にぶい黄橙	弥生時代後期後葉
	5	大淵町遺跡（第６地点）	Ｓ１０１	弥生土器	—	—	—	Ｒを２巻き（軸不明）→付加条第２種Ｌ×Ｌ	—	砂粒（白多・黒多）	良好	にぶい黄橙・橙	弥生時代後期後葉

22	6	大副町遺跡（第6地点）	S101	弥生土器	—	—	—	付加条第1種RL＋2L	—	砂粒（白多・黒・透多）	良好	にぶい黄橙	弥生時代後期後葉
	7	大副町遺跡（第6地点）	S101	弥生土器	—	—	—	付加条第1種RL＋L	—	砂粒（白多）	良好	にぶい黄橙・黒褐	弥生時代後期後葉
	8	大副町遺跡（第6地点）	S101	弥生土器	—	—	—	RをZ巻き（軸不明）	—	砂粒（白・透）	良好	暗灰黄・にぶい黄橙	弥生時代後期後葉
	9	大副町遺跡（第6地点）	SD01	弥生土器	—	—	—	口縁部縄文原体による刻み，口縁部付加条第1種RL＋2L・LR＋2R，縄文原体による刺突	—	砂粒（白多・透多）	良好	褐・黒褐	弥生時代後期後葉
	10	大副町遺跡（第6地点）	SD01	弥生土器	—	—	—	櫛描状工具（4本），縦位区画3条，横位区画は直状文・波状文，外面炭化物付着	—	砂粒（白多・黒・透多）	良好	にぶい黄褐・にぶい黄	弥生時代後期後葉「十王台式」
	11	大副町遺跡（第6地点）	SD01	弥生土器	—	—	—	隆帯（縄文原体による刻み あり）2条以上，LをS巻き（軸不明）	—	砂粒（白多・透多）	良好	にぶい黄・橙	弥生時代後期後葉「十王台式」
	12	大副町遺跡（第6地点）	SD01	弥生土器	—	—	—	LをS巻き（軸不明）→付加条第2種R×R→LをS巻き（軸不明），内外面炭化物付着	—	砂粒（白・透多）	良好	にぶい黄褐	弥生時代後期後葉
	13	大副町遺跡（第6地点）	SD01	弥生土器	—	—	—	RをZ巻き（軸不明）→LをS巻き（軸不明），内面炭化物付着	—	砂粒（白多・透多）	良好	にぶい黄褐・黒	弥生時代後期後葉
	14	大副町遺跡（第6地点）	トレンチ2	土師器・無台坏	—	(7.0)	[1.4]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底径19%	砂粒	良好	灰オリーブ	9世紀
	15	大副町遺跡（第6地点）	S102上	土師器・有台坏面	(14.2)	8.7	5.1	ロクロ水挽き成形，底面に墨書「北」・ヘラ記号あり	口径34%底径52%	砂粒	良好	黄褐	9世紀前葉
31	1	磯田千軒遺跡（第2地点）	—	須恵器・無台坏	—	(7.0)	[1.2]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底径28%	砂粒（白）	良好	灰	9世紀前葉
35	1	原民坂遺跡（第3地点）	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	縄文RL，沈線文	—	砂粒（白・黒・透）	良	黒・にぶい黄褐	縄文時代中期後葉「加曽利E3・4式」
	2	原民坂遺跡（第3地点）	トレンチ1	須恵器・有台坏	—	9.0	[2.4]	ロクロ水挽き成形，底面に墨書「河原」・ヘラ記号あり	底径62%	砂粒・砂粒（白多）	良好	橙～灰	8世紀末～9世紀初頭
	3	原民坂遺跡（第3地点）	トレンチ1	須恵器・有台坏	(14.4)	9.2	6.2	ロクロ水挽き成形	口径10%底径64%	砂粒多・砂粒（白多）	良好	灰オリーブ・灰	8世紀末～9世紀初頭
	4	原民坂遺跡（第3地点）	トレンチ1	須恵器・有台坏	(18.8)	—	[7.2]	ロクロ水挽き成形	口径4%	砂粒多・砂粒（白多）	良好	灰オリーブ・灰	8世紀末～9世紀初頭
	5	原民坂遺跡（第3地点）	トレンチ1	須恵器・有台盤	(17.8)	(10.3)	3.5	ロクロ水挽き成形	口径43%底径23%	砂粒・砂粒（白）	良好	灰	8世紀末～9世紀初頭
	6	原民坂遺跡（第3地点）	トレンチ1	須恵器・甕	(20.0)	15.4	35.8	外面側部縦位平行線文叩き	口径25%底径100%	砂粒（白多・黒多）	良好	灰白～オリーブ黒・灰	8世紀末～9世紀初頭
38	1	下荒句遺跡（第4地点）	トレンチ3	縄文土器	—	—	—	縄文RL，沈線文	—	砂粒（白多・透多）	良好	にぶい黄・黄褐	縄文時代中期後葉「加曽利E2・3式」
42	1	下荒句遺跡（第5地点）	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縄文RL，沈線文	—	金多，砂粒（白多・透多）	良好	褐	縄文時代中期後葉「加曽利E式」
45	1	関辺外（藤井町地内）	トレンチ2	縄文土器	—	—	—	縄文RL，沈線文	—	砂粒（白）	良	淡黄	縄文時代中期後葉「加曽利E式」
	2	関辺外（藤井町地内）	トレンチ1	弥生土器	—	—	—	付加条第2種R×R	—	金，砂粒（透）	良	にぶい黄	弥生時代後期後葉「十王台式」
52	1	台渡里遺跡（35次）	6区	須恵器・無台坏	—	—	—	ロクロ水挽き成形，底面に墨書「厨二」あり	—	砂粒（白・黒）	良	灰白・にぶい黄橙	8世紀後葉
57	1	長嶋遺跡（第2地点）	トレンチ2	須恵器・無台坏	—	7.0	[3.4]	ロクロ水挽き成形	底径86%	砂粒多，砂粒（白）	良好	にぶい褐～灰	9世紀
	2	長嶋遺跡（第2地点）	—	須恵器・有台坏	—	(7.0)	[2.2]	ロクロ水挽き成形	底径31%	砂粒（白・黒多）	良好	灰	9世紀
63	1	西原古墳群（第13地点）	トレンチ	須恵器・無台坏	—	(7.6)	[1.9]	ロクロ水挽き成形	底径23%	砂粒，砂粒（白・透）	良好	灰	8世紀後葉
	2	西原古墳群（第13地点）	トレンチ	土師器・坏	(12.0)	—	[2.5]	外面口縁部横撫	口径15%	金，砂粒，砂粒（白・黒・透）	良好	にぶい黄橙	7世紀中葉
70	1	舞台遺跡（第4地点）	トレンチ1 S101床直	土師器・坏	(12.2)	—	[3.0]	外面口縁部横撫・体部箆削，内面横位箆撫	口径4%	砂粒（白多・黒多・透多）	良	にぶい黄橙～黒・灰黄褐	7世紀中葉
79	1	水戸城跡（10次）	—	縄文土器	—	—	—	細沈線文	—	金多，砂粒（白多・透多）	良好	褐	縄文時代早期中葉「田戸下層式」

79	2	水戸城跡（10 次）	—	縄文土器	—	—	—	太沈線文	—	金多、砂粒（白多・黒多・透多）	良好	灰黄褐～暗灰黄		縄文時代早期中葉「田戸下層式」
	3	水戸城跡（10 次）	—	縄文土器	—	—	—	太沈線文、内面剥離	—	砂粒（白多）	良好	暗灰黄		縄文時代早期中葉「田戸下層式」
	4	水戸城跡（10 次）	—	縄文土器	—	—	—	内外面条痕文、外面沈線文・刺突文（円形竹管状工具）・炭化物付着	—	繊維、砂粒（白多・黒・透）	良	に ぶい 黄褐		縄文時代早期後葉「鵜ヶ島台式」
	5	水戸城跡（10 次）	—	縄文土器	—	—	—	縄文RL	—	繊維、骨針、砂粒（白多・透多）	良	灰黄褐～黒		縄文時代前期前半の繊維土器
	6	水戸城跡（10 次）	—	縄文土器	—	—	—	半截竹管状工具	—	砂粒（白・透）	良好	に ぶい 黄褐		縄文時代前期後半「浮島式」
83	1	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	瓶類・碗 小碗	(6.8)	(3.2)	4.9	釉薬成形／染付／唐付無釉、外面口縁部一重圏線、草花文、高台脇一重圏線、高台部二重圏線	1/2 以下					肥前か
	2	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	瓶類・鉢	(15.0)	(7.3)	4.9	釉薬成形／染付／折縁、唐付無釉、内面口縁部鋸歯文・蔓文・一重圏線、青海波文・波文・扇文、見込み二重圏線・五弁花文、裏文様唐草文、腰部一重圏線、高台二重圏線、底裏一重圏線・銘「太明年製」	1/2 以下					肥前、18 世紀後半以降
	3	水戸城跡（13・15 次）	15 次イコウ	陶器・碗	(11.0)	5.0	6.2	釉薬成形／陶胎染付／唐付無釉、内面口縁部一重圏線、見込み五弁花文、外面梅花文、高台脇一重圏線、高台部一重圏線、貫入あり	1/2 以下					在地産、19 世紀以降
	4	水戸城跡（13・15 次）	15 次イコウ	陶器・碗 薄茶碗	(12.4)	3.9	4.8	釉薬成形／透明釉／底部無釉、底裏第雲あり、貫入あり	1/2 以上					京都・信楽、1690 年代～1850 年代
	5	水戸城跡（13・15 次）	15 次イコウ	陶器・皿	(9.8)	3.6	2.0	釉薬成形／透明釉／底部無釉	1/2 以下					七面製陶所か、1838 年以降
	6	水戸城跡（13・15 次）	15 次イコウ	陶器・皿	(9.6)	(4.0)	1.9	釉薬成形／鉄釉／底部釉拭き取り、内面見込み釉ドナ痕あり	1/2 以下					七面製陶所か、1838 年以降
	7	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	陶器・土瓶	(6.6)	—	[10.6]	釉薬成形／緑釉／外面腰部以下無釉、口縁部・内面無釉、二耳貼付残存1	1/2 以下					七面製陶所か、1838 年以降
	8	水戸城跡（13・15 次）	15 次イコウ	陶器・徳利 灰釉一升徳利	—	9.5	[6.8]	釉薬成形／灰釉／底部釉拭き取り、内面施釉	1/2 以下					瀬戸・美濃、1780 年代～1860 代
	9	水戸城跡（13・15 次）	15 次イコウ	陶器・鉢 植木鉢か	—	(14.8)	[12.9]	釉薬成形／灰釉、緑釉流し掛け、底部穿孔 2 ケ所	1/2 以下					在地産
	10	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	ガラス	1.6	4.7	16.5	緑色透明／回転キャップ／1～6 mmの気泡を含む	完形					
	11	水戸城跡（13・15 次）	13 次表土	軒丸瓦	外区径（13.2）	内区径（10.7）	重量 175 g	三ツ巴蓮文	—					江戸時代後期
	12	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	軒桟瓦	全長（7.3）	厚さ 1.8	重量 305 g	江戸式	—					江戸時代後期
84	13	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	軒桟瓦	外区径 8.4	内区径 6.1	重量 1,366 g	左巻き三つ巴文を中心に周縁に 8 つの珠文を配置、江戸式	—					江戸時代後期
	14	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	軒桟瓦	外区径 8.2	内区径 6.1	重量 1,078 g	左巻き三つ巴文を中心に周縁に 8 つの珠文を配置、江戸式	—					江戸時代後期
	15	水戸城跡（13・15 次）	13 次表土	軒桟瓦	全長（2.1）	厚さ 4.3	重量 62 g	「安」の押印あり	—					江戸時代後期
	16	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	軒桟瓦	全長（14.0）	厚さ 1.9	重量 647 g	江戸式	—					江戸時代後期
	17	水戸城跡（13・15 次）	15 次カクラン	軒桟瓦	全長（18.2）	厚さ 1.9	重量 966 g	江戸式、「安」の押印あり	—					江戸時代後期
	18	水戸城跡（13・15 次）	13 次Ⅲ層	桟瓦	全長（18.0）	厚さ 1.8	重量 583 g	「安」の押印あり	—					江戸時代後期
	19	水戸城跡（13・15 次）	13 次カクラン	桟瓦	全長（6.7）	厚さ 2.2	重量 141 g	「安」の押印あり	—					江戸時代後期
	20	水戸城跡（13・15 次）	13 次Ⅱ層	桟瓦	全長（6.8）	厚さ 2.0	重量 117 g	「安」の押印あり	—					江戸時代後期

85	21	水戸城跡（13・15次）	13次2号遺構	残灰	全長(9.6)	厚さ 1.9	重量 290 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	22	水戸城跡（13・15次）	13次表土	残灰	全長(9.7)	厚さ 1.9	重量 243 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	23	水戸城跡（13・15次）	13次2号遺構	残灰	全長(11.5)	厚さ 2.1	重量 532 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	24	水戸城跡（13・15次）	13次Ⅱ層	残灰	全長(8.9)	厚さ 2.1	重量 167 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	25	水戸城跡（13・15次）	13次表土	残灰	全長(8.1)	厚さ 2.0	重量 225 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	26	水戸城跡（13・15次）	13次表土	残灰	全長(10.6)	厚さ 1.9	重量 352 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	27	水戸城跡（13・15次）	13次Ⅱ層	残灰	全長(11.2)	厚さ 2.0	重量 331 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	28	水戸城跡（13・15次）	13次表土	残灰	全長(9.3)	厚さ 2.1	重量 276 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	29	水戸城跡（13・15次）	13次表土	残灰	全長(4.8)	厚さ 1.9	重量 84 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	30	水戸城跡（13・15次）	13次Ⅱ層	残灰	全長(4.6)	厚さ 2.1	重量 66 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	31	水戸城跡（13・15次）	13次表土	残灰	全長(8.6)	厚さ 1.7	重量 100 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	32	水戸城跡（13・15次）	13次カクラン	残灰	全長(3.2)	厚さ 1.9	重量 30 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	33	水戸城跡（13・15次）	13次2号遺構	残灰	全長(5.1)	厚さ 2.1	重量 60 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	34	水戸城跡（13・15次）	13次Ⅱ層	残灰	全長(3.4)	厚さ 1.9	重量 30 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	35	水戸城跡（13・15次）	13次2号遺構	残灰	全長(2.9)	厚さ 1.9	重量 28 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	36	水戸城跡（13・15次）	13次2号遺構	残灰	全長(2.5)	厚さ 2.2	重量 15 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	37	水戸城跡（13・15次）	13次Ⅲ層	残灰	全長(3.0)	厚さ —	重量 21 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
	38	水戸城跡（13・15次）	13次カクラン	残灰	全長(5.4)	厚さ 2.1	重量 39 g	「安」の押印あり	—				江戸時代後期
94	1	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	土師器・甕	(14.4)	—	[39]	外面縦位刷毛→横撫、内面横位刷毛	口径 15%	砂針・砂粒（白多・黒多・透多）	良好	にぶい赤褐	古墳時代前期
	2	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	土師器	—	(8.4)	[2.6]	外面撫削、内面刷毛	底径 23%	砂粒（白多・黒・透）	良好	明赤褐・黒褐	古墳時代前期
	3	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	土師器	—	4.8	[6.2]	外面撫削、内面刷毛→横位撫撫、内外面炭化物付着	底径 66%	砂粒（白・透）	良好	にぶい黄褐～黒	古墳時代前期
	4	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	土師器・甕	—	(3.6)	[1.3]	外面撫磨・赤彩、内面撫	底径 40%	砂針・砂粒（白多・透多）	良	褐・黄灰	古墳時代前期
	5	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	土師器・高坏	—	—	[8.6]	外面撫、内面刷毛	—	砂粒（白多・透多）	良	にぶい黄褐	古墳時代前期
	6	大串遺跡（第8地点）	トレンチ3	縄文土器	—	—	—	沈線文	—	砂粒（白多・黒・透多）	良好	にぶい黄褐・暗灰黄	縄文時代後期中葉「加曽利B式」
	7	大串遺跡（第8地点）	トレンチ3	弥生土器	—	—	—	櫛歯状工具（3本）による連弧文	—	砂粒（白）	良好	にぶい黄褐・明褐	弥生時代後期前葉「東中根式」
	8	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	弥生土器	—	—	—	R を Z 巻き（軸不明）	—	砂粒（白・透）	良好	にぶい黄褐・明褐	弥生時代後期前葉
	9	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	弥生土器	—	—	—	R を Z 巻き（軸不明）	—	砂針・砂粒（白多・透多）	良好	暗灰黄・褐	弥生時代後期前葉
	10	大串遺跡（第8地点）	S I 0 1	弥生土器	—	—	—	L を S 巻き（軸不明）、外面炭化物付着	—	砂粒（白多・透多）	良好	灰黄褐	弥生時代後期前葉
99	1	大御町遺跡（第7地点）	トレンチ1	縄文土器	—	—	—	縄文 R L、沈線文	—	砂粒（白・黒・透多）	良	にぶい黄橙・橙	縄文時代中期後葉「加曽利E 2・3式」
	2	大御町遺跡（第7地点）	1号遺構下層	縄文土器	—	—	—	縄文 R L、沈線文	—	砂粒（白多・透）	良	灰黄褐	縄文時代中期後葉「加曽利E式」
	3	大御町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	縄文土器	—	—	—	縄文 R L、沈線文	—	砂粒（白多・透多）	良好	黒褐・にぶい黄橙～黒褐	縄文時代後期前葉「堀之内1式」
	4	大御町遺跡（第7地点）	1号遺構中層	弥生土器	—	—	—	櫛歯状工具（3本）による波形文	—	砂粒（透多）	良	にぶい黄褐・にぶい黄橙	弥生時代後期中葉「東中根2・3式」

99	5	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構下層	弥生土器	—	—	—	隆帯（指頭押捺）2条以上，RをS巻き（軸不明）	—	砂粒（白多・透多）	良	にぶい黄褐・橙	弥生時代後期後葉「十王台式」	
	6	大淵町遺跡（第7地点）	トレンチ1	弥生土器？	—	—	—	縄文L R，平截竹管状工具・2本同時施文具による沈線文	—	金，砂粒（白多・黒）	良	橙・にぶい黄褐	弥生時代？	
	7	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・無台坏	(10.7)	(6.2)	3.9	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	口注 34％ 底注 48％	得釘，砂粒（白多・透）	良好	灰	9世紀前葉	
	8	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・無台坏	—	7.2	[4.2]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底注 53％	得釘，砂粒（白多・透）	良好	灰オリーブ	9世紀後葉	
	9	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・無台坏	—	(7.5)	[2.4]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底注 48％	得釘，砂粒（白・透）	良好	灰	9世紀	
	10	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構	須恵器・無台坏	—	(7.8)	[3.0]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底注 28％	砂粒（白）	良好	灰オリーブ	9世紀	
	11	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構中層	須恵器・無台坏	—	[8.0]	[1.7]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底注 18％	得釘，砂粒（白多・透多）	良好	灰オリーブ	9世紀	
	12	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・無台坏	—	(10.0)	[1.3]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底注 26％	得釘，砂粒（白）	良好	灰・明灰黄	8世紀	
	13	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・無台坏	—	(8.6)	[1.9]	ロクロ水挽き成形，底面にヘラ記号あり	底注 37％	得釘，砂粒（白・透）	良好	灰	9世紀	
	14	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・有台坏	—	(9.6)	[2.0]	ロクロ水挽き成形	底注 21％	砂粒（白・黒多・透）	良好	明灰黄	7世紀後葉	
	15	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・蓋	—	—	[2.7]	ロクロ水挽き成形	—	得釘，砂粒（白）	良好	灰	8世紀後葉～9世紀前葉	
	16	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構	須恵器・蓋	(12.6)	—	[2.1]	ロクロ水挽き成形	口注 14％	砂粒（白）	良好	灰	8世紀後葉～9世紀前葉	
	17	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構下層	須恵器・長頸瓶	—	—	[7.4]	ロクロ水挽き成形，内面に微細圧痕・輪積痕あり	—	砂粒（白多・黒多）	良好	灰・明灰黄	8世紀	
	18	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構中層	須恵器・甕・瓶類	—	(12.4)	[6.2]	ロクロ水挽き成形	底注 20％	砂粒（白多・透）	良好	灰～黒・灰		
	19	大淵町遺跡（第7地点）	—	須恵器・甕・瓶類	—	(13.8)	[5.4]	ロクロ水挽き成形	底注 8％	砂粒（白・黒多・透）	良好	灰		
	20	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・甕・瓶類	—	(9.8)	[2.3]	ロクロ水挽き成形，内外面の一部に自然釉がかかる	底注 21％	砂粒（白多・透）	良好	灰黄～灰オリーブ		
	21	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・甕	—	(13.7)	[4.5]		底注 31％	砂粒（白）	良好	灰黄		
	22	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・甕	—	—	—	外面格子目文叩き，内面青海波文	—	砂粒（白）	良好	灰		
	23	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・甕	—	—	—	外面平行線文叩き	—	砂粒（白・透）	良好	灰		
	24	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・甕	—	—	—	外面青海波文，内面格子目文叩き	—	砂粒（白）	良好	灰		
100	25	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	須恵器・厚底鉢	—	(8.4)	(6.0)	外面横位篦削，内面篦撫	底注 43％	砂粒（白）	良好	灰黄褐・にぶい黄褐	8世紀前葉	
	26	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	土師器・甕	—	—	—		—	得釘・砂粒（白・透）	良好	にぶい黄橙		
	27	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構上層	土師器・坏	—	—	—	外面に墨書あり，内面黑色処理	—	砂粒（白・黒・透・赤）	良好	にぶい黄橙・黒	9世紀	
	28	大淵町遺跡（第7地点）	1号遺構中層	青磁・碗	—	—	—	内面草花文	—					中世
102	1	周知外（城東3-179）	—	磁器・鉢 コバルト染付鉢	(22.0)	9.8	7.7	輪轆成形／コバルト染付／釉付無釉，蛇の目凹型高台・砂付着，輪花，内面口縁部水製梅花文，見込み「渡輪」内に「鷺に菊牡丹」，外面「梅に牡丹」，高台脇一重圏線・二重圏線，高台部二重圏線	1/2以下					在地産か，1870年代～
	2	周知外（城東3-179）	—	磁器・鉢	—	(6.6)	[3.2]	輪轆成形／染付／釉付無釉，焼接あり，内面花唐草文，外面高台脇一重圏線，高台部二重圏線	1/2以下					肥前か
	3	周知外（城東3-179）	—	陶器・土瓶蓋 山水土瓶C	最大径(9.2)	受部径(7.2)	器高3.7	輪轆成形，摘み宝珠型貼付／白土化粧，緑釉・鉄釉／受部・内面無釉，上面「山水文」	1/2以下					益子か，1860年代
	4	周知外（城東3-179）	—	陶器・花瓶	(9.2)	—	[9.8]	輪轆成形／緑釉／肥手貼付，内面頸部以下無釉	1/2以下					

	5	周知外（域東3-179）	—	陶器・瓶 天目茶瓶	—	5.4	[1.8]	轆轤成形／削出高台／黒色の鉄釉／底部は露胎で鉄化粧	1/2以下					瀬戸・美濃、19世紀中葉
	6	周知外（域東3-179）	—	軒丸瓦	全長（12.3）	厚さ 1.9	重量 406 g	江戸式	—					江戸時代後期
104	1	水戸城跡（14次）	表土	磁器・瓶 丸瓶	8.3	3.4	4.9	轆轤成形／染付／畳付無釉。内面二重圏線、外面区画文（花・人物）、高台部二重圏線、高台内一重圏線	1/2以下					瀬戸・美濃、19世紀以降
	2	水戸城跡（14次）	表土	磁器・皿 長皿	21.7	11.0	3.1	型打成形／染付、色絵（赤・緑・黒・銀・金）／内面「区画文」（波文・雲に梅樹文・唐文）、見込み櫛に花菖蒲文、裏文様「唐草文」、高台脇一重圏線、高台部二重圏線	1/2以下					在地産か、19世紀以降
	3	水戸城跡（14次）	表土	磁器・皿 長皿	（28.0）	13.2	3.9	型打成形／染付、色絵（赤・緑・黒・銀・金）／内面「区画文」（花唐草・梅樹・月に雲）、見込み櫛に牡丹・竹文、裏文様「草花文」、高台脇一重圏線、高台部二重圏線、高台内一重圏線	1/2以下					在地産か、19世紀以降
	4	水戸城跡（14次）	表土	陶器・鉢	（33.2）	（20.6）	18.6	轆轤成形／白土化粧に口縁部緑釉流掛け／高台部無釉／口唇残存2箇所、貫入あり	1/2以下					笠間、1770年代～

・括弧内の数値は、復元された口径や底径、または残存高を示す。

<第7表　凡例>

※「出土位置」は、遺構を次のように記号化している。

「ＳＩ」住居跡、「ＳＤ」溝跡

※「胎」の記載には、次の記号を使用する。

「金」：金色を呈する風化した黒雲母片（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「骨針」：白色針状物質とも表記される海綿骨針（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「白」：白色不透明で長石あるいは石英と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「黒」：黒色で光沢を有し輝石あるいは角閃石と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

「透」：透明で石英と考えられる粒子（さらに、「多」含有が多量、という記号の組み合わせで表記する。）

第８表　石器観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器　種	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備　考
9	1	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ7	剥片	硬質頁岩	41.0	28.0	14.0	9.0	
	2	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ7	剥片	硬質頁岩	36.0	34.5	12.5	8.0	
	3	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ7	折断剥片	硬質頁岩	33.5	24.5	12.0	6.0	
	4	赤塚遺跡（第４地点）	トレンチ7	折断剥片	頁岩	15.5	12.5	4.0	1.0未満	
22	16	大洞町遺跡（第６地点）	トレンチ1	打製石斧	粘板岩	85.0	53.5	23.0	92.0	分銅形
35	7	里民坂遺跡（第３地点）	トレンチ1・３層	敲石	安山岩	105.5	96.5	64.0	855.0	
63	3	西原古墳群（第13地点）	古墳周溝内	剥片	チャート	39.0	37.5	9.0	8.0	
100	29	大洞町遺跡（第７地点）	1号遺構上層	磨製石斧	不明	119.0	54.0	34.5	324.0	定角式

第９表　鉄器・鉄滓観察表

図版	番号	遺跡名	出土位置	器　種	材　質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備　考
100	30	大洞町遺跡（第７地点）	1号遺構上層	釘	鉄	62.5	27.5	9.5	10.0	
	31	大洞町遺跡（第７地点）	1号遺構上層	不明	鉄	25.0	41.5	18.0	12.0	
	32	大洞町遺跡（第７地点）	1号遺構下層	鉄滓	—	100.0	80.0	44.0	465.0	

・計測値は、残存する状態での最大値である。

引用・参考文献

有山径代・長井正欣・渥美賢吾　2009 『荷鞍坂遺跡（第１地点）―コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

石丸敦史・渥美賢吾　2009 『大鋸町遺跡（第８地点）―宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

伊藤康倫　1995 『茨城県水戸市　堀遺跡―住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

井上義安　1988 『水戸市大鋸町遺跡（仮称）元吉田第三住宅団地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市大鋸町遺跡発掘調査会

1990 『薬王院東遺跡　千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東遺跡発掘調査会

井上義安・蓼沼香未由・仁平妙子・根本陸子　1999 『水戸市埋蔵文化財分布調査報告書　平成 10 年度版』水戸市教育委員会

茨城県教育委員会　2001 『茨城県遺跡地図』

大森信英　1952a 「渡里村大字堀字西原四号地下式墳」『茨城高等学校史学部紀要』第１号　茨城高等学校史学部

1952b 「渡里村大字堀字西原の地下式墳」『茨城高等学校史学部紀要』第１号　茨城高等学校史学部

小川和博・大渕淳志・川口武彦・松谷暁子　2006 『台渡里遺跡―集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

川口武彦　2008 「茨城県水戸市台渡里廃寺跡長者山地区・大串遺跡第７地点」『古代交通研究会第 14 回大会資料集　アヅマの国の道路と景観』古代交通研究会

川口武彦・色川順子・渥美賢吾・片平雅俊　2008 『元石川大谷原遺跡―宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会・水戸市大谷原遺跡発掘調査会

川口武彦・色川順子・関口慶久・新垣清貴　2009 『平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会

斎藤　洋・新垣清貴　2005 『大鋸町遺跡　グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント

佐々木藤雄・関口慶久・大橋　生・林　邦雄　2006 『大鋸町遺跡（第３地点）―市道浜田 207 号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

佐々木藤雄・林　邦夫・川口武彦・関口慶久　2008 『台渡里遺跡（第 39 次調査）―公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

佐々木義則　2001 「茨城県における８・９世紀の須恵器甕概観」『婆良岐考古』第 23 号　婆良岐考古同人会

鈴木正博　1976 「「十王台式」理解のために（１）－分布圏西部地域を中心として－」『常総台地』第７号　常総台地研究会

1982 「「鼎釜」研究抄」『婆良岐考古』第４号　婆良岐考古同人会

1999 「北関東弥生式後期「二軒屋式」の研究　－「二軒屋式」制定 60 年の清算と「土器型式」研究の再構築－」『日本考古学協会第 65 回総会　研究発表要旨』日本考古学協会

鈴木素行　2002 「仙湖の辺　－「武田式」以前の「十王台式」について－」『茨城県史研究』第 86 号　茨城県立歴史館

外山泰久　1983 『常陸赤塚―国道 50 号水戸バイパス道路建設に伴う発掘調査―』国道 50 号水戸バイパス埋蔵文化財発掘調査会

長谷川　聡　1998 『北関東自動車道（友部～水戸）建設地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　大作遺跡　大畑遺跡』第 136 集　財団法人茨城県教育財団

日沖剛史・石丸敦史・川口武彦・色川順子・新垣清貴・渥美賢吾　2008 『薄内遺跡（第１地点）―移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

細谷弘一・佐藤次男・川井正一・根本康弘・市毛美津子　1994 『内原町の遺跡―内原町遺跡分布調査報告書―』内原町史編さん委員会

南田法正・渥美賢吾　2009a 『町付遺跡（第１地点）―共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

2009b 『東組遺跡（第１地点）―物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

報告書抄録

ふりがな	へいせいじゅうきゅうねんどみとしないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平成 19 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告　第 35 集
編集者名	川口武彦・色川順子
著者名	川口武彦・色川順子・関口慶久・渥美賢吾・木本華周・新垣清貴
編集・発行機関	水戸市教育委員会　所在地　〒 310-8610　茨城県水戸市中央 1-4-1　☎ 029-224-1111（代）
発行年月日	2010（平成 22）年 3 月 19 日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
茎塚遺跡（第 4 地点）	河和田町 3 丁目 2542-1 外	08201	042	36°22′22″	140°24′21″	1 次　2007.12.18 ～ 12.19 2 次　2008.01.15 ～ 01.16	177.0	宅地造成工事
藤内遺跡（第 1 地点）	八反田町字藤内 861-2	08201	185	36°21′02″	140°30′29″	2007.09.27	36.0	通信基地局建築
天平遺跡（第 8 地点）	塩崎町字原 1077-3	08201	176	36°19′59″	140°32′42″	試掘　2007.04.27 本調査　2007.05.21 ～ 05.25	試掘　33.15 本調査　5.0	個人住宅建築
大塚新地遺跡（第 2 地点）	大塚町 544-6	08201	222	36°22′54″	140°23′17″	2007.06.20	28.35	個人住宅建築
大塚新地遺跡（第 5 地点）	大塚町 544-1	08201	222	36°22′54″	140°23′17″	2007.06.20	9.5	個人住宅建築
大薗町遺跡（第 6 地点）	元吉田町 2338-1	08201	011	36°21′19″	140°29′01″	2007.10.02 ～ 10.03	167.50	宅地造成工事
大薗町遺跡（第 7 地点）	元吉田町 2350-2	08201	011	36°21′20″	140°28′59″	試掘　2007.11.19 本調査　2008.01.31 ～ 02.22	試掘　22.2 本調査　89.25	個人住宅建築
大薗町遺跡（第 8 地点）	元吉田町 2349-1、2350-1、2351	08201	011	36°21′19″	140°28′58″	2008.02.25 ～ 02.26	116.8	宅地造成工事
加倉井遺跡（第 4 地点）	加倉井町 1319-1	08201	165	36°23′47″	140°23′12″	2007.11.27	8.0	個人住宅建築
蔵田千軒遺跡（第 2 地点）	酒瀬町字九ノ割 6002-2	08201	062	36°20′26″	140°21′31″	2007.09.21	11.45	個人住宅建築
単民坂遺跡（第 3 地点）	上国井町字前台 3667-1	08201	046	36°26′29″	140°26′31″	2008.01.17 ～ 01.18	6.0	個人住宅建築
下茶句遺跡（第 4 地点）	双葉台 4 丁目 238	08201	066	36°23′46″	140°24′00″	2007.11.19	39.0	樹木の伐根、盛土
下茶句遺跡（第 5 地点）	双葉台 4 丁目 243-92 外	08201	066	36°23′46″	140°24′03″	2007.12.25	6.0	個人住宅建築
関知外（藤井町地内）	藤井町字南駒形 1946	—	—	36°26′57″	140°24′03″	2007.09.28	24.0	通信基地局建設
関知外（城東 3 丁目地内）	城東 3 丁目 177-1、177-4、178-1、179	—	—	36°22′16″	140°29′54″	2007.04.28	176.0	宅地造成工事
新田遺跡（第 1 地点）	笠原町 1366-1	08201	212	36°25′19″	140°22′38″	2007.08.27 ～ 08.30	8.0	吐水槽建設
台渡里遺跡（第 34 次）	渡里町字稲荷敷 3028	08201	276	36°24′32″	140°26′10.7″	2007.04.04 ～ 04.05	98.24	個人住宅建築
台渡里遺跡（第 35 次）	渡里町 2812-1 ～ 3011	08201	276	36°24′30″	140°26′07″	2007.05.27 ～ 05.28	18.0	公共下水道管理設
台渡里遺跡（第 40 次）	渡里町字鍛冶屋 2771-12	08201	276	36°24′22″	140°26′01″	2008.03.19	24.71	個人住宅建築
東照宮境内遺跡（第 1 地点）	宮町 2-4	08201	076	36°22′24″	140°28′25″	1 次　2007.09.14 2 次　2007.10.17	99.5	マンション建築
三崎遺跡（第 2 地点）	大足町 1044-1 外	08305	070	36°23′9″	140°22′18″	2008.02.21	45.0	個人住宅兼店舗建築
荷鞍坂遺跡（第 1 地点）	酒門町 242-1	08201	162	36°21′11″	140°29′39″	2007.08.27 ～ 08.28	220.5	コンビニエンスストア建築
西原古墳群（第 13 地点）	渡里町字粉木 3370-6、3370-7	08201	080	36°24′38″	140°25′27″	2008.02.28	21.88	個人住宅建築

東 原遺跡（第 1 地点）	元吉田町 379-1 外	08201	290	36°21′38″	140°28′37″	1 次　2008.02.19～02.20 2 次　2008.03.12	497.0	物販店舗建築
開 江 堂遺跡（第 1 地点）	開江堂字弥次郎 1219-3	08201	153	36°23′19″	140°23′53″	2007.07.05	10.5	個人住宅建築
舞 台遺跡（第 4 地点）	三島町 86-2	08305	089	36°22′13″	140°20′30″	2007.09.28	21.25	通信基地局建設
堀 道遺跡（第 11 地点）	渡里町 3293-1、3294-1	08201	064	36°24′24″	140°25′32″	2007.06.15	23.0	個人住宅建築
堀 道遺跡（第 12 地点）	堀町 396-1	08201	064	36°24′25″	140°25′14″	2008.01.29	65.8	個人住宅建築
町 付遺跡（第 1 地点）	酒門町 638-1	08201	235	36°21′01″	140°29′57″	2007.11.19～11.20	122.5	共同住宅建築
水 戸城跡（第 10 次）	三の丸 2-9-22（水戸二中）	08201	172	36°22′33″	140°28′48″	1 次　2007.08.20～08.22 2 次　2007.09.12	106.0	受水槽埋設工事
水 戸城跡（旧弘道館）（第 13・15 次）	三の丸 1-6-29	08201	172	36°22′31″	140°28′38″	第 13 次 2007.08.31～09.04 第 15 次 2008.02.13	3.3	便所改築工事・排水管改修工事
水 戸城跡（第 14 次）	三の丸 2-1-315	08201	172	36°22′30″	140°28′41″	2007.12.14～2008.01.18	—	建物解体工事
元 石川大谷原遺跡（第 1 地点）	元石川町字大谷原 2265 外	08201	289	36°19′06″	140°30′11″	1 次　2007.10.24・25・29・31 2 次　2007.11.01・02・05	920.0	宅地造成工事
若 林遺跡（第 2 地点）	見川 5 丁目 1232、1233	08201	016	36°22′13″	140°25′26″	2007.04.09～04.10	87.0	共同住宅建築
渡 里町遺跡（第 4 地点）	渡里町 2373-3	08201	121	36°24′14″	140°26′31″	2007.11.13・12.10	17.0	個人住宅建築
渡 里町遺跡（第 7 地点）	渡里町字八幡前 2598-4	08201	121	36°24′19″	140°26′19″	2008.03.24	2.0	個人住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
赤塚遺跡（第 4 地点）	集落跡	先土器・縄文・古墳・奈良・平安・近世	土坑群（縄文）、竪穴住居跡 3（古墳中）、溝跡 1（近世）	剥片（先土器）、縄文土器（中期）・礫（縄文）、土師器（古前）、須恵器（奈良・平安）、瓦・礎器（近世）	第 1 地点に続き、先土器時代の遺物を確認。
浦内遺跡（第 1 地点）	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居跡 1（古墳前）	弥生土器（後期）、土師器（古墳前）、須恵器（奈良・平安）	当遺跡の 1 位置に営まれている八反田古墳群（方形周溝墓）と同時期の集落を確認。
大田遺跡（第 8 地点）	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居跡 1（古墳前）、掘立柱建物跡 1（奈良・平安）	縄文土器（後期）、弥生土器（後期）、土師器（古前）、須恵器（奈良・平安）	隣接の調査で確認されていた古墳時代前期の集落跡と第 7 地点で確認された郡衙官衙関院：平津家に関連する掘立柱建物跡を確認。
大塚新地遺跡（第 2 地点）	集落跡	古墳・奈良・平安・近世	なし	土師器（古前）・須恵器（奈良・平安）、陶器（近世）、礫	
大塚新地遺跡（第 5 地点）	集落跡	奈良・平安	なし	土師器（奈良・平安）	
大洞町遺跡（第 6 地点）	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	竪穴住居跡 3（弥生後・古墳～奈良・平安）、溝跡 1（中世）、土坑・柱穴 3（不明）	打製石斧（縄文）、弥生土器（後期）、須恵器（奈良・平安）、内耳土器（中世）、礎器・瓦質土器（近世）、礫（不明）	弥生時代後期および古墳時代～奈良・平安時代の集落の一部と中世の吉田城跡に係る堀跡を確認。溝跡は第 7・8 地点のものと連結するとみられる。
大洞町遺跡（第 7 地点）	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	溝跡 2（中世）、土坑 6（不明）	縄文土器（中・後期）、磨製石斧・剥片（縄文）、弥生土器（後期）、土師器・須恵器・灰釉陶器（奈良・平安）、鉄製品（不明）、青磁・土師質土器（中世）、陶磁器・瓦質土器（近世）	中世の吉田城跡に係る堀跡を確認。第 6・8 地点のものと連結するとみられる。
大洞町遺跡（第 8 地点）	集落跡	奈良・平安・中世・近世	竪穴住居跡 4（奈良・平安）、大形土坑 1（中世～近世）、土坑 4（奈良・平安・不明）・ピット 9（不明）、溝跡 2（中世）	土師器・須恵器（奈良・平安）	奈良・平安時代の集落の一部と中世の吉田城跡に係る堀跡を確認。溝跡は第 6・7 地点のものと連結するとみられる。
加倉井原遺跡（第 4 地点）	集落跡	奈良・平安	なし	土師器・須恵器（奈良・平安）	
畝田手前遺跡（第 2 地点）	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡 1（奈良・平安）、ピット 1（奈良・平安）	土師器・須恵器（奈良・平安）、礫	
軍民坂遺跡（第 3 地点）	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近世	ピット群	縄文土器（中期）・磨石（縄文）、弥生土器、土師器・須恵器（奈良・平安）、瓦質土器・礎器（近世）	「国屋」銘の墨書土器が出土した。
下長尾遺跡（第 4 地点）	集落跡	近代	堀跡 1（近代）	縄文土器（中期）	

下高尻遺跡 （第５地点）	集落跡	縄文	なし	縄文土器（中期）	
道知外 （藤井町地内）	包蔵地	奈良・平安	なし	縄文土器，弥生土器（後期），土師器・須恵器（奈良・平安）	
道知外 （城東３丁目地内）	包蔵地	近世～近代	なし	陶磁器（近世），瓦（近世）	
新田遺跡 （第１地点）	包蔵地	縄文	炉穴２（縄文），集石１（縄文）	縄文土器	
行渡里遺跡 （第35次）	集落跡／官衙跡	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居跡１（古墳 or 奈良・平安），溝跡１（奈良・平安），土坑２（不明），ピット群（不明）	弥生土器，土師器・須恵器（奈良・平安）	「扇二」銘の墨書土器が出土。
行渡里遺跡 （第40次）	集落跡／官衙跡	古墳	溝跡１（古墳終）	なし	後の本調査により７世紀後半以前に営まれた豪族居館もしくは評段階に遡る初期官衙域に係る溝跡であったことが判明した。
東廻宮地内遺跡 （第１地点）	集落跡	近世	なし	磁器（近世）	
長崎遺跡 （第２地点）	集落跡	奈良・平安	なし	土師器・須恵器（奈良・平安）	
都鄙反遺跡 （第１地点）	古墳／集落跡	古墳・近世	周溝１（古墳後），溝１（不明），道路状遺構（近世ヵ），ピット・土坑（不明）	円筒埴輪・形象埴輪・陶磁器	
西原古墳群 （第13地点）	古墳群	縄文・古墳・奈良・安・近世	周溝１	剥片（縄文）・縄文土器，凝灰岩片（古墳），土師器・須恵器（奈良・平安），瓦（近世）	円墳の周溝が１条確認され，周溝内部から凝灰岩片が出土したことから，凝灰岩の切石等を使用した横穴式石室を持つ内径16.0m，外形21.0mであったことが判明した。
東 前遺跡 （第１地点）	集落跡	弥生・奈良・平安・近世	竪穴住居跡７（奈良・平安・不明），土坑２（近世）	土師器・須恵器（奈良・平安），陶磁器（近世）	
開 宮 前遺跡 （第１地点）	集落跡	縄文	なし	縄文土器（中期）	
舞台遺跡 （第４地点）	集落跡	古墳	竪穴住居跡１（古終）	土師器・須恵器（奈良・平安）	古墳時代の集落の一部を初めて確認した。
堀遺跡 （第11地点）	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡２（奈良・平安）	土師器・須恵器（奈良・平安）	
堀遺跡 （第12地点）	集落跡	縄文・奈良・平安・近世	土坑４（奈良・平安），畝１（近世）	縄文土器・土師器（奈良・平安）	
町 谷遺跡 （第１地点）	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安	竪穴住居跡３（古前），道路状遺構１（奈良・平安）	弥生土器（後期），土師器（古前）	那賀郡衙と平津駅家を結ぶ連絡道の可能性が高い直線道路が確認された。
水戸城跡 （第10次）	城館跡	中世・近世	竪穴状遺構２（不明），土坑３（不明），ピット37（中世）	土師器・須恵器（奈良・平安），土師質土器（中世），瓦質土器（近世），礫	ピットのうち３基については柱穴であることが確認された。
水戸城跡（旧弘道館） （第13・15次）	城館跡	近世・近代	土坑４（近世），柱穴１（近世）	陶磁器（近世），ガラス板（近代）	
水戸城跡 （第14次）	城館跡	近世	なし	陶磁器（近世）	水戸城跡内では初見となる色絵皿に花鳥蒲文長皿が２個体分出土した。
元石川大谷遺跡 （第１地点）	集落跡	縄文・古墳・平安・近世	溝跡２（不明），道路状遺構１（不明），竪穴住居跡３（古後２，平安１），掘立柱建物跡１（近世）	縄文土器（後期）・土偶片錘（縄文），土師器（古後・平安），須恵器・灰釉陶器・墨書土器・不明鉄製品（古後・奈良・平安），獣木遺宝（近世）	古墳時代後期の集落は本遺跡の東側に隣接する森戸古墳群を築造した集団の集落の一部であった可能性が高い。平安時代の集落は，本遺跡の北西に隣接する小仲根遺跡と一連のものとみられる。
若 林遺跡 （第２地点）	集落跡	縄文・近代	土坑１（近代）	土師器（中期）	
渡里町遺跡 （第４地点）	集落跡	奈良・平安	土坑１（奈良・平安），ピット７（奈良・平安・不明）	土師器・須恵器（奈良・平安）	
渡里町遺跡 （第７地点）	集落跡	奈良・平安	なし	土師器・須恵器（奈良・平安），焼礫２	

※ 北緯・東経は世界測地系による。

水戸市埋蔵文化財調査報告

第１集　**台渡里廃寺跡**—範囲確認調査報告書—　2005 年３月発行
第２集　**台渡里廃寺跡**
—市道常磐 17 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）—　2005 年４月発行
第３集　**大鋸町遺跡**
—グランディヒル丈元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2005 年８月発行
第４集　**台渡里廃寺跡**
—市道常磐 17 号線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（2）—　2006 年３月発行
第５集　**台渡里遺跡**—集合住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2006 年３月発行
第６集　**吉田古墳Ⅰ**—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第３次調査報告書—　2006 年３月発行
第７集　**大鋸町遺跡（第３地点）**
—市道浜田 207 号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2006 年３月発行
第８集　**圷遺跡（第３地点）**
—ヴィヴァンコート赤塚建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2007 年３月発行
第９集　**圷遺跡（第４地点）**
—プランタンコリーヌⅡ建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2007 年３月発行
第 10 集　**吉田古墳Ⅱ**
—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第１号墳の第３次発掘調査報告書—　2007 年３月発行
第 11 集　**平成 17 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書**　2007 年３月発行
第 12 集　**アラヤ遺跡（第２地点）**
—市道常磐 10 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2007 年３月発行
第 13 集　**米沢町遺跡（第５地点）**
—住宅展示場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2007 年３月発行
第 14 集　**大串遺跡（第７地点）**
—介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2008 年３月発行
第 15 集　**台渡里遺跡（第 39 次調査）**
—公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2008 年３月発行
第 16 集　**渡里町遺跡（第５地点）**
—市道常磐 31 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2008 年６月発行
第 17 集　**渡里町遺跡（第６地点）**
—市道常磐 34，275 号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2008 年６月発行
第 18 集　**薄内遺跡**—移動体通信基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2008 年８月発行
第 19 集　**堀遺跡（第９地点）**—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2008 年９月発行
第 20 集　**元石川大谷原遺跡**—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2008 年 12 月発行
第 21 集　**台渡里１**—平成 18 年度長者山地区範囲確認調査概報—　2009 年３月発行
第 22 集　**平成 18 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書**　2009 年３月発行
第 23 集　**吉田古墳Ⅲ**
—史跡整備計画に伴う吉田古墳群第１号墳の第４・５次発掘調査報告書—　2009 年３月発行
第 24 集　**町付遺跡（第１地点）**—共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年３月発行
第 25 集　**東組遺跡（第１地点）**—物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年３月発行

第 26 集　**荷鞍坂遺跡（第 1 地点）**
—コンビニエンスストア建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年 3 月発行
第 27 集　**大鋸町遺跡（第 8 地点）**—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年 3 月発行
第 28 集　**雁沢遺跡（第 1 地点）**—工場建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年 3 月発行
第 29 集　**渡里町遺跡（第 7 地点）**
—市道常磐 23，31，307 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年 6 月発行
第 30 集　**台渡里 2**
—市道常磐 283 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（台渡里第 51 次）—　2009 年 6 月発行
第 31 集　**若林遺跡（第 1 地点）**—宅地分譲工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年 8 月発行
第 32 集　**堀遺跡（第 16 地点）**
—市道渡里 48 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（1）—　2009 年 10 月発行
第 33 集　**堀遺跡（第 18 地点）**
—市道渡里 31，41 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年 11 月発行
第 34 集　**堀遺跡（第 17 地点）**
—市道渡里 35 号線公共下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—　2009 年 12 月発行
第 35 集　**平成 19 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書**　2010 年 3 月発行

水戸城跡　三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書　2006 年 9 月発行

水戸市埋蔵文化財調査報告　第 35 集

平成 19 年度水戸市内遺跡発掘調査報告書

印刷　平成 22 年 3 月 19 日
発行　平成 22 年 3 月 19 日
編集　水戸市教育委員会
発行　水戸市教育委員会
印刷　株式会社光和印刷
水戸市元吉田町 1823-22
TEL　029-247-4362